

○業務上過失致死傷並業務上過失列車顛覆破壞被告事件

(昭和十五年(九)第六八四號
同年八月二十二日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 江川伊三郎 辯護人 土屋 忠

【第一審】 安濃津區裁判所 【第二審】 安濃津地方裁判所

○判示事項

「ガソリンカー」ト刑法第二百二十九條ノ適用

○判決要旨

刑法第二百二十九條ノ汽車ナル用語ハガソリンカーヲモ包含スルモノトス

【參照】 刑法第二百二十九條 過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又

ハ汽車、電車ノ顛覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆没若クハ破壞ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ禁錮四月ニ處ス但シ原審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十四年八月末中勢鐵道株式會社ノ乗務機關手トナリ爾來同會社經營ノ中勢鐵道岩田橋驛久居驛間及久居驛伊勢川口驛ニ於ケル汽車運轉ノ業務ニ從事シ其ノ業務區間ニ於ケル線路ノ狀態並ニ汽車運轉ニ關スル諸規定殊ニ線路ノ曲線ニ因ル制限速度ヲ熟知シ從テ常ニ線路ノ實狀ニ適應スル運轉ヲ爲シ以テ汽車運轉上ノ事故發生ヲ未然ニ防止シ安全ニ目的地ニ達セシムヘキ職責ヲ有スルモノナルトコロ同年十一月一日久居驛ニ於テ上リ岩田橋驛行第十列車定員五十人乗大型半鋼製ボギー式ガソリンカーニ機關手トシテ乗務シ乘客九十餘名ヲ滿載シ午前七時二十八分頃久居驛ヲ發車シタルカ同驛發車定時刻カ午前七時二十二分ニシテ約六分ノ遅發ナリシヨリ遅延時間ノ回復ニ努メ速力ヲ増大シテ時速三十四、五軒ノ高速度ニテ疾走ヲ續ケ相川驛ヲ通過シ二重池驛ニ向フ途中津市大字垂水地内通稱Sカーブニ差蒐ルヤ右カーブ曲線度急ニシテ常ニ制限速度時速十五軒以内ニテ運行スヘキモノナルコトヲ知悉セルニ拘ラス遅延時間ノ回復ニノミ心ヲ奪ハレ僅カニ速度ヲ緩メタル時速二十七、八軒ノ高速度ニテ漫然慕進ヲ續ケタル爲メ午前七時三十五分頃右Sカーブニ於テ該曲線ニ適セサル過速度運轉ニ因リ該ガソリンカーヲ顛覆セシメ冷却機其ノ他ヲ破壞シタル上乗客ナル三重縣立津高等女學校生徒前川しづ(當十五年)及柵橋美代子(當時十四年)ヲ各死ニ致シ同校生徒

「ガソリンカー」ト刑法第二百二十九條ノ適用

奥田たけ子(當時十六年)ニ左腕關節及時關節捻挫ニ因ル治療二週間ヲ要スル負傷ヲセシメタル外同校生徒並ニ津市立高等女學校生徒一般乗客等八十數名ニ夫々重輕傷ヲ負ハシメタルモノナリ
法律ニ照スニ被告人ノ所爲中業務上過失致死ノ點ハ刑法第二百一十一條ニ該當シ過失ニ因ル汽車顛覆破壞ノ點ハ同法第二百二十九條第二項ニ該當スルトコロ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルニヨリ同法第五十四條第一項前段第十條ニヨリ犯情重キ業務上過失致死傷罪ノ刑ニ從ヒ禁錮刑ヲ選擇シ其ノ所定期間範圍内ニ於テ被告人ヲ禁錮四月ニ處シ原審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ハ刑法第二十一條ニヨリ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人土屋忠上告趣意書第一點ハ原判決ハ擬律ニ錯誤アリ(一)本件ハ被告人カ過失ニヨリ「ガソリンカー」ヲ顛覆破壞セシメタル事件ナルカ之ニ對シ原審ハ刑法第二百一十一條ノ他ニ同第二百二十九條ヲ適用シタリ(二)然レトモ刑法第二百二十九條ノ犯罪ノ客體ハ汽車、電車又ハ艦船ト明記シアリテ「ガソリンカー」ヲ含マス今日ノ社會實情ヨリ見テ「ガソリンカー」ヲ本條ニ列舉セサルコトハ明ニ權衡ヲ失スル憾アリト雖モ今日ノ社會通念上「ガソリンカー」ハ汽車ニモ電車ニモ非ス強ヒテ之ヲ本條ノ適用ニ限リ汽車ノ一種ト見做スカ如キハ極メテ無理ニシテ刑罰法規ノ解釋トシテハ不當ナリト云ハサルヘカラス之ヲ罰スルノ必要アルニ於テハ須ク刑法ノ條文ヲ改正スヘク或ハ自動車交通事業法第五十

七條航空法第五十二條ノ如ク特別法ヲ設クヘキモノナリ(改正刑法草案第二百七十七條ハ汽車、電車、索道車、自動車又ハ船舶ト明記セリ「ガソリンカー」ハ軌道自動車トシテ當然之ニ含マルルモノト解ス)(三)以上ノ點ヨリ見テ本件ニ刑法第二百二十九條ヲ適用シタル原判決ハ破壞セラルヘキモノト信スト云フニ在リ

仍テ審按スルニ刑法第二百二十九條ニハ其ノ犯罪ノ客體ヲ汽車、電車又ハ艦船ト明記シアリ而モ汽車ナル用語ハ蒸氣機關車ヲ以テ列車ヲ牽引シタルモノヲ指稱スルヲ通常トスルモ同條ニ定ムル汽車トハ汽車ハ勿論本件ノ如キ汽車代用ノ「ガソリンカー」ヲモ包含スル趣旨ナリト解スルヲ相當トス蓋シ刑法第二百二十四條乃至第二百二十九條ノ規定ヲ設ケタル所以ノモノハ交通機關ニ依ル交通往來ノ安全ヲ維持スルカ爲メ之カ防害ト爲ルヘキ行爲ヲ禁シ以テ危害ノ發生ヲ防止セントスルニ在ルコト勿論ナレハ汽車ノミヲ該犯罪ノ客體ト爲シ汽車代用ノ「ガソリンカー」ヲ除外スル理由ナキノミナラス右兩者ハ單ニ其ノ動力ノ種類ヲ異ニスル點ニ於テ重ナル差異アルニ過キスシテ共ニ鐵道線路上ヲ運轉シ多數ノ貨客ヲ迅速安全且ツ容易ニ運輸スル陸上交通機關ナル點ニ於テ全然其ノ揆ヲ一ニシ現ニ國有鐵道運轉規定軌道建設規程等ニ於テモ自動車ハ蒸氣機關車及客車ニ準シテ之ヲ取扱ヒ居レル事實ニ徴スルモ之カ取締ニ付テモ亦兩者間何等ノ差等ヲ設クヘキ理據アルコトナク又均シク交通機關タルモ航空機及自動車ノ如ク前記法條所定ノ目的物ニ包含スルモノト解スルヲ得サルモノニ付テハ夫々特別法ヲ設ケ航空

【要旨】

「ガソリンカー」ト刑法第二百二十九條ノ適用

法第五十二條自動車交通事業法第五十七條ニ於テ刑法第二百二十九條ト同趣旨ノ罰則ヲ定メ居ル事實ニ
徴スルモ前記解釋ノ相當ナルコトヲ了知スルヲ得ヘケレハナリ然ラハ原判決カ右ト同趣旨ノ解釋ノ下
ニ判示所爲ニ對シ同法條ヲ以テ間擬シタルハ正當ニシテ所論ノ如ク擬律錯誤ノ違法アルモノト謂フヘ
カラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事下田勝久關與

○輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反被告事件

(昭和十五年(九)第七三三號
同年九月五日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 西 岡 要 辯護人 岡 本 義 男
【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判 示 事 項

輸 入 品 タ ル 故 鋼 (古 レ ー ル) ト 昭 和 十 三 年 商 工 省 告 示 第 二 百 六 十 一 號
ノ 適 用

○判 決 要 旨

昭 和 十 三 年 商 工 省 告 示 第 二 百 六 十 一 號 ニ 規 定 ス ル 故 又 ハ 屑 ノ 鐵 ノ
内 ニ ハ 輸 入 品 タ ル 故 鋼 (古 レ ー ル) ヲ 包 含 ス ル モ ノ ト ス

輸 入 品 タ ル 故 鋼 (古 レ ー ル) ト 昭 和 十 三 年 商 工 省 告 示 第 二 百 六 十 一 號 ノ 適 用

【參照】昭和十三年商工省告示第二百六十一號 故又ハ屑ノ鐵ノ最終販賣價格故又ハ屑ノ鐵ヲ原料トシテ使用スル者ニ販賣スル價格)

- 一 故又ハ屑ノ鋼
 - 甲 熔解用
 - イ 平爐用 一 越 百 圓
 - ロ 電氣爐用 一 越 百 十 圓
 - 乙 伸鐵用(拔物用及押物用ヲ含ム)
 - 一 越 百 十 圓
 - 二 故又ハ屑ノ鐵(鑄物ヲ含ム) 一 越 百 十 圓
- 昭和十三年商工省令第九十七號鐵屑配給統制規則第一條 本則ニ於テ鐵屑トハ本邦内ニ於テ發生シタル鋼又ハ鉄ノ屑又ハ故ヲ謂フ
- 昭和十三年商工省告示第二百九十四號 昭和十三年七月商工省告示第二百八號中左ノ通改正ス
- 第二十三項ヲ左ノ如ク改ム
- 二十三 故又ハ屑ノゴム(輸入品ヲ除ク)
- (其ノ他省略)

○事實

第二審判決ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金五千圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二十五圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ古鐵商ヲ營ミ居ルモノナルトコロ昭和十三年十一月十日頃ヨリ昭和十四年一月十六日頃迄ノ間數回ニ互リ大阪市内ニ於テ故鋼ヲ業務用ノ原料トシテ使用スル伸鐵業菱田要太郎同臨港製鐵株式會社及同株式會社大阪製鋼所ニ對シ法定ノ除外事由ナキニ拘ラス商工大臣ノ指定物品タル故鋼(古レール)合計百二十四越九百七十越ヲ同大臣指定ノ伸鐵用最終販賣價格一越百三十圓ヲ超ユル對價タル一越百七十圓乃至二百三十圓替ナル代金合計二萬六千六百四十三圓七十四錢(超過額合計一萬三百九十餘圓)ニテ夫々伸鐵用トシテ販賣シタルモノニシテ右所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條第五條價格等統制令第十九條物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年商工省告示第二百六十一號刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金五千圓ニ處シ刑法第十八條ニ則リ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二十五圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人岡本義男上告趣意書第一點原審判決ニ於テ認定セラレタル事實ニヨレハ「被告人ハ古鐵商ヲ營ミ居ルモノナルトコロ昭和十三年十一月十日頃ヨリ昭和十四年一月十六日頃迄ノ間數回ニ互リ大阪市内ニ於テ故鋼ヲ業務用ノ原料トシテ使用スル伸鐵業菱田要太郎同臨港製鐵株式會社及同株式會社大阪製鋼所ニ對シ法定ノ除外事由ナキニ拘ラス商工大臣ノ指定物品タル故鋼(古レール)合計百二十四越

九百七十瓦ヲ同大臣指定ノ伸鐵用最終販賣價額一匁百三十圓ヲ超ユル對價タル一匁百七十圓乃至二百三十圓替ナル代金合計二萬六千六百四十二圓七十四錢ニテ夫々伸鐵用トシテ販賣シタルモノニシテ云々」ト云フニアリ然ルニ昭和十二年法律第九十二號ニ基ク非常措置ニ關スル事項鐵屑ニ關スル事項ニシテ鐵屑配給統制規則(昭和十三年十一月二十一日商工省令第九七號)第一條ニ「本則ニ於テ鐵屑トハ本邦内ニ於テ發生シタル鋼又ハ鐵ノ屑又ハ故ヲ謂フ」トアリ之ニ依ツテ之ヲ見レハ被告人ノ販賣シタル故鋼(古レール)モ亦本邦内ニ於テ發生シタルモノナラサルヘカラサルニ被告人ノ販賣シタル故鋼(古レール)ハ北米合衆國ヨリ輸入セラレタル古レールニシテ本邦内ニ於テ發生シタルモノニアラス昭和十三年商工省告示第二百六十一號ニ指定シ居レル故又ハ屑ノ鋼モ亦本邦内ニ於テ發生シタルモノノヲ指定シ居レルモノニシテ輸入品ハ包含サレ居ラサルコトハ明カナル事實ナリ然ルニ原審ニ於テハ此ノ點ニ關シ何等ノ審究ヲ爲サス又何等理由ヲ付セサルハ審理不盡若クハ理由不備ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

按スルニ昭和十三年商工省令第九十七號鐵屑配給統制規則及同年同省令第五十六號物品販賣價格取締規則ハ均シク昭和十二年法律第九十二號輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條ノ規定ニ依リ定メラレタルモノナレトモ鐵屑配給統制規則ハ國內鐵屑ノ配給調整ニ關スル基本的事項ヲ決定シ統制會社ヲシテ之ヲ實施セシムル目的ノ下ニ定メラレタルモノニシテ輸入鐵屑ニ付テハ既ニ屑鐵共同購

【要旨】

買會ニ於テ統制シタル關係上特ニ本則ノ適用ヨリ除外スルコトヲ明定セルモノニ係リ一方前記物品販賣價格取締規則第一條ノ規定ニ依リ定メラレタル昭和十三年商工省告示第二百六十一號ハ物價ノ昂騰ヲ抑止スル目的ヲ以テ故又ハ屑ノ鐵ノ最終販賣價格ヲ定メタルモノニシテ當該物品カ國內產タルト輸入品タルトヲ區別セス一樣ニ同告示ノ適用ヲ受クルモノナルコトハ同シク物品販賣價格取締規則第一條ノ規定ニ依リテ定メラレタル昭和十三年商工省告示第二百九十四號ニ於テハ故又ハ屑ノゴムニ付特ニ輸入品ヲ除ク旨明記セルニ拘ラス故又ハ屑ノ鐵ニ付テハ前記告示ニ斯ノ如キ除外例ヲ定メサル所ヨリスルモ明カナルヲ以テ鐵屑配給統制規則ノ適用ヲ受クル鐵屑ヲ以テ商工省令第二百六十一號ノ適用ヲ受クル鐵屑ヲ律セントスル所論ハ當ラス然ラハ原判示所爲ニ對シ判示ノ擬律ヲ爲シタル原判決ハ正當ニシテ此ノ點ニ關シ原審竝ニ原判決ニ所論違法ノ點アリト爲スヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事柴碩文關與

○輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反被告事件

(昭和十五年(九)第三二一號
同年九月七日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 大島長吉 辯護人

高谷清一
清瀬一太郎
北村金太郎
古賀元吉

【第一審】 神戸區裁判所 【第二審】 神戸地方裁判所

○判示事項

ゴム配給統制規則附則第三項違反罪及物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號違反罪ノ罪質——確定略式命令ヲ經タル犯罪ト該命令發布後ニ犯サレタル同一罪名ノ犯罪トノ關係——昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號兵庫縣物品販賣價格指定ノ件第八項末尾備考ノ趣旨

○判決要旨

一 ゴム配給統制規則附則第三項違反罪ト物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號違反罪トハ其ノ罪質

ヲ異ニシ從テ連續犯ヲ以テ論スヘキモノニ非ス【要旨第一】

二 或犯罪ニ付略式命令ノ發布アリ該命令確定シタル場合ニ於テハ該命令發布後同一罪名ノ犯罪力犯サルルモ連續犯ヲ以テ論スヘキモノニ非ス【要旨第二】

三 昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號兵庫縣物品販賣價格指定ノ件第八項末尾備考ハ藥品處理方法ニ係ル再生ゴムノ最終販賣最高價格ヲ指定シタルモノト解スルヲ相當トス【要旨第三】

【參照】 輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條 政府ハ支那事變ニ關聯シ

國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲テ必要アリト認ムルトキハ輸入ノ制限其ノ他ノ事由ニ依リ需給關係ノ調整ヲ必要トスル物品ニ付左ノ措置ヲ爲スコトヲ得

一 命令ノ定ムル所ニ依リ當該物品ヲ原料トスル製品ノ製造ニ關シ必要ナル事項ヲ命シ又ハ制限ヲ爲スコト

二 當該物品又ハ之ヲ原料トスル製品ノ配給、讓渡、使用又ハ消費ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコト

同第五條 第二條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分又ハ其ノ命令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
昭和十三年商工省令第五十五號ゴム配給統制規則附則第三項 本則施行ノ際現ニゴ

ゴム配給統制規則附則第三項違反罪及物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號違反罪ノ罪質、確定略式命令ヲ經タル犯罪ト該命令發布後ニ犯サレタル同一罪名ノ犯罪トノ關係、昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號兵庫縣物品販賣價格指定ノ件第八項末尾備考ノ趣旨

ムヲ所有スル者(工業者ヲ除ク)ハ本則施行ノ日ヨリ五日以内ニ商工大臣ノ指定スル價格ヲ以テ之ヲ配給機關ニ讓渡スヘシ

昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則第一條 商工大臣ノ指定スル物品ヲ販賣スル者ハ何等ノ名義ヲ以テスルナ問ハス其ノ指定ノ前日ニ於ケル販賣價格ヲ商工大臣又ハ地方長官カ販賣價格ヲ指定シタルトキハ其ノ販賣價格ヲ超ユル對價ヲ以テ當該物品ヲ販賣(指定前ニ爲シタル契約ニ依ル引渡ヲ含ム)スルコトヲ得ス但シ輸出スル場合、取引所ニ於テ賣買スル場合及已ムヲ得サル事由ニ依リ卸賣ニ付テハ商工大臣、小賣ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限りニ在ラズ

昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號兵庫縣物品販賣價格指定ノ件冒頭ノ文ト第八項 物品販賣價格取締規則第一條ノ規定ニ依リ販賣價格左ノ通指定ス

八 再生ゴム

品名、原料品名	單位	最終販賣價格	備考
チ ユ ー ア	一封度	〇、四一	
タ イ ヤ	"	〇、三三	
其 ノ 他	"	〇、二三	
自動車用中袋	"	〇、二七	
自動車用タイヤ	"	〇、二〇	薄出物ハ夫々上記價格ノ三錢高トス
自轉車用中袋	"	〇、一九	

地下足袋底	全靴	靴 甲	朝鮮白靴	赤枕
〇、一六〇	〇、一一五	〇、一三〇	〇、二〇五	〇、一四五

備考 藥品處理方法ニ依ル再生ゴムニ付テハアルカリリクレームト從來ノ格差ニ應シ之ヨリ低位ニ夫々其ノ價格ヲ決定スヘキモノトス

刑法第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

刑事訴訟法第五百三十三條 略式命令ハ正式裁判ノ請求期間ノ經過又ハ其ノ請求ノ取下ニ因リ確定判決ト同一ノ效力ヲ生ス正式裁判ノ請求ヲ棄却スル裁判確定シタルトキ亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ヲ認定シ法令ヲ適用シ被告人ヲ第一ノ罪ニ付罰金二百圓ニ第二ノ罪ニ付懲役二月ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ二十日間被告人ヲ勞役場ニ留置ストノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ肩書住居ニ於テ再生ゴムノ賣買業ヲ營ム者ナルトコロ兵庫縣物品販賣價格指定ノ件(昭和十三年十月十五日)

五五三 (1112)

ゴム配給統制規則第三項違反罪及物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年兵
庫縣告示第八百五十五號違反罪ノ罪實 確定略式命令ヲ經タル犯罪ト該命令發布
後ニ犯サレタル同一罪名ノ犯罪トノ關係 昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號
兵庫縣物品販賣價格指定ノ件第八項末尾「備考」ノ趣旨

兵庫縣告示第八百五十五號)ニ依リ再生ゴムノ最終販賣價格ハ孰レモ一封度ニ付テチューブノアルカリクレーム金四十一錢タイヤノアルカリクレーム金三十三錢其ノ他ノアルカリクレーム金三十三錢自轉車用タイヤノオイルリクレーム金二十錢藥品處理方法ニ依ル再生ゴムニ付テハアルカリクレームトノ從來ノ格差ニ應シ之ヨリ低位ニ夫々其ノ價格ヲ決定スヘキモノト公定セラレ右處理方法ニ依ル再生ゴムトアルカリクレームトノ間ニハ從來一錢ノ格差アリタルヲ以テ該處理方法ニ依ルタイヤノ再生ゴムハ金三十二錢ヲ超エテ之ヲ販賣スルコトヲ得サルニ拘ラス商工大臣又ハ地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ孰レモ神戸市内ニ於テ

第一 昭和十四年一月二十七日ヨリ同年四月十四日迄ノ間十三回ニ互リ孰レモ再生ゴムヲ原料トシテ使用スルゴム底布靴製造業者ナル同市林田區若松町二丁目合資會社國方ゴム製造所(代表者國方要平)外二名ニ對シ藥品處理方法ニ依ルタイヤノ再生ゴム合計一萬二千八百封度ヲ一封度ニ付金三十三錢ノ割合ニテ販賣シ

第二 (一) 同年四月二十一日ヨリ同年同月二十九日迄ノ間三回ニ互リ孰レモ再生ゴムヲ原料トシテ使用スルゴム底布靴製造業者ナル同市同區庄田町一丁目マスマヤゴム製造所專平川政市外一名ニ對シ藥品處理方法ニ依ルタイヤノ再生ゴム二百封度ヲ一封度ニ付金三十三錢同チューブノ再生ゴム合計四千四百八十封度ヲ一封度ニ付金五十錢ノ各割合ニテ販賣シ

(二) 同年五月十三日再生ゴムヲ原料トシテ使用スルゴム底布靴製造業者ナル同市同區千歲町三丁目吉田豐三ニ對シ自動車用タイヤノオイルリクレーム二千五百封度ヲ一封度ニ付金三十八錢ノ割合ニテ販賣シ

(三) 同年同月十六日前記合資會社國方ゴム製造所ニ對シチューブノアルカリクレーム千八百封度ヲ一封度ニ付金五十六錢ノ割合ニテ販賣シ

タリ

而シテ右第一竝第二ノ各所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ所爲ハ價格等統制令附則第十九條第一項第三項輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條物品販賣價格取締規則第一條兵庫縣物品販賣價格指定ノ件(昭和十三年十月十五日縣告示第八百五十五號)前記臨時措置ニ關スル法律第五條刑法第五十五條ニ該當シ尙被告人カ昭和十四年四月七日神戸區裁判所ニ於テ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律ニ配給統制規則違反ノ罪ニ因リ罰金六百圓ニ處セラレ同年同月十八日右裁判ノ確定シタルモノナルコトハ被告人ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ據リ明白ニシテ之ト判示第一ノ罪トハ刑法第四十五條後段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第五十條ニ從ヒ未タ裁判ヲ經サル判示第一ノ罪ニ付所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ二十日間被告人ヲ勞務場ニ留置シ判示第二ノ所爲ハ價格等統制令附則第十九條第一項第三項輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條物品販賣價格取締規則第一條兵庫縣物品販賣價格指定ノ件(昭和十三年十月十五日縣告示第八百五十五號)前記臨時措置ニ關スル法律第五條刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二月ニ處スヘキモノトス

主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理 由

辯護人高谷清一郎上告趣意書第一點本件被告ハ昭和十四年四月十八日神戸區裁判所ニ於テ原料ゴムノ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反事件ニテ罰金六百圓ニ處セラレ已ニ之カ執行ヲ終了シ

ゴム配給統制規則附則第三項違反罪及物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號違反罪ノ罪實 確定略式命令ヲ經タル犯罪ト該命令發布後ニ於テ被告ノ罪實ノ關係 昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號

タリ而シテ本件起訴事實ハ同年一月二十七日以降同年五月十六日ノ間ニ敢行シタルモノニシテ連續一罪ヲ以テ處斷セラルヘキモノナルコトハ茲ニ言ヲ要セス然ラハ本件モ亦輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反トシテ起訴ヲ受ケタルモノニシテ曩ノ原料ゴムニ對スル輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反ト同種ナル事實ハ一點疑ナシ然ラハ本件起訴事實ニ付テハ前掲神戸區裁判所ニ於テ言渡ヲ受ケタル處刑中ニ吸收セラルルヲ以テ原審判決ハ當然無罪ノ宣告ヲ爲ササル可カラサルニ拘ラス此ノ點ニ對スル判斷ヲ逸脫シタルハ重大ナル法律違反ト謂フ可ク從テ原審判決破毀ノ上適當ノ御裁判相仰候 (昭和十五年三月十二日言渡大審院第三刑事部昭和十四年 (れ) 第九九三號判決) ト云ヒ辯護人清瀬一郎、北村金太郎上告趣意書第一點原判決ハ既ニ確定判決ヲ經タル事實ニ付テ更ニ判決ヲ爲シタル違法ヲ包含ス原判決ノ判示シタル事實ハ之ヲ通覽スルニ被告人カ昭和十四年一月二十七日ヨリ同年四月十四日迄ノ間前後十三回ニ互リ神戸市内ノ再生ゴムヲ原料トスル製造業者ニ再生ゴム合計一萬二千八百封度ヲ法定價格ヲ超エタル價格ニテ賣渡シタルコト同年四月二十一日ヨリ同月二十九日迄ノ間三回ニ互リ同シク神戸市内ノ再生ゴムヲ原料トスル製造業者ニ再生ゴム二百封度及四千四百八十封度ヲ法定價格ヲ超エタル價格ヲ以テ販賣シタルコト同年五月十三日ニ同シク神戸市内ノ同様再生ゴムヲ原料トスル製造業者ニ再生ゴム二千五百封度ヲ是亦法定價格ヲ超過シタル代價ニテ賣渡シタルコト竝ニ同月十六日ニ是亦同様神戸市内ノ再生ゴムヲ原料トスル製造業者ニ再生ゴム千八百封度

ヲ法定價格ヲ超エタル價格ニテ賣渡シタルコトヲ取上ケ右ハ孰レモ意思繼續ニ係ル犯罪ト認メタルモノナリ然ルニ原判決ハ更ニ法律適用ノ部ニ於テ被告人ハ昭和十四年四月七日神戸區裁判所ニ於テ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律ゴム配給統制規則違反罪ニ依リ罰金六百圓ニ處セラレ同年同月十八日裁判確定シタルコトヲ記載セリ而シテ右事件ノ何タルヤハ記録中ニ存在スル略式命令謄本ニ依リ之ヲ知ルコトヲ得之ニ依レハ右神戸區裁判所ノ判決ト言フハ被告人大島長吉カ神戸市林田區荻藻町七丁目ノ倉庫内ニインデアラバーニ屬スルF A Q 四千五百封度ヲ所有シ居リタルニ拘ハラズ昭和十三年七月九日ヨリ五日内ニ商工大臣ノ指定スル價格ヲ以テ配給統制機關ニ讓渡セス同年八月一日岡部好太郎ナル者ニ一封度ニ付金二圓三十錢合計一萬三百五十圓ニテ販賣シタルト云フニ在リテ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條第五條ゴム配給統制規則附則第三項ヲ擬シテ前記罰金ニ處セラレタルモノナルコト明ナリ即チ其ノ犯罪ノ性質ハ同シクゴムヲ法定價格以外ノ價格ニテ他ニ賣渡シタル事件ナルヲ以テ之ト本件ノ犯罪トハ意思ヲ繼續シタル同種同性質ノモノニシテ此等ハ本來連續的ノ一犯罪ナリト言フヘシ斯ノ如キ連續的犯罪ノ中途ニ於テ有罪判決ノ言渡アリタル場合ニ之ヲ如何ニ處理スヘキカハ既ニ御院昭和十四年 (れ) 第九九三號昭和十五年三月十二日御判決ノ事件ニ於テ其ノ解釋ヲ明カニセラレタリ即チ確定判決言渡迄ノ間ニ於ケル連續的犯罪全部ハ既ニ當時其ノ審理ノ對象ト爲リ得タルモノナルヲ以テ此ノ部分ニ付テハ既ニ審理ヲ終リタルモノト言フヘシ御院大正四年 (れ)

ゴム配給統制規則附則第三項違反罪及物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年兵
庫縣告示第八百五十五號違反罪ノ罪實 確定略式命令ヲ經タル犯罪ト該命令發布
後ニ犯サレタル罪名ノ關係 昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號
兵庫縣物品販賣價格指定ノ件第八項末尾「備考」ノ趣旨

決言渡ヲ限界トスヘシト在リ之ヲ略式命令ニ當テ徹ムレハ略式命令書ノ作成セラレタルトキヲ基準トシツレ迄ノ間ニ同性質ノ意思繼續ニ係ル同種事件ハ既ニ審判ヲ經タルモノト認ムヘク即チ本件ニ於テ第一事實トシテ擧ケラレタル事實ノ中昭和十四年四月七日迄ノ間ニ發生シタル事項ハ明カニ略式命令ニ依リ判決済ナリ原判決ハ此ノ部分ニ對シテハ宜シク刑事訴訟法第三百六十三條ヲ適用シ免訴ノ言渡ヲ爲スヘカリシモノナルニ拘ラス事茲ニ出テサリシハ明カニ右法條ヲ適用セサリシ違法ノ判決ナリト言ハサルヘカラス原判決ハ宜シク速カニ破毀セラルヘキモノナリト云フニ在リテ

神戸區裁判所ニ於テ被告人ニ對スル輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反被告事件ニ付昭和十四年四月七日被告人ヲ罰金六百圓ニ處ス該罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ百五十日間勞役場ニ留置スル旨ノ略式命令ヲ發シ同月十八日該命令ノ確定ヲ見タルコトハ當院ニ取寄セタル右被告事件ノ記録ニ徵シテ明カナル所ナリ然レトモ右略式命令ニ於テハ被告人カゴム配給統制規則施行ノ際インデアアラバーニ屬スルFAQ四千五百封度ヲ所有シ居タルニ拘ラス右規則施行ノ日ヨリ五日內ニ商工大臣指定ノ價格ヲ以テ之ヲ成規ノ配給機關ニ讓渡セサリシ所爲ヲ認定シ之ヲ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條ニ依リ制定セラレタル昭和十三年商工省令第五十五號ゴム配給統制規則附則第三項違反罪ナリトシ右同法第五條ニ依リ處罰シタルモノナルコト右略式命令書ノ記載ニ依リ

テ明白ナル(尤モ略式命令書犯罪事實記載ノ部ニハ前掲事實ノ次ニ被告人カ前掲物品ヲ本所規矩夫ヲ介シテ一封度ニ付金二圓三十錢ノ代金ニテ岡野好太郎ニ販賣シタル旨ノ判示アリト雖モ這ハ被告人カ前掲物品ヲ成規ノゴム配給機關ニ讓渡セサリシ事實ヲ明瞭ナラシムル爲附加記載セラレタルニ過キス當該裁判所ニ於テ該販賣行爲ヲ犯罪ナリト認定シタルモノニ非サルコトハ適用法條トノ對照上毫モ疑ナキ所ナリトス)ト共ニ原判示第一第二ノ各犯罪ハ藥品處理方法ニ依ルタイヤノ再生ゴム同チユーブノ再生ゴム自動車用タイヤノオイルクレーンムチユーブノアルカリクレーンムチユーブ等ノ各原判示數量ヲ執レモ昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號物品販賣價格指定ノ件ニ依リテ定メラレタル最終販賣價格ヲ超過シタル代金ニテ販賣シタルト云フニ在リテ即チ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條ニ依リ制定セラレタル物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號兵庫縣物品販賣價格指定ノ件違反罪ナルコト亦原判文上明白ナル處右ゴム配給統制規則附則第三項ハ同規則施行ノ際同規則ノ指定品ヲ所有スル者ニ對シ濫ニ需要者ニ讓渡シ若ハ自ラ恣ニ之ヲ使用スルコトヲ禁シ必ス之ヲ成規ノ配給機關ニ讓渡セシメ以テ配給機關ヲシテ公平妥當ナル配給ヲ爲サシメントスルノ趣旨ニ出テタルモノニシテ其ノ直接ノ目的ハ右指定品ノ配給ヲ公平妥當ニ行ハントスルニ存スルニ反シ右物品販賣價格取締規則第一條及右兵庫縣告示ノ趣旨ハ其ノ指定物品ノ販賣價格ヲ制限シテ之ヲ超過スル對價ヲ以テスル販賣ヲ禁止シ以テ是等物品ノ價格ノ不當ナル昂騰ヲ防遏セントスルニ在リテ其ノ

【要旨第一】

ゴム配給統制規則附則第三項違反罪及物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號違反罪ノ罪質 確定略式命令ヲ經タル犯罪ト該命令發布後ニ犯サレタル同一罪名ノ犯罪トノ關係 昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號兵庫縣物品販賣價格指定ノ件第八項末尾備考ノ趣旨 五五九 (二七)

直接ノ目的ハ當該物品ノ適正ナル價格ヲ維持スルコトニ存スルカ故ニ前者ノ違反罪ト後者ノ違反罪トハ全然其ノ罪質ヲ異ニスルモノト謂ハサルヘカラス夫レ爾リ原判示第一及第二ノ各犯罪ハ前出略式命令ヲ經タル犯罪ト連續犯ヲ以テ論スヘキモノニ非サルコト復タ多言ヲ須ヒス殊ニ原判示第一ノ犯罪事實中昭和十四年四月八日以後ノモノ及原判示第二ノ各犯罪(孰レモ前同年四月二十一日以後ノ犯行ニ係ル)ノ如キハ其ノ罪質如何ニ拘ラス其ノ犯行時ノ關係上前出略式命令ヲ經タル犯罪トハ連續犯タルコトヲ得サルモノタリ蓋シ或犯罪ニ付確定判決アリタル場合ニ該犯罪トノ間ニ連續犯ノ關係ヲ認メ得ルモノハ右ノ判決言渡前ニ犯サレタル犯罪ニ限ルモノニシテ其ノ後ニ犯サレタル犯罪ニ及ホスヘカラスアルコトハ當院屢次ノ判例ノ宣示スル所ニシテ(大正四年(レ)第三七一號同年四月二十九日判決昭和七年(レ)第一七一九號昭和八年三月四日判決昭和八年(レ)第二〇二〇號昭和九年三月十三日判決)此ノ理ハ確定判決ニ換フルニ確定略式命令ヲ以テスルモ亦淪ルヘキニアラス即チ或犯罪ニ付確定略式命令アリタル場合ニ其ノ略式命令ヲ經タル犯罪ト共ニ連續犯ヲ以テ論シ得ヘキモノハ該略式命令ノ發布以前ニ行ハレタル犯罪ニ限ルモノニシテ其ノ以後ニ行ハレタル犯罪ハ假令略式命令ヲ經タル犯罪ト連續ノ意思ニ出テ且同一罪名ニ觸ルル場合ト雖モ連續犯ヲ以テ論スヘキニ非ス然ルニ右原判示事實ハ前出略式命令發布以後ノ犯罪ニ係レハナリ以上説明ノ如ク原判示第一及第二ノ犯罪ハ孰レモ前出略式命令ヲ經タル犯罪ト連續犯ニ非ス從テ獨立シテ起訴及處罰ノ目的タルコトヲ得ルモノトス然レハ

【要旨第二】

之ト同一見解ニ出テタル原判決ハ至當ニシテ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス論旨孰レモ理由ナシ辯護人清瀬一郎、北村金太郎上告趣意書第二點原判決ハ商工省令タル物品販賣價格取締規則竝ニ之ニ基キ發セラレタル兵庫縣告示昭和十三年第八百五十五號ノ解釋ヲ誤リタル違法ノ判決ナリ本件被告事實中判示第一全部竝ニ其ノ第二ノ内一部ナル藥品處理方法ニ依ルタイヤノ再生ゴム一封度金三十三錢ノ割合ヲ以テ販賣シタルコトヲ以テ原判決カ昭和十三年兵庫縣告示第八五五號ニ違反セリト云フハ右告示ノ趣旨ノ誤解ナリ告示ノ全文ハ本上告趣意書ノ末尾ニ添附第一號トシテ之ヲ附録ス右告示ニハアルカリクレームタイヤノ一封度最終販賣價格〇圓三三〇ノ記事アリ右ハ各種タイヤノ古品ヲ原料トシアルカリヲ以テ處理シタル再生ゴム一封度ノ價格ヲ三十三錢ト公定シタルモノナリ然ルニ「備考」欄ニ「藥品處理方法ニ依ル再生ゴムニ付テハアルカリクレームノ從來ノ格差ニ應シ之ヨリ低位ニ夫夫其ノ價格ヲ決定スヘキモノトス」トノ文字在リ但シ右ハ告示ノ備考ニシテ物品販賣價格取締規則第一條ノ「販賣價格指定」ニハアラス更ニ此ノ方針ニテ指定スルトコロアルヘキ旨ノ注意書ナリ而シテ藥品處理ニ依ル再生ゴムナルモノハ實ニアルカリ處理ノ進化シタルモノニシテ其ノ品質之ヨリモ優良ナルヲ以テ實際ニアルカリクレームヨリ價格上ナルモ下ニハアラス從テ格差ニヨリ低位ノ指定ナルモノハ行ハレサリシナリ今此ノ事ヲ明カニスルタメ以下二三ノ事實ヲ説明スヘシ(一)再生ゴム製造方法竝ニ取引ノ狀態、再生ゴムトハ名ノ如ク一旦自動車タイヤ、ホース、地下足袋、水枕、其ノ他各

ゴム配給統制規則第三項違反罪及物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年兵
庫縣告示第八百五十五號違反罪ノ罪質 確定略式命令ヲ經タル犯罪ト該命令發布
後ニ犯サレタル同一罪名ノ犯罪トノ關係 昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號
兵庫縣物品販賣價格指定ノ件第八項末尾「備考」ノ趣旨

種ゴム製品ノ使用済ノモノヲ集メ來リ一旦硫化物其ノ他汚物ヲ排除シテゴム質ヲ回收 (reclaim) シ以テ生ゴムノ代用トナスモノナリ其ノ製法ハ古ゴムヲ油ヲ以テ處理スルノ方法最モ古ク行ハレタリ斯ノ方法ニ據リ回收セラレタル再生ゴムヲ「オイルリクレーム」ト稱スルコトアリ近年ゴム屑ニアルカリヲ作用セシメテ處理スル方法ヲ採用スル者アリ斯ノ方法ニ據リ回收セラレタル再生ゴムヲ「アルカリリクレーム」ト稱スルコトアリ更ニ熱ヲ作用セシメテ處理スル方法發明セラレ此ノ方法ニ據リ回收セラレタル再生ゴムヲ「ホツトリクレーム」ト稱スルコトアリ尙最近各種ノ藥品ヲ用ヒ再生スルノ方法發明セラレ優良ナル再生ゴムヲ獲ルニ至レリ此ノ方法ニ據ル再生ゴムカ即チ藥品處理ノ再生ゴムナリ再生ゴムノ原料ハ右ニ述ヘタルカ如ク本件各種ゴム製品ノ廢品ナルヲ以テ必スシモ其ノ内ノ一種ノミヲ用フルト言フカ如キ方法ニ出ツルコト能ハス二三種ノ混合ヲ生スル場合アリ又製造法ニ於テモ熱處理アルカリ處理等ノ方法ヲ用フルモ詳細ノ方法ハ各工場ノ祕密ニ屬ス以上ハ再生ゴム製造方法ノ大體ノ説明ナルカ一般商人竝ニ再生ゴム使用者 (例ヘハ地下足袋製造業者、運動靴製造業者、タイヤ製造業者ノ類) ハ實ハ如何ナル原料ヲ用ヒ如何ナル回收方法ニ依リタル再生ゴムナリヤヲ了知スルモノニアラス製造家ハ唯タ自家ノ製品ノ資料トシテ利用シ得ヘキモノヲ見本等ニ依リ買受クルニ過キス斯ノ如キ取引ノ間ニ自ラ或ハ飴 (飴色ヲ意味ス) トカ或ハ混飴トカちよこ (チヨコレイト色ノコト) トカ白トカ赤トカノ俗稱ヲ生シ此ノ稱呼ニ依リ取引セラル要スルニ再生ゴムナルモノハ製造工場ニ依リ區

區ノ材料ヲ區々ノ方法ニ依リ處理シ其ノ種類品質一定セス少クトモ從來ハ一定ノ規格ナク從テ格差ニ依ル相場ナルモノナカリシナリ (二) 告示發生ノ沿革、今時事變發生以來再生ゴム原料ノ輸入カ制限セラレタルトゴム原料カ軍需品ノ爲メ大量ニ使用セラレタルトニ依リ勢ヒ民間工場ニ於テ再生ゴムヲ用フルノ傾向ヲ馴致シ之カタメ品不足ヲ生スルト同時ニ一方再生ゴム製造ノタメノ原料タル屑ゴム使用藥品燃料工賃モ急騰シタルヲ以テ政府ハ再生ゴムノ價格ヲ統制スルノ必要ヲ感シ昭和十三年中其ノ方法ニ付中央物價委員會ニ調査ヲ命シタルトコロ同委員會ニ於テモ斯ノ如キ特殊商品ニ付テハ多ク知識ヲ有セス然レトモ事急ヲ要スルヲ以テ八月四日ニハ取敢ヘス次ノ如キ答申ヲ爲シタルモノナリ再生ゴムノ最終販賣價格ヲ左ノ通定ムルコト (單位一封度當リ)

(イ) アルカリリクレーム

原料品名

最終販賣最高價格

チユーブ

四 一 錢

タイヤ

三 三 錢

其他

二 三 錢

(ロ) オイルリクレーム

原料品名

最終販賣最高價格

原料品名

ゴム配給統制規則第三項違反罪及物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年兵
庫縣告示第八百五十五號違反罪ノ罪質 確定略式命令ヲ經タル犯罪ト該命令發布
後ニ犯サレタル同一罪名ノ犯罪トノ關係 昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號
兵庫縣物品販賣價格統制ノ件第八頁末尾「備考」ノ趣旨

自動車用中袋

二七錢

自動車用タイヤ

二〇錢

自轉車用中袋

一九錢

(薄出物ハ夫々右記價格ノ三錢高トス)

地下足袋底

一六錢

全靴

二錢五厘

靴甲

一三錢

朝鮮白靴

二〇錢五厘

赤枕

一四錢五厘

(備考)(イ)再生ゴムニ付テハ追テ各種ノ規格ノ決定ヲ俟テ更ニ詳細ナル類別ニ付夫々價格ヲ決定スヘキモノトス(ロ)藥品處理方法ニ依ル再生ゴムニ付テハアルカリクレームトノ從來ノ格差ニ應シ之ヨリ低位ニ夫々其ノ價格ヲ決定スヘキモノトス而シテ政府ハ此ノ答申ヲ基準トシテ各地方長官ニ命シ當時既ニ發布セラレ居リタル物品販賣價格取締規則(昭和十三年七月商工省令第六八號)第一條ニ依リ販賣價格ノ公示ヲ爲サシメタリ今回問題トナリタル昭和十三年十月十五日兵庫縣告示第八五五號ナルモノハ全ク此ノ答申其ノ儘ヲ採用シタルモノナリ(添附第一號)唯「備考」ノ欄ニ中央物價委

員會ノ答申ニハ(イ)及(ロ)ノ二項アレトモ兵庫縣告示ニハ(イ)ノ項ヲ缺ケリ然レトモ兵庫縣告示モ亦答申(イ)項ノ趣旨ヲ否定シタルモノニアラス現ニ右兵庫縣告示ト同一告示タル東京府告示第五七〇號ニハ前記(イ)項ニ相當スル條項ヲ存ス曰ク「再生ゴムニ付テハ追テ各種ノ規格ヲ決定シ更ニ詳細ナル類別ニ付夫々其ノ價格ヲ決定ス」ト右ニ依リ兵庫縣告示ノ備考欄ノ出所ハ自ラ判明スヘシ該備考ハ中央物價委員會カ政府ニ答申スル際ニ附シタルトコロノモノニシテ答申トシテハ備考ナルモノ必要ナリシナランモノノ法規トシテ告示ヲ發布スル場合ニ備考ト云フハ少シク穩カナラス答申備考ノ第一ハ追テ各種ノ規格ヲ決定シ更ニ詳細ナル類別ニ付價格決定ヲ爲スト云フコトナリシナリ備考ノ第二ハ是亦藥品處理方法ハ藥品ノ種類ニ依リ千差萬別ナルヲ以テ是亦追テ決定セラルヘキ意味ナリシコト明ナリ兵庫縣ハ其ノ二ノミヲ抜イテ告示ニ附記シタルモノナレトモ此ノ場合ニ於テモ兵庫縣告示ハヤハリ將來ハ藥品ノ種類ニ依リアルカリ處理ニ準シ格差ヲ附スヘシトノ豫告ナリト解セサルヘカラス然ラハ縣カ更ニ藥品ノ種類ニ依リ價格決定ヲ爲ス迄ノ間ハ民間トシテハ之ヲ如何ニ解釋スヘキカノ問題ヲ生ス右ハ一般法律解釋ノ原則ニ從ヒ立法者ノ意思ヲ善意ヲ以テ探求スルノ外ナシ元來「アルカリ」(實際ハ苛性曹達)ナルモノハ一種ノ藥品ナリ從テ藥品處理ハ其ノ藥品カ一般アルカリヨリ高價ナル藥品ナリヤ廉價ナル藥品ナリヤト云フ點即チ原價ニ著眼シタル事情ト藥品處理ノ再生ゴムカアルカリゴムノ再生ニ比シ優良ナリヤ粗惡ナリヤト云フ製品ノ品質ニ著眼シタル事情ヲ觀察シテ是等カ同

ゴム配給統制規則附則第三項違反罪及物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年兵
庫縣告示第八五五號違反罪ノ罪質 確定略式命令ヲ經タル犯罪ト該命令發布
後ニ犯サレタル同一罪名ノ犯罪トノ關係 昭和十三年兵庫縣告示第八五五號
兵庫縣物品販賣價格指定ノ件第八項末尾備考ノ趣旨

等ナルカ又ハ藥品處理カアルカリ處理ニ比シテ總テ高等ナラハ少クトモアルカリ處理ノモノト同一ノ最終價格ヲ用ヒテ可ナルヘキナリ實際當時ニ於ケル藥品處理ノ方法ハ一般アルカリ處理ニ優リ且ツ製品モ優良ナリシナリ果セル哉其ノ後昭和十四年十二月ニ至リ各府縣ノ指定價格ヲ廢シ商工省告示第三六八號ヲ發布セラレタルカ(添附第二號)右商工省告示ニハ原料ノ種別ハ存スレトモ處理方法ノ區別ハ之ヲ廢シタリ以テ處理方法カ苛性曹達ニ依リタルカ苛性曹達以外ノ藥品ニ依リタルカニ依リ價格ニ差異ナキコトヲ證シテ餘リアリ(三)始末書ノ記載ハ眞實ニ適合セス本件ノ記錄ヲ見ルニ被告人大島ノ昭和十四年六月二十日附ヲ以テ林田警察署長宛ニ提出シタル始末書ナルモノアリ右ニハ一號二號三號ノ表ヲ添附ス二號表ノ内販賣關係ト云フ欄ニハ公定價格ト云フ小欄ニ總テ「三二」ト記載シ恰モ被告カ「藥品處理ツレット薄出」ナル品ノ公定價格カ一封度三十二錢ナルコトヲ承認シタルカ如キ記事ト爲レリ然レトモ添附第一號ノ兵庫縣告示ニハ一封度三十二錢ト云フ公定價格アルニアラス又被告自身カ之ヲ決定スル權能ヲ有シタルニモアラス右ハ警察署ニ於テ藥品處理ハアルカリ處理ヨリ必ス低位ノ價格ヲ有セサルヘカラサルモノナリト斷定セラレ今日ノ金錢取引上最低位ノ貨幣ヲ一錢トシアルカリリクレームノ公定價格三十三錢ヨリ一錢ヲ減シ三十二錢トシテ表ヲ作ルヘキコトヲ命セラレタルタメ此ノ命ニ依リ作成シタル價格表ナルニ過キス今此ノ事ヲ明カニスルタメ始末書作成ノ經緯ニ付一言スルヲ要ス昭和十三年八月初旬ニ於テハ再生ゴムノ其ノ需要ノ激増ト原料及工賃ノ騰貴トニ依リ關西

方面ニ於テハ既ニ甚タシク騰貴シ居リタリ然レニ彼ノ中央物價委員會ニ於テハ此等取引ノ事情ヲ精査スルコトナク唯タ紙上ニテ前記引用ノ如キ答申ヲ作成シ殊ニ製產地タル東京ト消費地タル兵庫縣トノ間ニ運送費其ノ他ノ諸經費ノ差ヲ見込マシヤ物品ノ規格ハ後日ノ決定ニ任セ千差萬別ナル藥品處理ニ因ル製品ニ付テハ價格ヲ明定セス中間商人及消費者側ニ於テハ確知スル方法ナキ製造過程(アルカリ處理カソレ以外ノ藥品處理カト云フカ如キ)ニ基キ物品價格ヲ決定セントシ殊ニ甚タシキハ同一原料同一方法ニ據ルトキハ製品品質ノ高下ヲ問ハス又同一値トセラレタリ而シテ兵庫縣ヲ初メ他ノ各府縣ノ告示ハ之ヲ鵜呑ミニシテ告示ヲ發セラレタルカ故ニ中央物價委員會ノ最終販賣價格ヲ發表シタル直後即チ昭和十三年八月四日ニハ全國再生ゴム工業會ハ右價格更正ノ運動ヲ開始シ盛ニ商工省ニ陳情セリ之ニ對シ商工省當局ハ今回ノコトハ拙速主義ニ基キ爲サレタルモノナレハ不合理ナル點ハ他日必ス是正スヘシトノ回答ヲ與ヘタリ神戸市ニ於ケル同業者ハ引續キ縣當局ニ對シテモ此ノ公定價格ノ實施シ難キ旨ヲ陳情シ縣警察當局ニ於テモ此ノ實情ヲ承認セラレ再生ゴムノ取引ニ付テハ何等干涉セラレスシテ同年冬並ニ翌十四年春トナリタルカ故ニ此ノ問題ヲ解決スルタメ昭和十四年五月三十一日ニハ商工省令第二三號ヲ以テ從前存在シタルゴム配給統制規則ニ第二條ノ二ヲ加ヘ「再生ゴムノ製造業者ハ商工大臣ノ指定シタル者(以下再生ゴム配給機關ト稱ス)以外ノ者ニ再生ゴムヲ販賣スルコトヲ得ス云々」ト規定シ神戸市ニ於テハ再生ゴム販賣業者ヲ集メテ神戸市再生ゴム卸商業組合ナルモノ

ゴム配給統制規則附則第三項違反罪及物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年兵
庫縣告示第八百五十五號違反罪ノ罪質 確定略式命令ヲ經タル犯罪ト該命令發布
後ニ犯サレタル同一罪名ノ關係 昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號
兵庫縣物品販賣價格指定ノ件第八項末尾備考ノ趣旨

ヲ組織セシメ之ヲ前記ノ統制機關トナシ個々ノ商人カ個別ニ再生ゴムヲ販賣スルコトハ一切之ヲナササルコトトシ前年以來ノ難問題ハ茲ニ解決ヲ見タリ斯ノ如クシテ問題カ一段落ヲ告ケタル昭和十四年六月神戸市林田警察署ハ前記再生ゴム卸商業組合ニ對シ組合員全體ヲ集メラレタシトノ指圖アリ此ノ指圖ニ依リ業者ハ警察署ニ參集シタル處警察當局ハ業者ニ對シ從來ノ價格超過取引ハ一應書出サレタシ大體諸般ノ事情ヲ考慮シ穩便ナル處置ヲ爲シ置キタシトノコトナリ此ノトキハ統制機關成立シ最早ヤ個人ノ營業ハ終焉ヲ告クルトキナレハ過去八箇月間ノ問題ハ茲ニ一掃サルヘキモノト考ヘタルカ實ハ中間商人トシテハ取扱ヒタルゴムノ製法ナトハ之ヲ熟知セス單ニ俗稱ニ從ヒ記帳シ居ルニ過キス殊ニ過去ノコトナレハ品質等ハ既ニ忘却シ居リタリシヲ以テ警察當局トモ相談シ適當ナル種別ヲ作り之ニ取引代金ヲ記入シテ届出テタルモノ即チ本件始末書ナリ乃チ本件始末書ハ以上ノ經緯ヲ以テ作成セラレ事ノ眞實ヲ穿タントスルヨリハ速カニ事ヲ處置セントスルノ考ヨリ作成シタルモノニシテ今問題トスルトコロ以外ニ於テモ相當多數ノ不合理アリ次ノ論點ニ於テ指摘スル吉田豐三ニ對シテ販賣シタル再生ゴムニ關スル記事ノ如キモ其ノ内ナリ此ノ始末書ヲ標準トシテ爲シタル陳述ハ眞實ニアラサルナリ之ヲ要スルニ原判決ハ被告人カ取扱ヒタル藥品處理ノ再生ゴムノ法定價格ハ三十二錢ナリシモノト決定シ之ヲ適用シタルハ右告示及告示ノ基本トナリタル物品販賣價格取締規則ヲ誤解シタル違法アルモノナリト云ヒ辯護人古賀元吉上告趣意書第一點原審判決ニハ罪トナラサル事實ニ付之ヲ罪アリ

トシタル違法アリ即チ原審判決ハ藥品處理方法ニヨリ製造セラレタル再生ゴムニ關シ被告人ノナシタル取引カ昭和十二年十月十一日法律第九二號輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條第二號ニ基ク昭和十三年七月九日商工省令第五六號物品販賣價格取締規則第一條ニヨル昭和十三年十月十五日兵庫縣告示第八五五號兵庫縣物品販賣價格指定ノ件(八)再生ゴムニ關スル指定ノ價格ヲ超過シタリト判示シタルモ右兵庫縣ノ告示中ニハ藥品處理方法ニヨリ製造セラレタル再生ゴムノ最終販賣價格ノ指定アリト見ルヘキモノナキヲ以テ結局斯ル取引ハ罪ト爲ラサルモノナリト信ス查スルニ前記兵庫縣ノ物品販賣價格指定ノ件申記載ノ諸物價ノ指定ハ昭和十三年八月四日ノ中央物價委員會ノ決定ヲ基礎トシテ地方長官タル兵庫縣知事カ地方物價委員會ニ諮問シテ決定シタル價格ノ決定ナリト見ルヘキモノナルカ其ノ基礎トナリタル中央物價委員會ハ再生ゴムニ關シ左ノ如ク決定シタリ再生ゴムノ最終販賣價格ヲ左ノ通り定ムルコト(單位一封度當リ)

(イ) アルカリクレーム

原料品名

最終販賣最高價格

チユーロブ

四十一錢

タイヤ

三十三錢

其ノ他

二十三錢

五六九 (三)

(ロ) オイルリクレーム

五七〇 (180)

原料品名

最終販賣最高價格

自動車中袋

二十七錢

自動車用タイヤ

二十錢

自轉車用中袋

十九錢

(薄出物ハ夫々上記價格ノ三錢高トス)

地下足袋

十六錢

全靴

十錢五厘

靴用

十三錢

赤枕

十四錢五厘

(備考) (一) 再生ゴムニツイテハ追テ各種ノ規格ノ決定ヲナシサラニ詳細ナル類別ニツキソレソレ價格ヲ決定スヘキモノトス (二) 藥品處理方法ニヨル再生ゴムニ付テハアルカリリクレームトノ從來ノ格差ニ應ジソレヨリ低位ニソレソレ決定スヘキモノトス (三) 上記價格ヲ遵守セシムル爲古ゴムニ付テハ古ゴム問屋ヲ以テ組織スル商業組合ヲシテ撰別配給ノ統制等ヲ行ハシムルト共ニアルカリリクレームオイルリクレームノ製造業者ヲ以テ組織スルソレソレノ工業組合ヲシテ組合員ヘノ配當率ヲ定

メテ配給ノ統制ヲ行ハシムルコト(昭和十三年八月五日大阪朝日新聞所載) 右中央物價委員會ノ決定ノ備考欄ノ(一)及(二)ヲ對照スルトキハ藥品處理方法ニヨリ再生ゴムノ最終販賣最高價格ヲ將來決定スヘキ方針ヲ闡明シタルニ止マリ其ノ備考ヲ以テ藥品處理方法ニヨル再生ゴムノ最終販賣最高價格ヲ決定シタルモノト見ルヲ得ス更ニ其ノ(一)及(二)ト其ノ(三)トヲ對照シテ考フルトキハ這般ハ中央物價委員會ノ決定當時ニハ中央物價委員會ニ於テハ未タ藥品處理方法ニヨル再生ゴムノ將來ヘノ統制方針ヲ徹底的ニ考究シ居ラサリシコトヲ明ニスルコトヲ得ト信ス之ヲ再生ゴム製造ノ發達ノ過程ニ顧ミテ稽フレハ正ニ前記中央物價委員會カ藥品處理方法ニヨル再生ゴムニ關シ當時未タ其ノ統制方針ヲ確立シ得サリシ事情ヲ察スルニ餘リアリ事變ノ影響ニ依リテ原料ゴムノ輸入及配給カ嚴格ナル統制ノ下ニ置カレタルハ昭和十三年七月九日ノコトナリ(昭和十三年七月九日商工省令第五五號)而シテ斯ク原料ゴムカ嚴格ナル統制下ニ置カル迄ノ再生ゴムノ製造工業ハゴム工業界ニ於テハ第二次的ノ存在ニシテ未タ業界ノ注目ヲ惹クニ至ラサリシモノナリシ處原料ゴムノ統制カ強化セララルヤ俄然再生ゴムノ需要カ激増シ中央物價委員會モ急遽其ノ對策ヲ講セサルヲ得サルニ至リタル當時ノ實情ナリ且再生ゴムノ製造工業カゴム工業界ニ於ケル第二次的存在ナリシ丈ニ其ノ製造方法モ隨テ幼稚ニシテワツカニアルカリニヨル化學的工業ノ發達カ見ラレルニ止リ其ノ他ハ油ヲ古ゴムニ混シ加熱シテ以テ再生ゴムヲ製造スルト云フ寧ろ原始的トモ云ヒ得ヘキ製造方法カ行ハレタリシモノナリ然レト

ゴム配給統制規則第三項違反罪及物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年兵
庫縣告示第八百五十五號違反罪ノ罪質 確定略式命令ヲ經タル犯罪ト該命令發布
後ニ犯サレタル同一罪名ノ犯罪トノ關係 昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號
兵庫縣物品販賣價格指定ノ件第八項末尾「備考」ノ趣旨

五七一

(四)

モ原料ゴムノ統制強化ニ伴フ再生ゴムノ需要激増ハ必然的ニ優良再生ゴムノ需要ヲ促シタル爲再生ゴム製造業者モ其ノ製品ノ優良化ニ辛苦シテ精進シアルカリ性ノ反對ノ化學的性能タル酸性ヲ活用セントスル所謂藥品處理方法ニヨル再生ゴムノ製造ニ其ノ活路ヲ求メントシタルモノカ藥品處理方法ノ擡頭ナルヘシ隨テ再生ゴムノ品位ヲ論スルニ當リ當時必ラスシモアルカリ性藥品ヲ高價トシ酸性藥品ヲ低位ニ見ルヘキ筋合ニハ非サルヘキモ光位ノ發達過程ニ在リシアルカリクレーム程優秀ナル再生ゴムハ生レマシトノ見透シヨリシテ中央物價委員會カ將來規格ヲ定メ更ニ詳細ナル類別ニ付夫々價格ヲ決定スルニ當リ新ニ擡頭セントスル藥品處理方法ニヨル再生ゴムニ付テハアルカリクレームヨリモ多ク低位ニ之ヲ定ムヘシトノ方針ヲ決定シタルモノト解スルコト如上ノ如キ實情ニ照シ妥當ナリト信ススル中央物價委員會ノ決定ヲ基礎トシテ地方物價委員會ニ諮問シテ警視總監ハ前記中央物價委員會ノ決定シタル價格ト同様ナル告示ヲ爲シテ其ノ備考欄ニ左ノ如ク附加シタリ(一)再生ゴムニ付テハ追テ各種ノ規格ノ決定ヲ爲シ更ニ詳細ナル類別ニ付夫々價格ヲ決定スヘキモノトス(二)藥品處理方法ニヨル再生ゴムニ付テハアルカリクレームト從來ノ格差ニ應シソレヨリ低位ニ夫々決定スヘキモノトス右警視總監ノ告示ハ中央物價委員會ノ決定ノ備考欄ノ(一)及(二)ヲ其ノ儘告示シタルモノニシテ藥品處理方法ニヨル再生ゴムニ付テハ各種ノ規格ヲ決定シテ更ニ詳細ナル類別ニ付夫々價格ヲ決定スル場合ニ大體アルカリ處理方法ニヨル再生ゴムヨリモ多少低位ニ決定セントスル其ノ方針ヲ

闡明スル趣旨ヲ明カニシタリ之ニ次テ大阪府知事ハ昭和十三年八月十二日大阪府告示第九七〇號ノ二ヲ以テ再生ゴムノ最終販賣最高價格ヲ告示シタルカ其ノ内容ハ各項目ニ於テ大體中央物價委員會ノ決定ニ準シ只オイルクレームノ自動車用タイヤニ付之ヲ一封度金二十二錢ニ爲シ備考欄ハ一切之ヲ告示スル所ナシ右ハ物品販賣價格ノ告示ニハ將來ノ方針ノ如キハ告示スル必要ナシトノ見解ヲ採リタルモノト解スルコトヲ得然ルニ兵庫縣知事ハ昭和十三年十月十五日兵庫縣告示第八五五號ノ(八)ニ於テ中央物價委員會ノ決定通りノ價格ヲ告示シ其ノ備考欄ニ「藥品處理方法ニ依ル再生ゴムニ付テハアルカリクレームト從來ノ格差ニ應シ之ヨリ低位ニ夫々其ノ價格ヲ決定スヘキモノトス」ト告示シタリ然レトモ其ノ文言及「備考」ノ字句ニ照シ兵庫縣告示ノ趣旨モ亦中央物價委員會ノ決定警視廳ノ告示ト同様ニ解スヘキ必要論ヨリスレハ大阪府ノ告示ト同様ニ解スヘキコト當然ナルヘシ若シ兵庫縣告示自體カ藥品處理方法ニヨル再生ゴムニ關シ法定價格ヲ決定スヘキモノナリヤ否ヤヲ檢討センニ右文言ハ藥品處理方法ニ依ル再生ゴムニ付テハアルカリクレームトノ從來ノ格差ニ應シ夫レヨリ低位ニ夫々決定スヘキモノトストアリテ格差ヲ求ムヘキ標準タル特定年月日ヲ指定スル處無ク全ク據ルヘキ算定ノ基礎ヲ缺ク文言ナリ所詮其ノ告示ヲ以テ一定ノ數字ニ於ケル販賣價格ヲ指定シタルモノト解スルコトハ理論上不可能ナリ更ニ之ヲ兵庫縣ノ實情ニ照シ考フルニ兵庫縣特ニ再生ゴムノ取引ノ集中スル神戸市ハ經濟的ニモ金融ノ上ヨリモ將又商取引ノ實際ニ於テモ大阪市ト一體不可分ノ關係ニ

ゴム配給統制規則第三項違反罪及物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年兵
庫縣告示第八五十五號違反罪ノ罪質 確定略式命令ヲ經タル犯罪ト該命令發布
後ニ犯サレタル同一罪名ノ犯罪トノ關係 昭和十三年兵庫縣告示第八五十五號
兵庫縣物品販賣價格指定ノ件第八項末尾「備考」ノ趣旨

在ルモノナルコトハ周知ノ事實ナル處前叙ノ如ク大阪府ニ於テハ藥品處理方法ニ依ル再生ゴムノ最終
 販賣最高價格ヲ指定セスシテ之ヲ昭和十三年八月六日ノ商工省告示第二三〇號ニヨル昭和十三年八月
 四日ノ價格ニ放任シ兵庫縣ノミカアルカリクレームトノ從來ノ格差ニ應シテ低位ニ夫々決定スヘキ
 コトヲ法定價格トシテ決定シタリト解スルトキハ大阪府市ノ再生ゴム販賣業者ノミカ事實上藥品處理
 方法ニ依ル再生ゴムノ販賣ニ從事シ得ヘキコトナリ有機的ニ且合理的ニ解釋セラルヘキコトヲ解釋
 法ノ本質トスヘキ近時法學ノ趣旨ト背馳スル結果ヲ招來スヘク結局前顯兵庫縣告示ノ藥品處理方法ニ
 依ル再生ゴムニ關スル「備考」ハ法定價格ヲ決定シタルモノト解スルコトヲ得サルヘキコト洵ニ明カ
 ナリト信ス然ルニ原審判決カ藥品處理方法ニ依ル再生ゴムニ付被告人カ取引シタル各種ノ事實ニ付有
 罪ノ判示ヲ爲シタリシハ罪トナラサル事實ニ付之ヲ罪ナリトシタル違法アルモノニシテ破毀ヲ免レス
 ト信スト云フニ在レトモ

【要旨第三】

昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號第八項ノ末尾ナル所論「備考」ト冠セル法文ハ藥品處理方法ニ
 依ル再生ゴムノ販賣價格ヲ指定シタルモノニシテ其ノ趣旨ハ藥品處理方法ニ依ル再生ゴムノ販賣價格
 ハアルカリクレームニ依ル再生ゴムトノ從來ノ格差即チ藥品處理方法ニ依ル再生ゴムヲ販賣セムト
 スル商人カ右告示施行ノ最近過去ニ於テ實際取引シタル右兩品ノ販賣價格間ノ差額ニ應シ夫々アルカ
 リリクレームニ依ル再生ゴムノ公定價格（即チ同告示ニヨリテ定メラレタル販賣價格）ヨリ低位ニ

（例ヘハチユーブノ藥品處理方法ニ依ル再生ゴムノ販賣價格ハチユーブノアルカリクレームニ依ル
 再生ゴムノ公定價格ヨリ如上ノ差額タケ低クタイヤノ藥品處理方法ニ依ル再生ゴムノ販賣價格ハタイ
 ヤノアルカリクレームノ再生ゴム公定價格ヨリ如上ノ差額タケ低ク）之ヲ定メ同告示施行前商人ニ
 實際取引ナカリシ場合ニ於テ右格差ヲ定ムルニハ商人カ同告示施行ノ直前ニ販賣スヘカリシ價格ヲ以
 テ標準トスヘシト云フニアルモノト解スルヲ相當トシ該法文ヲ以テ所論ノ如ク單ニ將來販賣價格ヲ指
 定スヘキ方針ヲ豫告シタルニ過キサル趣旨ナリトナスカ如キハ決シテ當ヲ得タルモノニ非ス蓋シ右告
 示ハ昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則第一條ニ基キ商工大臣指定ノ物品ニ付其ノ
 販賣價格ヲ指定スル趣旨ヲ以テ發セラレタルモノナルコトハ該告示ノ首文ニ徴シ極メテ明白ナルト共
 ニ右「備考」ト題スル法文モ亦第八項ノ爾餘ノ部分及其ノ他ノ各項ト共ニ同告示ノ内容ノ一部ヲ成ス
 モノナルヲ以テ該法文ヲ以テ第八項爾餘ノ部分及其ノ他ノ各項カ夫々所掲ノ各物品ノ販賣價格ヲ指定
 シタルト同シク其ノ所掲ノ藥品處理方法ニ依ル再生ゴムノ販賣價格ヲ指定シタルモノト爲スハ極メテ
 自然ノ解釋ナルノミナラス既ニ右第八項ノ爾餘ノ部分ニ於テアルカリクレームニ依ル再生ゴムオイ
 ルリクレームニ依ル再生ゴム等ノ販賣價格ヲ指定シタル以上齊シク再生ゴムノ一種ナル藥品處理方法
 ニ依ル再生ゴムニ付テモ亦同時ニ其ノ販賣價格ノ指定アリタルモノト解スルヲ妥當トスヘク指定物品
 ノ販賣價格ヲ指定スル趣旨ヲ以テ發セラレタル右兵庫縣告示ノ一部ヲ以テ單ニ將來販賣價格ヲ指定ス

ゴム配給統制規則第三項違反罪及物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年兵
 庫縣告示第八百五十五號違反罪ノ罪質、確定略式命令ヲ經タル犯罪ト該命令發布
 後ニ犯サレタル同一罪名ノ犯罪トノ關係、昭和十三年兵庫縣告示第八百五十五號
 兵庫縣物品販賣價格指定ノ件第八項末尾「備考」ノ趣旨

○輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反被告事件

(昭和十五年(九)第七七二號
同年九月十二日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 窪田茂作 辯護人 四方田 保

【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

綿絲製織物ノ襪襪ヲ漂白シタル所謂拭布ト該當告示

○判決要旨

綿其ノ他ノ絲ヲ原料トシテ製造シタル織物ノ襪襪ヲ晒シテ仕上ケタル所謂拭布等ハ昭和十四年商工省告示第四十八號第七十三項ニ所謂襪襪ニ該當スルモノト解スヘキモノトス

綿絲製織物ノ襪襪ヲ漂白シタル所謂拭布ト該當告示

【參照】昭和十三年商工省令第五十六號第一條 商工大臣ノ指定スル物品ヲ販賣スル者ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ其ノ指定ノ前日ニ於ケル販賣價格ヲ商工大臣又ハ地方長官ガ販賣價格ヲ指定シタルトキハ其ノ販賣價格ヲ超ユル對價ヲ以テ當該物品ヲ販賣(指定前ニ爲シタル契約ニ依ル引渡ヲ含ム)スルコトヲ得ズ但シ輸出スル場合、取引所ニ於テ賣買スル場合及已ムヲ得ザル事由ニ依リ卸賣ニ付テハ商工大臣、小賣ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限りニ在ラズ

同年商工省告示第二百八號第一項 物品販賣價格取締規則第一條ノ規定ニ依リ物品及年月日ヲ左ノ通指定シ昭和十三年七月商工省告示第百八十六號及第百九十四號ハ之ヲ廢止ス

- 一 綿、ステール、アルファ、羊毛、山羊毛又ハ駱駝毛ヲ原料トシテ製造シタル絲、人造絹絲、織物(フェルトヲ含ム)莫大小及製綿並ニ之ヲ原料トシテ製造シタル組、繩、網、布帛製品、衣類、衣類附屬品、ベルト及ホース但シ綿絲販賣價格取締規則、ステール、アルファ、イパー及ステール、アルファ、イパー絲販賣價格取締規則又ハ人造絹絲販賣價格取締規則ノ適用ヲ受ケルモノヲ除ク

同十四年商工省告示第四十八號第七十三項 昭和十三年七月商工省告示第二百八號中左ノ通改正ス

七十三 綿、人造絹、ステール、アルファ、イパー、山羊毛、駱駝毛若ハ麻ヲ原料トシテ製造シタル絲又ハ之ヲ原料トシテ製造シタル織物(フェルトヲ含ム)若ハ莫大小ヲ原料トシテ製造シタル纖維製品ノ襪、襪、端切及裁斷屑但シ第二十七項ニ該當スルモノヲ除ク

○ 事實

第二審判決ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二千圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二十圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ宣告ヲ爲シタリ

被告人ハ吹田市四千八百九十九番地ニ於テ再生綿布販賣業ヲ營ミ居ルモノナルトコロ法定ノ除外事由ナキニ拘ラス犯意繼續ノ上昭和十四年三月十二日頃ヨリ同年六月十一日頃迄ノ間三十五回ニ互リ前記自宅ニ於テ大阪市東淀川區上新庄町永田久森外十四名ニ對シ商工大臣ノ指定物品タル綿其ノ他ノ絲ヲ原料トシテ製造シタル織物ヲ原料トシテ製造シタル纖維製品ノ襪襪タル晒ウエス伸三等品外四種合計四千八百九十七貫八百匁ヲ販賣スルニ際シ同大臣指定ノ昭和十四年三月四日ニ於ケル販賣實績價格ヲ超エタル對價合計金一萬七百六十八圓十九錢(超過金額合計金千四百一十一圓四十二錢)ニテ販賣シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條第五條昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年商工省告示第二百八號物品販賣價格取締規則第一條ノ規定ニ依リ物品及年月日指定ニ關スル件第七十三項昭和十四年勅令第七百三號價格等統制令附則第十九條第一項第三項刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二千圓ニ處シ刑法第十八條ニ依リ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二十圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○ 主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○ 理 由

綿絲製織物ノ襪襪ヲ漂白シタル所謂拭布ト該當告示

辯護人四方田保上告趣意書第一點原判決ハ被告人窪田茂作ノ所爲ヲ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條第五條昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年商工省告示第二百八號物品販賣價格取締規則第一條ノ規定ニ依リ物品及年月日指定ニ關スル件第七十三項昭和十四年勅令第七百三號價格等統制令附則第十九條第一項第三項刑法第五十五條ニ該當スルモノトナシ被告人ヲ罰金二千圓ニ處シタルモ右判決ハ重大ナル事實ノ誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト信ス原判決ハ「被告人ハ吹田市四千八百九十九番地ニ於テ再生綿布販賣業ヲ營ミ居ルモノナルトコロ法定ノ除外事由ナキニ拘ラス犯意繼續ノ上昭和十四年三月十二日頃ヨリ同年六月十一日頃迄ノ間三十五回ニ亙リ前記自宅ニ於テ大阪市東淀川區上新庄町永田久森外十四名ニ對シ商工大臣ノ指定物品タル綿其ノ他ノ絲ヲ原料トシテ製造シタル織物ヲ原料トシテ製造シタル纖維製品ノ襪襪タル晒ウエス伸三等品外四種合計四千八百九十七貫八百九十九圓十九錢ニテ販賣シタルモノナリ」ト判示シ於ケル販賣實績價格ヲ超ヘタル對價合計一萬七百六十八圓十九錢ニテ販賣シタルモノナリ」ト判示シタリト雖被告人カ販賣シタル晒ウエス伸三等品外四種合計四千八百九十七貫八百九十九圓十九錢ニテ製造シタル再生綿布ニシテ右所謂襪襪ニアラス縱令商工大臣指定ノ昭和十四年三月四日ニ於ケル販賣實績價格ヲ超ヘタル對價ヲ以テ販賣シタリトスルモ右前掲法規ニ該當スルモノニアラス被告人ハ原審第一審公廷ニ於テ「私ノ販賣シマシタモノハ再生綿布ニシテ同綿布ハ統制ニカカツテ居ラス違反

トナラサル旨」ノ供述ヲ爲スノミナラス被告人カ販賣シタル再生綿布ハ襪襪ヲ撰別シテ晒加工ヲ爲シテ製造シタル綿布ノ一種ニシテ襪襪トハ別個ノモノナル旨詳述セリ加フルニ第一審公廷ニ於ケル證人西峻晴ノ供述中間晒業ノ業者間ニ組合カアルカ答大阪再生綿布帛工業組合ト云フノカ本年一月頃ニ出來私ハ同組合ノ理事長ヲシテ居リマス問證人方テハ晒業トシテ什ノ様ナ仕事ヲシテ居ルノカ答主トシテ原料ハ襪襪テソレヲ晒スノテスカ其ノ原料ノ内カラ銘柄別ニシマスト大體大白蚊帳五色巾メリヤス等ト云フ様ナモノヲ私ノ方テ晒シテ居ルノテス問其ノ晒シ方法ハ答先ツ原料タル襪襪ニ苛性曹達ノ五パーセントノ溶液ヲ加ヘ大キナ釜ニ入レ四時間煮沸シソレカ終ルト約一時間洗ヒ其ノ作業カ終ルト今度ハ廻轉バツクノ内ヘ積重ネテ約四パーセントノ晒粉ヲ入レタ澄液ニ約四時間滲透サスノテスカ此ノ場合ニハポンプヲ以テカケルノテ其ノ晒粉ノ澄液ハ何回モ廻轉サシテ使用スルノチアリマス以上ノ作業ヲ精練作業ト申シ此ノ作業カ終ルト稀硫酸ヲ二パーセント位入レテ又三十分位滲透サセルノテスカ此ノ作業ヲ漂白作業ト申シ之カ終ルト清水ヲ廻轉サシテ置イテカケルノテスカ此ノ場合ニハ新シイ水ヲカケル譯テ之ヲ二時間程シマスト大體白イモノニナリマス斯様ニシタモノハ單ニ其ノ藥氣ヲ取ツテ洗濯器ノ中ヘ入レ石鹼液ヲ入レテ油氣ヲ抜ク作業ヲ一時間シテ更ニ清水ヲカケテ精選シマスト略ホ純白ニ近イモノニ爲ルノテアリマス斯様ナ作業カ終リマスト野天ノ天然乾場ニ出シ乾燥サスノテアリマス問大白ニナルト襪襪ノ原料ハ白イモノニナルノカ答主様白イモノテモ前述ノ様ナ加工ヲスル譯テ

スカ其ノ作業ヲスルニ當ツテ色物ノ方ハ藥品カ倍加サレ時間モ永クカカルコトニナリマス問左様ナ晒ニカケルモノノ襪襦ノ巾ハ何レ位ノモノニ付テスルノカ答約一尺平方以上ノモノハ漂白致シマス問漂白サレテ出來タモノハ其ノ名ヲ業者間テハ何ト申シテ居ルカ答出來上ツタモノハ綿布帛テスカ軍需物テハ甲巾乙巾ト云フテ軍隊ノ銃拭ニ使ハレマス其ノ外晒特大白トカ晒大白、伸薄メリヤス、晒伸蚊帳、晒伸ト云フ様ニ大體別レテ居リマス問結局ハ斯様ナ晒サレタモノモヤハリ襪襦ト云フコトニナルテハナイカ答其ノ點ニ付キマシテハ私ハ昭和十二年十月頃ニ商工省ニ行キマシタ際初メ組合ノ名稱ヲ大阪輸出向再生綿布工業組合トシテ申請シ許可ヲ得マシタ處其ノ後昨年五月ニ商工省カラ呼出カアツタノテ行キマシタ處再生綿布ト間違ヘラレルカラト云フノ帛ノ字ヲ入レテ大阪輸出向再生綿布帛工業組合ト云フ名ニ指定シテ貫ヒ其ノ名稱ヲ用ヒテ居リマシタ處其ノ後更ニ製品ハ輸出向テナイノテ改メテ大阪再生綿布帛工業組合ト云フ名ニ指定シテ貫ツタノテアリマス問斯様ナ晒製品ヲスルコトハ一種ノ加工業テハナイカ答私ハ再生綿布ノ製造ト思ツテ居リマス問結局證人ハ斯様ナ製品ハ襪襦テハナイト思フテ居ルノカ答私ハ現實ナ工業製品テアルカラ綿布ト變リナク襪襦テナイト思ツテ居リマスノ記載アリテ再生綿布ハ其ノ原料ハ特殊ノ襪襦ナリト雖之ニ精練作業漂白作業洗濯作業乾燥作業等ヲ爲シテ再生綿布ヲ製造スルモノニシテ襪襦ニアラサルコト明ナリ殊ニ商工省モ之ヲ認メテ大阪再生綿布帛工業組合ノ設立ヲ認可シ襪襦組合ト別個ノ取扱ヲ爲スニ至リシモノナリ彼ノ反毛又ハ彈棉カ絲屑又ハ襪

襪ニ單純ナル加工ヲ爲シタルニ過キサレニ拘ラス商工省ハ之ヲ襪襦ト認メス全ク別個ノ取扱ヲナシ居ルニ徴スレハ思ヒ半ハニ過クルモノアリ即チ被告人カ販賣シタルモノハ再生綿布ニシテ襪襦ニアラサルナリ原判決ハ右再生綿布ヲ漫然襪襦ト誤認シテ法ヲ適用シタルモノニシテ重大ナル事實ノ誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云ヒ「同第二點原判決ハ罪トナラサル事件ニ付キ有罪ト爲シタル違法アリ假ニ被告人カ販賣シタル再生綿布カ襪襦ナリトスルモ被告人ハ再生綿布ハ襪襦ニアラス隨テ原判決法律適用ノ如キ國策違反罪ヲ以テ處分サル可キモノニアラストノ固キ信念ヲ有シタルモノナリ第一審ニ於ケル被告人ノ供述ノ部ニ問此ノ事件ニ付キ陳述スルコトカ有ルカ答事實ハ其ノ通り違ヒアリマセヌカ私ノ販賣シマシタモノハ再生綿布テ同綿布ハ統制ニカカツテ居ラス從テ違反テナイト思ヒマスノテ正式裁判ノ請求ヲ致シマシタトノ記載アリ尙原審ニ於テモ被告人ノ販賣シタルモノハ再生綿布ニシテ襪襦ニアラス從テ統制ニカカツテ居ラサル旨ノ供述アリ且ツ第一審公廷ニ於ケル證人西峻晴供述ノ如ク(上告趣意書第一點參照)被告人販賣ニ係ルモノハ襪襦ヲ原料トスルモ現實ナル工業製品ニシテ一種ノ綿布ナリ決シテ襪襦ニアラストノ認識ヲ有セシノミナラス被告人ハ襪襦タルノ認識ナキカ故ニ襪襦商業組合ニ加入スルコトナク商工省カ特ニ認可シタル大阪再生綿布帛工業組合ニ加入シ再生綿布カ襪襦ノ一種タルノ認識ハ全然ナカリシモノナリサレハ假ニ再生綿布カ襪襦ノ一種ナリトセハ被告人ハ其ノ販賣シタル再生綿布ハ法令ノ所謂襪襦ニ非スト認識シタ

ルモノニシテ全ク事實ノ認識ニ錯誤アリシモノニシテ刑法第三十八條「罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス」ニ該當スルモノニシテ刑法三十八條第三項ニ所謂法律ノ不知ニ該當スルモノニアラスサレハ原
判決ニ於テハ被告人ニ對シ無罪ノ言渡ヲナス可キモノナルニ拘ラス單ニ法律ノ錯誤ナリトシテ有罪ト
ナシタル原判決ハ違法ニシテ破毀ス可キモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

綿其ノ他ノ絲ヲ原料トシテ製造シタル織物ノ襪襪ヲ晒シテ仕上ケタル拭布等ハ昭和十四年商工省告示
第四十八號第七十三項ニ所謂襪襪ニ該當スルモノト解スヘキモノトス蓋シ昭和十三年商工省告示第二
百八號及右告示第四十八號ハ專ラ綿其ノ他ノ絲ヲ原料トシテ製造シタルモノノ價格ヲ統制スル規定ナ
レハ綿其ノ他ノ絲ヲ原料トセル織物ノ襪襪ヲ晒シテ漂白セルノミニテハ依然襪襪タル性質ヲ失ハサレ
ハナリ故ニ之ヲ以テ再生綿布ナリトノ所論ハ當ラス原判決ノ認メタル事實ハ第一點摘録ノ如クニシテ
其ハ引用證據ヲ參照セハ右漂白セルモノハ拭布等ニシテ價格統制令ノ對象物件ナルコト洵ニ明ナリ更
ニ記録ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルヲ認メス
而シテ被告人ハ原判示ノ如ク綿其ノ他ノ絲ヲ原料トシテ製造セル織物ノ襪襪ヲ晒シテ漂白セル拭布等
ヲ販賣シタルコトハ其ノ認ムル所ナレハ該品ハ再生綿布ニシテ罪トナラスト固キ信念ヲ有シタリトス
ルモノハ法ノ不知ニ當ルヲ以テ依テ以テ罪ヲ犯スノ意ナキモノト謂フヲ得ス故ニ原判決ニハ所論ノ如
キ違法アルヲ認メス論旨理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事下田勝久關與

○治安維持法違反被告事件(昭和十五年(九)第七八二號
同年九月十二日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 松澤元典 辯護人 〔繁田保吉 木村忠六〕

【第一審】 東京刑事地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

經濟事情研究ノ範圍ヲ超越シタル左翼運動

○判決要旨

日本共產黨ノ目的達成ニ資スルモノナルコトヲ認識シ乍ラ學内ニ
於ケル經濟事情研究会ノ指導幹部ト爲リ諸般ノ協議決定ヲ爲シ雜

經濟事情研究ノ範圍ヲ超越シタル左翼運動

誌ニ執筆シテ左翼的啓蒙ヲ圖リ或ハ日本革命ノ戰略戰術ヲ講シ以テ會員又ハ參加者ノ意識ノ昂揚ニ努ムルカ如キハ日本共產黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ニ當ルモノトス

【參照】治安維持法第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審ハ左記事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シテ被告人ヲ懲役二年ニ處ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ東京府立第六中學校ヲ經テ昭和七年四月慶應大學經濟學部豫科ニ入學シ昭和十三年五月同大學本科ヲ卒業シ其ノ後職工生活ヲ爲シ居リタルモノナルカ昭和十年頃ヨリ各種左翼文獻ヲ繕讀シ更ニ昭和十一年六月頃右大學ノ學生ヨリ成ル學校公認ノ慶應大學日本經濟事情研究會(以下「日經」ト略稱ス)ニ入會シテ左翼理論ノ研究ニ努メタル結

果遂ニ昭和十二年初頃ニハ共產主義ヲ信奉スルニ至リ「コミンテルン」竝ニ其ノ支部タル日本共產黨カ世界共產主義革命ノ一環トシテ我國ニ於テ革命的手段ニ依リ我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認シ「プロレタリアート」ノ獨裁ヲ樹立シ因テ以テ共產主義社會ノ實現ヲ目的トスル結社ナルコトヲ知り乍ラ之ヲ支持シ結局ニ於テ「コミンテルン」竝ニ日本共產黨ノ目的達成ニ資スルモノナルコトヲ認識シ乍ラ

第一 昭和十二年三月頃ヨリ「日經」會員田川行三、三宅寛勝、原茂樹等ト共ニ「日經」ノ指導幹部トナリ同人等ト共ニ同年度第一學期ニ於ケル「日經」相互研究會ノ使用スヘキテキスト及其ノ報告者其ノ他ノ研究プラン等ヲ協議決定シ該決定ニ基キテ同年四月ヨリ六月迄ノ間約十回ニ互リ東京市芝區三田二丁目ノ右學内ニ於テ「日經」相互研究會ヲ開催シ「日經」會員トマルキシズムノ研究ヲ爲シ尙自ラ其ノ間二回ニ互リ同研究會ニ於テマルクス著「資本論」等ニ基キマルキシズムノ價值論地代論ヲ講シテ同會員ノ左翼意識ノ昂揚ニ努メ又「日經」ノ部門研究會トシテ農業問題研究會ヲ其ノ頃數回ニ互リ右學内ニ開催シ自ラレーニン著「ロシアニ於ケル資本主義發達」其ノ他左翼文獻ニ基キテ農業問題ニ關スル左翼理論ヲ解明シテ參加者ノ啓蒙ヲ圖リ

第二 同年四月頃同區三田書籍店慶應書房ヨリ廣告雜誌「丘の上」ヲ發行スルニ付投稿ノ斡旋ヲ依頼セララルヤ前記「日經」幹部等ト共ニ之カ編輯ヲ引受ケ主トシテ同誌中新刊紹介欄ニ「日經」會員ヲシテ執筆セシメ事實上之ヲ「日經」ノ機關紙タラシメテ慶應大學學生ノ左翼的啓蒙ヲ圖ランコトヲ協議シ自ラ其ノ編輯人發行人ト爲リタル上其ノ創刊號ニハ創刊ノ辭ヲ執筆スルト共ニ「ワイソツワイグ」著「日本コンツエレン發達史」「イ・ブリューミン」著「多角形企業論」等ノ左翼理論ニ關スル新刊ヲ推獎スル紹介記事其ノ他ヲ編輯シ又同誌第二號ニハ土屋喬雄著「日本社會經濟史ノ諸問題」ノ勞農派の見解及之ニ對スル所謂講座派ノ立場ヨリ爲シタル批判ヲ内容トスル新刊紹介記事等ヲ編輯シテ同年五月及六月各之ヲ百五十部發行シ「日經」會員ニ配布スルト共ニ前記書店ヨリ發賣シテ學内ニ

第三 同年十一月頃前記「日經」幹部及同會員中ノ左翼の優秀分子數名ト共ニ「日經」ノ指導體タルヘキ秘密グルー
 プヲ結成シ爾來昭和十三年五月頃迄前後五、六回ニ互リ同市小石川區小日向臺町田川行三方共ノ他ニ於テ右グルー
 プノ會合ヲ開催シ新人「日經」會員ニ對スル左翼の指導ノ方法「日經」會員ノ團結ヲ強化シ且ツ其ノ意識水準ヲ高
 ムル爲メ會員相互間ニ個人的連絡ヲ緊密ナラシムルコト並右グルー各員ヲ中心ニ小秘密研究會グルーヲ結成シ
 テ參加者ヲ左翼化スルコト等ノ「日經」指導方針ヲ協議決定シテ之カ實踐ニ努メ殊ニ昭和十二年十一月頃同市大森
 區山王一丁目二千六百三十一番地龜田健治方ニ於テ「日經」會員數名ヲ集メテ小秘密研究會ヲ開催シテ自ラ山田盛
 太郎著「日本資本主義分析」等ニ基キテ日本ノ當來革命ノ戰略戰術ヲ講シテ參加者ノ意識ノ昂揚ニ努メ

第四 昭和十三年六月ヨリ九月初頃迄ノ間同市品川區大井森下町ニ一戸ヲ借受ケ「日經」會員タル大村隆彦外一名ト
 同居シ居リタルカ同家ニ多數ノ「日經」會員ノ出入ヲ許容シ事實上同所ヲ「日經」會員ノ集會場所ト爲シ且ツ屢之
 等ノ者ニ對シテ「日經」ノ組織方針又ハ左翼理論研究ノ指導ニ努メ

第五 同年七月中旬「日經」會員竹山尙カ同區大井森下町四千十三番地ニ一戸ヲ借受ケ勞働者ト「インテリゲンチ
 ヤ」トヲ共同生活セシメテ優秀ナル左翼分子ヲ養成スル目的ヲ以テ「クラスナヤコムムウナ」(赤キ共同體)ヲ結
 成スルヤ同人ノ依頼ニ應シテ之カ維持員トナリ同年七月中旬及十一月初旬ノ二回ニ右同所ニ開催サレタル右「コム
 ムウナ」ノ總會ニ出席シテ「コムムウナ」ノ規約ノ協議決定ニ參加シ

タル等諸般ノ活動ヲ爲シ以テ「コミンテルン」並ニ日本共產黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中國體ヲ變革スルコトヲ目的トスル結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル點ハ昭
 和三年勅令第二百二十九號ニ依リ改正セラレタル治安維持法第一條第一項後段ニ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的ト

スル結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル點ハ同法條第二項ニ各該當スルコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪
 名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ前者ノ罪ニ付定メタル刑ニ從フヘク懲役刑ヲ
 選擇シ其ノ所定期間範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニヨリ全
 部被告人ノ負擔トスヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人繁田保吉上告趣意書第一點原判決ハ罪ト爲ラサル所爲ニ對シ科刑シタルモノ即チ擬律錯誤ノ違
 法アルモノナリ左ニ其ノ所以ヲ詳説セントス(一)凡ソ吾人ハ或ル學問主義ヲ研究シ其ノ學說ヲ正シ
 トシテ信奉シ又正シカラストシテ排撃スルノ自由ヲ有ス從テ研究ノ結果正シト信スル學說主義ノ強化
 ニ努力シ同好ニ之ヲ普及セントスルハ自然ノ勢ニシテ其ノ事自體ハ毫モ法律ノ干渉スヘキ所ニ非ス現
 在學者ノ間ニハ各種ノ學會(法理研究會ノ如キ)結成セラレ各員互ニ研究ノ結果ヲ報告シ同好ノ士ニ
 普及シ其ノ擴大強化ヲ圖リツツアルハ寧ロ當然ニシテ其ノ研究ノ對照カ危險性ヲ帶フル場合ニハ或警
 察上ノ取締ヲ要スルモノアルハ格別處罰行爲タル犯罪トシテ科刑スヘキ可能性ヲ有セス共產主義學說
 ノ如キモ將來危險ナル實際運動ニ導クノ虞アリ犯罪ノ温床タル危險アル團體ニ對シテハ保安防犯等ノ
 見地ヨリ警察的行動ヲ必要トスル場合アルヘシト雖モ其ノ事自體ヲ以テ之ヲ犯罪ト爲シ處罰スヘキ法

規アルコトナシ蓋未タ犯罪構成ノ要件ヲ具現セサルニ由ルナリ往昔織田、徳川時代ニ耶蘇教ノ信仰ヲ嚴罰シタルカ如キハ思想信念其ノモノヲ處罰シタルモノナレトモ現時ノ法制ニ於テハ此ノ種ノ處罰法規アルコトナシ(二)今原判決カ摘示シタル本件被告ノ行動ヲ見ルニ被告ハ昭和七年四月慶應大學經濟學部豫科ニ入學シ昭和十年頃ヨリ各種左翼文獻ヲ繙讀シ昭和十一年六月頃右大學ノ學生ヨリ成ル學校公認ノ慶應大學日本經濟事情研究会(以下「日經」ト略稱ス)ニ入會シテ左翼理論ノ研究ニ努メタル結果遂ニ昭和十二年初頃ニハ共產主義ヲ信奉スルニ至リ第一乃至第五ノ行爲ヲ爲シタリト謂フニ在リ之ヲ仔細ニ檢討センニ(イ)第一ハ日經會員田川等ト共ニ其ノ指導幹部ト爲リ相互研究会ノ使用スヘキテキスト其ノ他ノ研究プラン等ヲ協議決定シ價値地代論等ヲ講シテ左翼意識ノ昂揚ニ努メ其ノ他ノ諸理論ヲ解明シテ參加者ノ啓蒙ヲ圖リタリト謂フニ在レトモ如斯行動ハ學會ニ於ケル有力者トシテ當然爲スヘキ職責ニシテ之ヲ目シテ學會員タル埒外ニ逸脱シタル行動ナリト非難スルハ當ラス(ロ)第二ハ廣告雜誌「丘の上」ヲ日經ノ機關雜誌ト爲シ自ラ其ノ編輯人發行人ト爲リテ新刊書ノ紹介記事推獎記事ヲ執筆シ發行シタリト謂フニ在レトモ日經ニ機關雜誌ヲ要シタルコト猶法學協會ニ法學協會雜誌ヲ要スル如ク法曹會ニ法曹會雜誌アルト異ル所ナク誌上ニ同好ノ新刊書ヲ紹介シ又其ノ推獎記事ヲ掲載スル如キ寧ロ當該學會ノ性質上當然ノ事ニ屬シ之ヲ異常ナル事例トシテ咎ムヘキ何物ヲモ存在セス(ハ)第三ハ日經ノ幹部數名ト共ニ其ノ指導體タルヘキ祕密グルーブヲ結成シテ團體ヲ強化シ水

準ヲ高ムル方途ヲ協議シ自ラ他人ノ著書ヲ講シテ參加者ノ意識ノ昂揚ニ努メタリト謂フニ在レトモ多數ノ會員ヲ擁スル學會ノ常トシテ幹部級同志ノ會其ノ他ノ小會ヲ作り研究ノ強化擴大ヲ圖ルノ必要アルコトハ一般事例ニ徴シ明白ニシテ何等異常ノ行動ヲ以テ目スヘキモノニ非ス(ニ)第四ハ大井森下町ニ一戸ヲ借受ケ日經會員ノ集合場所ト爲シ以テ左翼理論研究ノ指導ニ努メタリト謂フニ在レトモ便宜上會員ノ集合場所ヲ設置シタリト云フニ止マリ毫モ異常視スヘキモノニ非ス(ホ)第五ハクラスナヤコムムウナノ維持員ト爲リ其ノ規約決定ニ參加シタリト謂フニ在レトモ如斯ハ被告ノ日經ニ於ケル當時ノ地位及同學員竹山尙ノ依頼ニヨル友情ノ發露カ然ラシメタルモノニシテ何等論難スヘキモノアルヲ見ス(三)慶應大學内ニ在ル所謂日經ハ大學ニ於テ公認シ大學教授ヲシテ指導セシムル學生ノ研究學會ニシテ(記録六六三丁)研究ニ熱心ナル學生ノ入會ヲ歡迎ス被告ハ學生トシテ純眞ナル研究生トシテ之ニ入會シ其ノ優秀ナル頭腦ト熱心ナル研究心ハ會員内ニ重キヲ爲シ自然幹部級ノ會員トシテ尊信セララルルニ至リ進テ會員研究ノ指導又ハ會ノ強化擴大ニ關スル事務ニ與ルニ至ル從テ原判決揭示ノ前掲五項ニ互ル行動ノ如キ會ノ重鎮トシテ當然爲スヘキ任務ヲ遂行シタルノミ只研究ノ物體カ左翼主義思想ナリシ爲メ左翼主義ノ實行共產主義ノ實際運動ト誤認セララルル虞アルモ此ノ點ハ全然相異ナルモノニシテ被告ノ行動ハ學内ニ於ケル研究學會ノ強化擴大以外何等咎ムヘキ埒外行動ヲ爲シタルモノニ非サルコトハ前來縷說スル所ノ如シ被告人カ左翼主義ノ新刊書ヲ推獎シ各員啓蒙ノ具トシテ他人

ノ著書ニ基キ講義シタリト云フカ如キ是等ノ著書ハ公然四圍ニ販賣セラレ之ヲ購讀シ研究スルコトハ何人ニモ自由ナルニ徴スレハ是等被告ノ行爲ニ違法性アリト爲スヲ得サルハ明カナリト謂フヘシ(四)本件被告人ノ行動ハ以上說示スルカ如シ茲ニ問題ト爲ルハ判決掲記ノ「コミンテルン」竝其ノ支部タル日本共産黨カ世界共産主義革命ノ一環トシテ我國ニ於テ革命的手段ニ依リ我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認シ「プロレタリアート」ノ獨裁ヲ樹立シ因テ共産主義社會ノ實現ヲ目的トスル結社ナルコトヲ知り乍ラ之ヲ支持シ結局ニ於テ「コミンテルン」竝日本共産黨ノ目的達成ニ資スルモノナルコトヲ認識シ乍ラ前記ノ行動ヲ爲シタリトシ「以テコミンテルン竝日本共産黨ノ目的遂行ノ爲メニスル行爲ヲ爲シタルモノナリト斷定セル點ニ在リ(イ)判示ノ如キ目的ヲ有スル日本共産黨ナルモノノ存在ヲ認識セルコトハ被告人モ肯定ス特ニ共産主義ノ研究者タラストモ日刊新聞ニ接スル大衆ニシテ之ヲ知ラサル者殆ントナカルヘク吾人ハ其ノ存在ヲ知ルモ之ニ關係ナク日常ノ行動ヲ執リツツアリ從テ被告人カ其ノ存在ヲ認識シナカラ如上ノ行動ヲ執リタル一事ニ付テハ何等非議スヘキモノナキハ論ナシ(ロ)其ノ存在ヲ認識シナカラ之ヲ支持シ其ノ目的達成ニ資スルモノナルコトヲ認識シ乍ラ如上ノ行動ヲ爲シタルノ事實ニ付テハ被告ハ之ヲ否認ス(同六八〇丁裏)判決ハ如何ナル事實ヲ指シテ日本共産黨ノ支持ナリト謂フヤ黨ノ存在ヲ認識シナカラ進テ之カ排撃ヲ企圖セス傍觀スル態度ヲ持スルヲ以テ支持ナリト謂フニ在ラハ天下ノ大衆凡テ共産黨ノ支持者ナリトノ結論ニ達スヘシ又日本共産黨

ノ主義綱領カ左翼理論共産主義ニ基クモノニシテ此ノ理論ヲ研究シ信奉スルコトカ支持ナリト謂フニ在ラハ支持ハ行動ノ問題ニ非スシテ心裡信仰ノ問題ナリ犯罪ノ事實トシテノ適格性ナキニ歸ス判決ノ支持トハ如何ナル事實行動ヲ指スニ在ルヤ抽象的ニシテ理解スルニ由ナシ次ニ(ロ)被告人ノ如上五項ノ行動カ「結局ニ於テ日本共産黨ノ目的達成ニ資スルモノナルコトヲ認識シ乍ラ」爲サレタリトハ如何ナル事實カ黨ノ目的達成ニ資スルモノト謂フヘキヤ是亦抽象的ニシテ理解スルコト能ハス被告人ハ此ノ點ノ認識ヲ有シタルコトヲ否定ス(同六八〇丁裏)否定スル被告人ヨリモ辯護人ノ聞カントスル所ハ達成ニ資スル事實トハ如何ナル被告人ノ行動ナリヤノ點ニ在リ原判決カ掲ケタル五個ノ事實ハ前說示ノ如ク學生タル學研カ學會ノ強化擴大ヲ圖リタル以外何物ヲモ存在セス素ヨリ日本共産黨トハ徹頭徹尾何等關繫スル所ナシ合法適正ニ公認セラレタ學員カ其ノ許サレタル範圍内ニ於テ爲シタル行動カ飛躍シテ忽然何等關係ナキ日本共産黨ノ目的達成ニ資スル行動ト爲ルモノナリトハ解セラレス其ノ他ニ黨ノ目的達成ニ資シタリト見ルヘキ事實アルコトナシ(ハ)如斯原判決ハ抽象的ニ被告人ハ日本共産黨ヲ支持シ其ノ目的達成ニ資スルモノナルコトヲ認識シナカラ如上五項ノ行動ヲ爲シ「以テ黨ノ目的遂行ノ爲メニスル行爲ヲ爲シタルモノナリ」ト斷定シ治安維持法違反ナリト判定シタリ思フニ原判決ハ「左翼思想共産主義ノ研究強化」共産黨左翼運動」ナリト速斷シタルニ非サルカ或ハ警察取締ノ必要事項ヲ科刑事項ト誤斷シタルニ非サルカ若シ被告ノ行動カ科刑ニ値スルモノトセハ之ヲ指導

シタル教授進シテハ之ヲ公認シテキストヲ與ヘ集合場所ヲ提供シタル大學當局ハ一層重キ理由ヲ以テ科刑セラルヘキ筈ナルニ指導教授モ學校當局者モ未タ檢舉セラレタルモノナシ(同七四三丁)其ノ旨ヲ承ケテ行動セル學生タル被告等ノミカ犯罪ナリトシテ檢舉セラレルカ如キ本末ヲ誤ルノ甚タシキモノト謂ハサルヘカラス(五)元ヨリ治安維持法ニ所謂「結社ノ目的遂行ノ爲メニスル行爲」ノ犯罪性ハ通謀罪ニ非ス又目的罪ニ非ス從テ被告ノ行動カ結社ト連絡アルヲ要セス又結社ノ目的達成ノ意慾アルコトヲ必要トセサルコト勿論ナルヘキモ少クモ其ノ行動カ結社ノ目的達成ニ資スルモノナルコトヲ認識シテ爲サレタルモノナルコトヲ要ス然ルニ被告ノ行動ハ學内ニ於ケル研究學徒トシテ攻學ノ一途ヲ辿リタル外日本共產黨ニ資シ又ハ其ノ目的遂行ノ爲メニ爲スノ認識ヲ有シタルコトナシ之ヲ犯罪ト爲シ科刑セントスルハ牽強附會タルヲ免レス今本法違反罪ノ御院判例中結社ノ目的遂行ノ爲メノ行爲ヲ爲シタル事案ヲ牽出シテ下ノ二ヲ得タリ(一)ハ吉田雅雄被告事件(昭和五年十一月十七日判決、刑事判例集七八九頁以下)ナリ其ノ要旨ニ依レハ一被告人ハ第六高等學校在學中大正十五年十一月頃同校社會科學研究會ニ加入シ間モナク共產主義ヲ信奉スルニ至リ同校校長ノ戒告アリタルニ拘ラス依然竊ニ其ノ研究ニ没頭スルト共ニ岡山市在住ノ各種無産運動ノ闘士ト交際シ居リタルカ昭和三年三月頃「赤旗」等日本共產黨ニ關スル文書ヲ讀ミ同黨カロシヤニ於ケル第三インターナショナル(國際共產黨)ノ一支部トシテ我カ國ニ於テ秘密ニ組織セラレ我カ立國ノ大本タル立憲君主制ヲ廢止シ私有財産

制度ヲ撤廢シ以テ無産階級獨裁政治ヲ行フ共產主義社會ヲ實現センコトヲ目的トスル結社ナルコトヲ知ルニ及ヒ其ノ目的トスル所ニ共鳴シテ同黨ヲ支持センコトヲ決意シ當時同黨ノ活動方針カ黨組織擴大ノ爲メ先ツ勞働者ヲシテ勞働組合ヲ結成セシメ次テ之ニ共產主義ヲ宣傳煽動スルニ在リシヲ以テ此ノ趣旨ニ基キ其ノ頃西某外二名ノ勞働者ニ對シ無産者新聞ヲ閱讀セシメマルクス主義ノ研究ヲ奨ムル等種々策動シタル爲メ遂ニ檢舉セラレ昭和三年十月三十一日岡山地方裁判所ニ於テ懲役一年六月ニ處セラレタルカ右刑ハ三年間其ノ執行ヲ猶豫セラレタルノミナラス同年勅令第二七〇號ニヨリ懲役一年一月十五日ニ減刑セララルノ恩典ニ浴シタルニ拘ラス尙其ノ抱懷セル共產主義思想ヨリ脱スル能ハス昭和四年七月頃ヨリ再ヒ岡山市在住ノ無産運動者ト往來シ或ハ無産者新聞ニ對シ岡山市ニ於ケル無産運動ノ情况ヲ通信シタルコトモアリシカ右日本共產黨ハ昭和三年三月十五日及昭和四年四月十六日其ノ黨員ノ多數カ檢舉セラレタルモ未タ潰滅ニ至ラス依然存在シテ活動ヲ續ケ居ルコトヲ知り又モ同黨ヲ支持シ其ノ目的トスル所ヲ他人ニ宣傳シ同黨ノ擴大強化ヲ圖ラント決意シ犯意繼續シテ第一、無産者新聞及第二無産者新聞カ執レモ毎月六回發行セララル合法新聞ニシテ日本共產黨指導ノ下ニ同黨ノ政策ヲ大衆ノ間ニ煽動シ其ノ擴大強化ヲ圖ル目的ヲ以テ發行セラレ次ニ記載スル各號ハ執レモ之ニ副フ記事ヲ掲載シ居レルコトヲ知悉シツツ昭和四年八月下旬頃ヨリ同年十月中旬頃迄ノ間ニ互リ無産者新聞終刊號及第二無産者新聞創刊號ヨリ第六號迄ヲ其ノ發賣所ナル東京市麴町區三番町戰旗社ヨリ自

己ノ秘密通信先ナル岡山市上西川町石原彌平内安藤幸子方ニ取寄セタル上其ノ内第二無産者新聞第二乃至第四號及第六號ニ付テハ内務大臣ヨリ安寧秩序ヲ紊スモノトシテ其ノ發賣頒布ヲ禁止セラレタルコトヲ確實ニ了知シナカラ右取寄セタル全部ヲ其ノ頃回ヲ重ネ岡山市内ニ於テ藤田俊徳、堺好明、伊藤敏雄等ニ手交又ハ郵送シ尙長門錠一ニハ其ノ秘密通信先ナル岡山縣吉備郡足守町大木誠治方ニ郵送シ以テ之ヲ頒布シ同人等ノ閱讀ニ供シ第二、昭和四年十月下旬頃ノ夜岡山縣和氣郡木莊村大字日室ノ山腹ニ在ル大師堂ニ於テ無産運動ニ興味ヲ有スル恆次光高外四名ノ農民及勞働者ト萩野ナル偽名ニテ密ニ會合シ同人等ニ對シ私有財産制度ヲ認メタル資本主義社會ハ矛盾シ居ルヲ以テ革命ノ方法ニ依リ之ヲ改革シ無産階級ヲ解放セサルヘカラス而モ其ノ解放ハ日本共産黨ノ力ニ依ルノ外ナシ同黨ハ度々ノ檢舉ニ遭ヒタルモ依然コミンテルンノ一支部トシテ活動シ居ルヲ以テ諸君ハ日本共産黨ヲ支持シ其ノ指揮下ニ活動シ無産階級ノ解放ヲ期セサルヘカラス又無産階級解放ニ關スル新聞雜誌ヲ讀ミテ階級意識ヲ高メ農民組合勞働組合ヲ組織シ團體ノ力ニ依リ無産運動ヲ起スヘキ旨ヲ宣傳煽動シ以テ孰レモ日本共産黨ノ存在及其ノ活動ヲ知ラシムルト共ニ同黨ニ共鳴シ之ヲ支持スヘキ旨ヲ宣傳煽動シ以テ孰レモ日本共産黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行動ヲ爲シタルモノナリ」(2)ハ日暮甲一被告事件(昭和十三年十一月十六日判決、刑事判例集八三一頁以下)ナリ其ノ要旨ニ依レハ「被告人ハ昭和七年三月千葉縣立山武農學校ヲ卒業後東京農業大學ニ入學セムトシ東京市神田區所在研數學館ニ通學中偶々千葉醫科大學生山中克己

ト交ルニ及ヒ同人ヨリ共産主義思想ノ影響ヲ受ケ其ノ紹介ニ依リ日本共産黨軍事部員武田某其ノ他ノ左翼分子ト親交ヲ結フニ及ヒ遂ニ同主義ヲ信奉スルニ至リタルモノニシテ其ノ後昭和八年一月頃日本共産青年同盟ニ加盟シ爾來同盟中央事務局地方及團體ノ配布係トシテ同盟ノ中央機關紙「無産青年」ノ配布ニ從事シ或ハ日本共産黨東京西南地區オルガナイザイ吉田平四郎ノ指令ニ基キ石原守明ノ主宰スル同人雜誌「哨兵」ノ同人トシテ其ノ誌友ノ左翼化ヲ企テ誌友ニユース「墳墓壞土」ト題スル新聞紙等ヲ發行シ之ヲ郷里千葉縣下ノ農村青年ノ間ニ配布スル等ノ活動ヲ爲シタル爲メ檢舉セラレ昭和十年六月十九日東京刑事地方裁判所ニ於テ治安維持法違反罪ニ依リ懲役二年ニ處シ三年間其ノ刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ判決ヲ受ケタルモノナル處右恩典ニ拘ラス其ノ後モ依然トシテ同主義ヨリ離脱スルコトヲ得ス日本共産黨カコミンテルンシノ日本支部ニシテ暴力革命ニ依リ我〇〇〇〇國體ヲ變革シ尙私有財産制度ヲ否認シプロレタリアイトノ獨裁ヲ通シ共産主義社會ノ實現ヲ目的トスル結社ナルコトヲ知リナカラ同黨ノ擴大強化ヲ圖ランコトヲ企テ殊ニ昭和十一年一月下旬頃コミンテルン第七回世界大會ノ決議ニ於テ採用セラレタル資本ノ攻勢フアツシズム及帝國主義戰爭ノ危機打倒ヲ目標トシテ自由主義者其ノ他ノ大衆團體トノ統一戰線樹立ヲ期スル所謂人民戰線運動ヲ知ルニ及ヒテハ專ラ該運動ノ趣旨ニ從ヒ合法場面ヲ利用シ大衆ヲ共産主義ニ啓蒙スルコトニ依リ只管同黨ノ擴大強化ニ資センコトヲ企テ(以下要領第一乃至第四ニ掲クル各雜誌ニ執筆ヲ爲シ之ヲ頒布シ)以テ日本共産黨ノ目的遂行

ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノナリト謂フニ在リ是等ハ何レモ日本共產黨ヲ目標トシテ或ハ意圖ヲ有シ其ノ意圖ニ從ヒテ行動シタルモノニシテ此ノ間客觀的ニ右結社ニ關繫スル事實現存シ犯罪タル事實嚴存ス今之ヲ被告ノ行爲ニ對比センカ其ノ間零壞ノ差アルニ拘ラス彼等ハ何レモ初犯ニ於テ執行猶豫ノ恩典ヲ受ケタルヲ見ルヘシ被告ハ日本共產黨ヲ目標トシタルコトナク又何等ノ意圖ヲ有セス即チ客觀的ニ連繫ノ事實ナキハ勿論主觀的ニモ之ヲ認識シタルコトナシ只路傍ノ一事實トシテ日本共產黨ナルモノノ存在ヲ認識シタルノミ既ニ連繫ノ事實ナク又認識ナキ以上其ノ目的遂行ノ爲メノ行爲ヲ爲スコト不能ナリ斯ク觀シ來レハ被告ノ行動ハ單ナル一學究ノ學會ニ對スル擴大強化ノ企圖以外何者ヲモ存セサルコトヲ知ルヘキナリ(六) 原判決ニ示ス如ク被告ハ一時職工生活ヲ爲シタルコトアリ然レトモ是レ被告カ研究ニ熱中スル餘リ机上ノ理論カ勞働生活ノ實際ニ如何ニ裏付ケラルルヤヲ體驗セントシタルモノニシテ其ノ純真ナル態度ハ實ニ學究トシテ尊敬ニ値スルモノアリ(同一六五丁以下六五二丁) 目的此ニ存シタル爲メ普通ノ勞働者ト交ルコトヲ故ラニ避ケ(同四二三丁裏) 其ノ目的以外ニ逸脱スルノ危險ヲ自ラ嚴ニ戒飭シタル形迹ヲ見ルヘシ若シ被告ニシテ多少ニテモ日本共產黨ニ關心ヲ有シ左翼運動ノ野心アリシモノトセハ一職工生活ニ甘ンセス昭和十三年二月二十六日採用セラレタル日立製作所ノ上級部ニ就職シ(同七一〇丁) 所屬幾多ノ職工ニ對シ徐ロニ運動ノ手ヲ延ハスヲ以テ寧ロ有利ナリトスヘシ然ルニ此ノ好箇ノ就職口ヲ一擲シ一職工生活ニ甘ンシタル眞摯ノ態度コソ被告本

然ノ姿ニシテ其ノ間何等野心ナカリシコトヲ示シテ餘リアリト謂フヘキナリ要之被告人ノ行動ハ學生トシテ學校公認指導教授ノ下ニ學徒タルノ本分ヲ眞面目ニ發揮シタル迄ニシテ其ノ所爲ヲ仔細ニ觀察スルモ其ノ屬スル學會「日經」ノ擴大強化ヲ圖リ會員ノ攻學水準ヲ昂揚シタルニ止マリ一步モ其ノ域外ヲ出テタルコトナシ元ヨリ日本共產黨ノ存在並ニ目的ノ如キ毫モ關知スル所ニ非ス從テ治安維持法ノ何レノ法條ニモ該當セス被告ノ行爲ハ全然法ノ干涉スル範圍外ナルニ拘ラス原判決ハ主義思想ノ研究ト左翼運動ヲ混同シ日本共產黨ノ存在ニ牽強シテ被告ノ行爲ヲ科罰スヘキ犯罪ナリト斷シタル不法アルモノト謂フヘク此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

「コミンテルン」並其ノ支部タル日本共產黨カ世界共產主義革命ノ一環トシテ我國ニ於テ革命的手段ニ依リ我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認シ「プロレタリアート」ノ獨裁ヲ樹立シ因テ以テ共產主義社會ノ實現ヲ目的トスル結社ナルコトヲ知り乍ラ之ヲ支持シ結局ニ於テ「コミンテルン」並日本共產黨ノ目的達成ニ資スルモノナルコトヲ認識シ乍ラ判示ノ如ク慶應大學日本經濟事情研究會ノ指導幹部トナリ同會相互研究會ノ使用スヘキ「テキスト」及其ノ報告書其ノ他ノ研究プラン等ヲ協議決定シ該決定ニ基キ「マルキシズム」ノ價值論地代論ヲ講シテ同會員ノ左翼意識ノ昂揚ニ努メ又ハ農業問題ニ關スル左翼理論ヲ解明シテ參加者ノ啓蒙ヲ圖リ或ハ廣告雜誌「丘の上」ノ編輯ヲ引受ケ自ラ其ノ編輯人發行人ト爲リタル上之ヲ執筆發行シテ學内一般學生ノ左翼的啓蒙ニ努メ或ハ右研究會幹部及同會員

中ノ左翼の優秀分子數名ト共ニ其ノ指導體タルヘキ祕密「グループ」ヲ組織シ參加者ヲ左翼化スル等日本ノ革命ノ戰略戰術ヲ講シテ參加者ノ意識ノ昂揚ニ努メ其ノ他右研究會ノ組織方針又ハ左翼理論ノ指導ニ努メ左翼分子ヲ養成スル目的ヲ以テ赤化共同體ノ規約ノ協議決定ニ參加スルカ如キハ既ニ業ニ經濟事情研究ノ範圍ヲ超越スルモノニシテ所論ノ如ク當ニ主義思想ノ研究ニ止マラス日本共產黨ノ目的達成ニ資スル行爲ヲ爲シタルモノト謂ハサルヲ得ス原判決ノ認定シタル事實ハ論旨摘録ノ如クニシテ即チ「コミンテルン」竝日本共產黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノニ該當スルヲ以テ原判決ニ於テ昭和三年勅令第二百二十九號ニ依リ改正サレタル治安維持法第一條第一項後段及同法第二項ヲ適用シテ處斷シタルハ正當ニシテ所論ノ如ク擬律錯誤ノ違法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事下田勝久關與

○貴族院多額納稅者議員互選規則違反(昭和十五年(九)第七一九號 同年九月十九日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 島崎 貞三 辯護人 赤井 幸夫
【細谷 馨夫】

【第一審】 和歌山地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

貴族院多額納稅者議員ノ選舉ト衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第五號

○判決要旨

貴族院多額納稅者議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第五號ノ規定ノ準用アルモノトス

【參照】 大正十四年法律第四十八號 朕樞密院顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協賛ヲ經タル貴族院令第六條ノ議員選舉ニ付衆議院議員選舉法中間則ノ規定準用ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貴族院令第六條ノ議員選舉ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ衆議院議員選舉法中間則ノ規定ヲ準用ス

大正十四年勅令第二百三十四號第四十三條 本令ノ選舉ニ關シテハ大正十四年法律

貴族院多額納稅者議員ノ選舉ト衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第五號

第四十七號衆議院議員選舉法第一百一條乃至第二百二十八條、第三百三十七條、第三百三十八條、第四百四十八條及第四百四十九條ノ規定ヲ準用ス

大正十四年法律第四十七號第一百二十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ
 - 二 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權寄附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ
 - 三 投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト、選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ第一號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ
 - 四 第一號若ハ前號ノ供與、應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ
 - 五 第一號乃至第三號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル目的ヲ以テ選舉運動者ニ對シ金錢若ハ物品ノ交付、交付ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ選舉運動者其ノ交付ヲ受ケ若ハ要求シ若ハ其ノ申込ヲ承諾シタルトキ
 - 六 前各號ニ掲クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ
- 選舉事務ニ關係アル官吏又ハ吏員當該選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ四年

以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス警察官吏其ノ關係道府縣内ノ選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキ亦同シ

昭和九年法律第四十九號第一百二十二條第一項 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 五 第一號乃至第三號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル目的ヲ以テ選舉運動者ニ對シ金錢若ハ物品ノ交付、交付ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ選舉運動者其ノ交付ヲ受ケ若ハ要求シ若ハ其ノ申込ヲ承諾シタルトキ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ禁錮二月ニ處ス但未決勾留日數中三十日ヲ本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

昭和十四年九月十日和歌山縣ニ於テ施行セラレタル貴族院多額納稅者議員五選ニ當リ

第一 被告人貞三八議員候補者玉置吉之丞ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

- (一) 同年八月初旬頃五選人和歌山縣日高郡藤田村大字藤井二千二百八十八番地瀬戸佐太郎ヲ買收セムカ爲同郡御坊町大字御坊八十五番地野村又兵衛居室ニ於テ右又兵衛ヲ介シ選舉運動者タル被告人淺吉ニ對シ右投票買收資金トシテ金千五百圓ヲ交付シ

- (二) 同年九月初頃前記又兵衛居室ニ於テ同人ヲ介シ選舉運動者タル被告人淺吉ニ對シ前記候補者ノ爲選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ金二百圓ヲ供與シ

(中略)

タルモノニシテ被告人等ノ右各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

貴族院多額納稅者議員ノ選舉ト衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第五號

法律ニ照スニ被告人等ノ判示各所爲ニ付キテハ大正十四年法律第四十八號及同年勅令第二百三十四號貴族院多額納稅者議員互選規則第四十三條ニ依リ衆議院議員選舉法罰則ヲ準用スヘキトコロ被告人貞三ノ所爲中判示投票買收資金交付ノ點ハ右選舉法百十二條第一項第五號第一號ニ判示選舉運動報酬金供與ノ點ハ同法條第一項第三號第一號ニ被告人淺吉ノ所爲中判示投票買收資金ノ交付ヲ受ケタル點ハ同法條第一項第五號第一號ニ判示報酬供與申込ノ點ハ同法條第一項第一號ニ判示選舉運動報酬收受ノ點ハ同法條第一項第四號第三號第一號ニ各該當シ各被告人ノ右所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルヲ以テ執レモ刑法第五十五條ヲ適用シ各連續一罪トシ前記法條所定刑中被告人貞三ニ對シ禁錮刑ヲ夫々選擇シテ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人貞三ヲ禁錮二月被告人淺吉ヲ懲役二月ニ各處シ被告人等ニ對シ刑法第二十一條ヲ適用シ未決勾留日數中各三十日ヲ右本刑ニ算入シ尙被告人淺吉カ被告人貞三ヨリ收受シタル判示投票買收資金千五百圓及報酬金二百圓ハ執レモ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ大正十四年法律第四十八號同年勅令第二百三十四號貴族院多額納稅者議員互選規則第四十三條衆議院議員選舉法百十四條後段ニ則リ被告人淺吉ヨリ其ノ價格ヲ追徵スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人細谷馨上告趣意書第一點ハ原審判決ハ被告人ニ對スル第一(一)犯罪事實トシテ「瀬戶佐太郎ヲ買收センカ爲メ野村又兵衛居室ニ於テ同人ヲ介シテ選舉運動者タル被告人淺吉ニ對シ右投票買收資金トシテ金千五百圓ヲ交付シ」タルコトヲ判示シ之ニ對シ大正十四年法律第四十八號及同年勅令第二百三十四號貴族院多額納稅者議員互選規則第四十三條ニハ「本令ノ選舉ニ關シテハ大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法ヲ準用スル」旨ノ規定而シテ同選舉法ニ依レハ投票買收資金ノ交付罪ヲ認メ居ラス單ニ周旋又ハ勸誘シタルトキノミ處罰セラルルモノナリ然ルニ原審判決カ被告人ニ對シ投票買收資金交付罪ヲ以テ處斷シタルハ昭和九年法律第四十九號衆議院議員選舉法ニ於テ初メテ制定セラレタル同法第百十二條第一項第五號ノ交付罪ヲ適用處斷シタルモノニ係ルモノナリ同法律ハ前記ノ如ク多額議員ノ互選ニ準用シ居ラサルモノナリ然ルニ之ヲ以テ處斷シタルハ法律ヲ曲解シ擬律錯誤ノ違法アルモノトスト云フニ在リ

【要旨】

仍テ案スルニ大正十四年法律第四十八號貴族院令第六條ノ議員選舉ニ付衆議院議員選舉法中罰則ノ規定準用ニ關スル法律ニ依レハ貴族院令第六條ノ議員選舉ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ衆議院議員選舉法中罰則ノ規定ヲ準用スル旨ヲ規定シ同年勅令第二百三十四號貴族院多額納稅者議員互選規則第四十三條ニ依レハ本令ノ選舉ニ關シテハ大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法第百十一條乃至第百二十八條第百三十七條第百三十八條第百四十八條及第百四十九條ノ規定ヲ準用スル旨規定セルコト論旨所論ノ如シ然レトモ該勅令ニ於テ大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法ト規定セルハ當時明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選舉法カ尙施行セラレ居リタルカ爲ニ外ナラス而シテ大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法ハ昭和九年法律第四十九號ヲ以テ改正セラレタルモノナレハ

其ノ改正部分モ亦大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法ノ一部ト成リ同法ヲ組成スルニ至リタルモノトス從テ其ノ後行ハルル貴族院多額納稅者議員ノ選舉ニ付テハ前掲準用法條ニ關スル改正法條ノ規定全部準用アルモノト解スヘク所論第百十二條第一項第五號ノ規定ノ如キ其ノ亦然リトス蓋シ該第五號所定ノ行爲ノ如キハ他ノ各號所定ノ行爲ト同種ノ可罰型ニ屬シ全然別個ノ類型ニ屬スルモノニ非ス而モ該衆議院議員選舉法ノ罰則ノ規定ハ衆議院議員選舉ノ外府縣制第四十條市制第四十條町村制第三十七條ノ規定ニ依リ府縣會議員市會議員町村會議員選舉等ニモ準用セラルルモノナレハ以上ノ選舉ニ付前掲第五號所定ノ行爲ヲ爲シタル場合貴族院多額納稅者議員ノ選舉ニ關シ右規定ノ準用ナキモノトセムカ其ノ選舉ニ關シテハ處罰スルヲ得ス他ノ選舉ニ關シテハ犯罪トナル奇觀ニ陷ルハ勿論昭和九年法律第四十九號ヲ以テ法定刑モ改正加重セラレタルモノナレハ此ノ改正部分カ貴族院多額納稅者議員ノ選舉ニ及ハサルモノトセムカ同型ノ選舉違反行爲ヲ爲シタルニ拘ラス後者ニノミ改正前ノ輕キ法定刑ヲ以テ臨マサルヘカラサル奇現象ヲ呈スルニ至ルヘク斯ノ如キハ之等ニ關スル國法全體ノ精神ヨリ觀察シテ到底首肯シ得ルトコロニ非サレハナリ然ラハ原判決カ判示第一ノ(一)ノ行爲ニ對シ判示法條ヲ適用處斷シタルハ正當ニシテ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルコトナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事下田勝久關與

○業務上過失致死被告事件

(昭和十五年(九)第四一號) 破毀
(同年七月二十三日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 植杉孝一

辯護人

大川信吉
 古川高次
 中原東吉

【第一審】 船木區裁判所

【第二審】 山口地方裁判所

○判示事項

專用軌道ヲ有スル電車運轉手ノ注意義務

○判決要旨

專用軌道ヲ有スル高速度電車ノ運轉手カ電車ヲ運轉シテ踏切ヲ通過セントスル場合ニハ通行人ハ宜シク線路外ニ在リテ電車ノ進行ヲ待選シ其ノ通過シタル後線路内ニ入ルヘク運轉手ハ進行中ノ電車ヲ停止シ通行人ヲシテ先ツ線路ヲ横斷セシメタル後電車ヲ進行

專用軌道ヲ有スル電車運轉手ノ注意義務

セシメサルヘカラサル義務アルモノニアラス

【参照】 刑法第二百一十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス(訴訟費用ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ宇部鐵道株式會社ニ雇ハレ昭和八年頃ヨリ電車運轉ノ業務ニ從事中昭和十三年十一月八日第二十七號車ニ第二十八號車ヲ連結シ宇部線宇部岬驛ヲ午後四時四十五分頃發車シ東新川驛ニ向ケ進行中同午後四時四十七分頃兩驛間ノ宇部市東區芝ノ中地内芝尾ノ踏切ニ差蒐リタルカ右踏切ニハ遮斷機自動警報機ノ設備ナク其ノ手前十九間八分ノ箇所ニハ幅五間餘ノ縣道陸橋カ線路ニ跨リ横斷架設シアリテ陸橋下線路ノ兩側ハコンクリート壁トナリ居リ右陸橋ニ依リ連絡セル縣道ハ地盛りヲ爲シ高ク陸橋下ヲ列車カ通過シ得ル程度ニ築堤トナリテ連リ加之右陸橋ト芝尾踏切ノ間ノ線路北側ニハ陸橋出入口ニ近ク電柱アリ而シテ前示芝尾踏切ニ通スル小徑ハ略ホ線路ト直角ヲ爲シテ北ヨリ南ニ下リ勾配ノ儘右線路ヲ横斷シ居リ右小徑ニ近ク之ト竝行シテ附近畑地ニ植付ケラレタル茶ノ木ト直徑五、六寸位ノ桐ノ木ニ本ト棕桐ノ木等ノアル爲右踏切ヲ宇部岬方面ヨリ西方東新川驛方面ニ向ツテ進行スル電車ノ乗務員カ其ノ運轉臺ヨリ前方進路ヲ眺ムル場合其ノ間即チ陸橋ト踏切迄ノ間ノ現場線路ハ殆ント直線ナルモ敍上陸橋側壁ノ爲視野ヲ阻マレ居ルト右電柱茶ノ木等ノアル畑地ノ見透ハ十分ナラス且ツ陸橋ニ近ク前記踏切道アリテ斯ル個所ヲ通過セントスルニ

ハ電車運轉者タル者ハ單ニ警報ヲ吹鳴スルニ止ラス電車ノ進行ニ氣付カスシテ踏切ヲ通過セムトスル者アルヤモ知レサレハ何時ニテモ臨機急停車ヲ爲シ得ヘク其ノ爲豫メ速度ヲ調節シ置ク等事故ノ發生ヲ未然ニ防止シ得ヘキ様應急ノ措置ヲ講スヘク特ニ意ヲ須ユヘキニ拘ラス右業務上必要ナル注意義務ヲ怠リ單ニ陸橋ノ手前ニ於テ警笛ヲ吹鳴シタルノミニテ漫然時速約六十軒ノ速力ヲ以テ進行シ來リタル爲踏切北方ヨリ被告人運轉ノ電車ニ氣付カスシテ右踏切ヲ横斷セントスル被害者山形キヌノ姿ヲ陸橋手前六間八分(踏切ヨリ三十一間七分)ノ地點ニ於テ始メテ確認シ非常警笛ヲ連續吹鳴スルト同時ニ急停車ノ措置ヲ執リタルモ遂ニ及ハス電車前部右側尾燈ヲ同女ニ接觸セシメ因テ同女ヲシテ頭蓋底骨折等ニ依ル内出血ニ因リ即時現場ニ於テ死ニ至ラシメタルモノナリ
法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第二百一十一條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シテ罰金五十圓ニ處シ刑法第十八條ニ則リ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

原判決ヲ破毀ス

被告人ハ無罪

○理 由

辯護人古川高次上告趣意書第二點同中原東吉上告趣意書第三點ノ各論旨理由アルコトハ本院カ昭和十五年五月七日言渡シタル事實審理開始決定ニ説明スル如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ更ニ被告事件ニ付審按スルニ本件公訴事實ハ被告人ハ宇部鐵道株式會社ノ電車運轉

專用軌道ヲ有スル電車運轉手ノ注意義務

手ニシテ昭和十三年十一月八日第二十七號第二十八號兩車ヲ連結シテ宇部驛ヨリ東新川驛ニ向ヒ運轉中同日午後四時四十七分頃宇部市東區芝ノ中地内芝尾ノ踏切ニ差蒐リシカ同所ニハ遮斷機自動警報機等ノ設備ナク且ツ其ノ踏切ノ手前十九間八分ノ箇所ニハ縣道架設ノ陸橋アリテ其ノ陸橋ト線路兩側ハコンクリート壁ノ築堤トナリ居リ又該陸橋ト芝尾踏切間ノ北側ニハ電柱樹木等ノ點在スルタメ其ノ陸橋ノ東側手前ヨリ右踏切方面ニ對スル見透シ十分ナラサル狀況ニ在リ從ツテ同地點ヲ運轉スルニ際シテハ職務上ノ注意義務トシテ單ニ警笛ヲ吹鳴スルニ止マラス電車ニ留意セスシテ踏切ヲ横斷セントスル者アルヘキヲ慮リ何時ニテモ臨機急停車ヲナシ得ル様豫メ速度ノ調節其ノ他事故ノ發生ヲ未然ニ防止シ得ヘキ應急處置ヲ講スヘカリシニ拘ラス被告人ハ之ヲ忘リ唯陸橋ノ手前ニ於テ警笛ヲ吹鳴シタルノミニテ漫然時速約六十軒ノ速力ヲ以テ進行セルタメ被告人運轉ノ電車ニ氣付カスシテ該踏切ヲ其ノ北方ヨリ横斷セントセル被害者山形「キヌ」ノ姿ヲ陸橋ノ手前六間八分ノ地點ニ於テ發見シ直チニ非常警笛ヲ連續吹鳴スルト同時ニ急停車ノ措置ヲ執リシモ遂ニ及ハス同女ヲシテ電車前部右側ノ尾燈ニ觸レテ頭蓋底骨折等ニ基ク内出血ニ因リ即死セシメタルモノナリト云フニ在レトモ

【要旨】

凡ソ専用軌道ヲ有スル電車ハ高速度ヲ持シテ一定ノ軌道上ヲ疾走スル公許ノ交通機關ニシテ其ノ進退操縱普通人ノ如ク自由ナラサルカ故ニ電車線路ト人道トノ交叉セル踏切ニ於テ通行人ト電車トカ衝突スル虞アル場合ニハ通行人ハ宜シク線路ノ外側ニ在リテ電車ノ進行ヲ待避シ其ノ通過シ去ルヲ待チテ線路内ニ入ルヘク電車ノ運轉手ハ進行中ノ電車ヲ停止シ通行人ヲシテ先ツ線路ヲ横斷セシメタル後電車ノ進行ヲ繼續セサルヘカラサル義務アルモノニアラス換言スレハ進行中ノ電車ノ前面ニ於テ通行人カ線路ヲ横斷スルニ因リテ生スル衝突ノ危険ヲ豫防スルノ責任ハ主トシテ通行人ニ在リトナスヘク電車ノ運轉手ハ通行人カ其ノ姿勢態度其ノ他ノ狀況ニ依リ電車ノ進行ニ介意セスシテ線路ヲ横斷セントスルモノト信セラルヘキ特別事情ナキ限り通行人自ラ危険ヲ回避スルニ必要ナル注意ヲ爲シ電車ノ進行シ去ルヲ待チテ線路ヲ横斷スヘシト豫期スヘキ理由アルヲ以テ踏切地點ヲ通過セントスル場合ニモ運轉手カ特ニ電車ノ速力ヲ低減シ又ハ其ノ進行ヲ停止シテ不慮ノ衝突ニ備フヘキ注意義務アルモノト爲スヘキニアラサルコトハ當院ノ夙ニ判例トスルトコロ(大正二年(レ)第二六七六號大正三年三月十一日判決)ナルニ依リ本件ニ付案スルニ記録ニ徵スレハ前示芝尾ノ踏切ニ遮斷機自動警報機等ノ設備ナク且ツ其ノ踏切附近ニ存スル縣道陸橋ノ東側手前ヨリ右踏切方面ニ對スル見透シ十分ナラサル事實カ公訴事實記載ノ如クナルコトハ之ヲ認メ得ルモ被告人カ電車ヲ運轉シテ宇部岬驛ヲ發車シタル後山形「キヌ」ノ姿ヲ初メテ發見セル陸橋手前ノ地點ニ至ル迄ノ間ニ衝突ノ危険ヲ豫想セシムヘキ通行人其ノ他特別事情ノ存シタルコトハ之ヲ認メ難キカ故ニ被告人カ特ニ電車ノ減速其ノ他臨機急停車ヲナシ得ヘキ應急措置ヲ講セスシテ芝尾ノ踏切ニ向ヒ電車ノ進行ヲ繼續シタレハトテ此ノ點ニ於テ被告人ニ注意義務ヲ怠リタル責任アルモノト謂フヘキニアラス加之凡ソ運轉時刻ノ正確ナルヘキコトハ交通

機關ノ社會的機能ヲ完全ナラシムル上ニ於テ極メテ緊急ノ事項ナルニ鑑ミ又鐵道營業法第二十條ノ規定ニ基キ宇部鐵道株式會社カ監督官廳ノ認可ヲ受ケタル鐵道係員服務規程(辯第四號證ノ二)第一章第一條ニハ「鐵道係員ハ常ニ自己ノ執務ニ關スル法規令達及所屬上長ノ命令ヲ遵守シ誠實ニ職務ニ從事スヘキモノトス」トアリ尙同規程第十章第十三條ニモ「運轉手ハ列車運轉時刻ノ正確及速度ノ……齊整ヲ期スヘシ」ト規定シアルト同時ニ職務ノ違反行爲ニ對スル制裁規定トシテ特ニ認可手續ヲ經タル懲戒規程(辯第五號證ノ二)ノ制定セラレアルニ由テ之ヲ觀レハ同會社カ同様認可ヲ得タル電車ノ運轉速度表(辯第一號證)ノ定ムル所ヲ嚴格ニ遵守スヘキハ同會社ノ電車運轉手タル被告人ノ職務ニ屬スル重要ナル義務ニシテ濫リニ之ニ背戾スルヲ許サレサル所ナリト謂フヘク而モ右運轉速度表ノ定ムル所ニ依レハ宇部岬東新川兩驛間ノ距離一杆六下リ電車運轉時分二分三十秒此ノ平均時速三十八杆四〇トナリ居ルモ元來驛ノ發着時等ニハ速度力ノ低下ヲ爲スヲ必要トスルコト勿論ナルカ故ニ速度表所定ノ運轉時分ヲ維持セントセハ兩驛間ノ中央地點通過時速カ勢ヒ平均速度ヲ超過スルニ至ルヘキハ自明ノコトニ屬スルノミナラス第一審鑑定人米澤秀一ノ鑑定ニ徵スレハ右中央地點タル芝尾踏切ノ通過速度ハ時速五九杆五ヲ以テ相當トスルコトヲ認メ得ルヲ以テ被告人カ電車ヲ運轉シテ該踏切ヲ通過セントスルニ際シ約六十杆ノ時速ヲ以テ進行ヲ爲セルハ固ヨリ其ノ所ニシテ此ノ點ニ於テモ被告人ニ過失ノ責アルモノト謂フコト能ハス殊ニ被告人ハ前記陸橋ニ差蒐ルヤ被害者山形「キヌ」ノ姿ヲ發見ス

ル前ニモ常例ニ從ヒ警笛ヲ吹鳴シテ被告人ハ電車ノ進行ヲ警告シ又山形「キヌ」ノ姿ヲ發見スルヤ直ニ非常警笛ヲ吹鳴スルト同時ニ急停車ノ措置ヲ執リ後車ノ運轉手亦之ニ應シテ即時ニ急停車ノ處置ヲ講シタリシモ遂ニ及ハス「キヌ」ヲシテ電車トノ衝突ニ因リ即死セシムルニ至リシモノナルコト記錄上明白ニシテ當時被告人カ運轉手トシテ執リタル態度ニ非議スヘキ點アルコトヲ認メ難ク結局本件ニ於テハ山形「キヌ」ノ死亡カ被告人ノ業務上ノ過失ニ基因スルモノナルコトヲ肯定セシムヘキ證憑十分ナラサルモノト判定セサルヘカラス

以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十二條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事佐々波與佐次郎關與

○詐欺被告事件 (昭和十五年(九)第七三五號 棄却)

(昭和十五年九月四日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 杉山 眞一 辯護人 (赤井幸夫)

【第一審】 豊橋區裁判所 【第二審】 名古屋地方裁判所

○判示事項

證據書類ノ誤記ト其ノ説明

○判決要旨

裁判所力證據トシテ援用シタル書類ノ記載力誤記ナルコト明白ナル場合ニハ特ニ其ノ理由ヲ説明スルヲ要セス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年六月ニ處ス但シ原審ニ於ケル未決拘留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トストノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ昭和十一年十一月頃名古屋市西區中ノ町一丁目一番地ノ四ニ於テ僅カ三百圓餘ノ資金ヲ以テ織物買繼商ヲ開業シタルモノナルトコロ當時既ニ多額ノ借財アリ加之昭和十二年度ニ於テハ商品ノ思惑買等ニ依リ失敗シ更ニ負債額モ六千餘圓ニ増加シタル結果營業資金ニモ窮シ他ニ資金調達ノ見込ナキ爲經營ハ行詰リノ状態ニ至リタルヨリ茲ニ右

負債ノ辨濟資金生活費等ヲ獲得センガ爲他人ヨリ賣買名義等ノ下ニ金品ヲ騙取センコトヲ企テ犯意繼續ノ上

第一 昭和十三年一月初頃ヨリ同年十月七日頃迄ノ間十數回ニ互リ愛知縣中島郡奥町字下口西毛織物製造販賣業星野清一ニ對シ代金支拂資力並確實ニ之カ支拂ヲナス意思ナキニ拘ラス恰モ之レアルモノノ如ク裝ヒテ夫々メルトンノ買注文ヲ爲シ同人ヲシテ確實ニ右販賣代金ノ支拂ヲ受ケ得ヘキ旨誤信セシメ其ノ頃メルトン代金五十四圓六十五錢相當ノモノヲ被告居宅ニ送荷交付セシメテ之ヲ騙取シ

第二 同年九月上旬頃二回ニ互リ右星野清一方ニ執レモ支拂資力ナキ森喜市及水吞清各引受ノ額面千九百七十七圓及千六百十五圓二十錢ノ爲替手形ヲ夫々持參シ同人ニ對シ自己ニ於テモ勿論支拂資力ナク且確實ニ之カ支拂ヲ爲ス意思ナキニ拘ラス恰モ之レアルモノノ如ク裝ヒ右各爲替手形ハ當該引受人ニ於テ期日ニハ確實ニ支拂フヘク然ラサルモ自己ニ於テ其ノ支拂ニ付資ヲ負フヲ以テ割引セラレ度キ旨虚偽ノ事實ヲ申向ケ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ同人ヲシテ各即日同所ニ於テ手形割引名義ノ下ニ合計金二千八百二十二圓二十錢ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第三 同年五月十五日及二十日ノ二回ニ互リ同縣知多郡有松町中町田絞製造販賣業竹之内稔方ニ到リ同人ニ對シ代金支拂資力並確實ニ期日迄ニ之カ支拂ヲ爲ス意思ナキニ拘ラス恰モ之レアルモノノ如ク代金ハ必ス十日乃至二十日後現金ニテ支拂フ旨虚偽ノ事實ヲ申向ケ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ同人ヲシテ其ノ頃絞千六百一一反代金合計金三千六百六十九圓四十錢相當ノモノヲ被告人居宅ニ送荷交付セシメテ之ヲ騙取シ

第四 同月二十五日右竹之内稔ノ母スヰニ對シ電話ニテ代金支拂資力並確實ニ之カ支拂ヲ爲ス意思ナキニ拘ラス恰モ之レアルモノノ如ク裝ヒ稔トノ間ニ既ニ絞ノ賣買契約成立シ居リ代金ハ必ス月末迄ニ支拂フ旨虚偽ノ事實ヲ申向ケ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ同人ヲシテ其ノ頃絞四百七十八一反代金七百十七圓相當ノモノヲ被告人居宅ニ送荷交付セシメテ之ヲ騙取シ

證據書類ノ誤記ト其ノ説明

第五 同年十一月十一日同縣寶飯郡蒲郡町大字小江織布業吉口賢治方ニ到リ同人ニ對シ代金支拂資力竝確實ニ之カ支拂ヲ爲ス意思ナキニ拘ラス恰モ之レアルモノノ如ク裝ヒ代金ハ必ス現金ニテ支拂フ旨虚偽ノ事實ヲ申向ケ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ同人ヲシテ其ノ頃女帯地四千八百八十本綿布二十一反代金合計金二千七百七十二圓四十一錢相當ノモノヲ被告人居室ニ送荷交付セシメテ之ヲ騙取シ

第六 同月十六日岐阜縣羽島郡笠松町官有地織物買繼業玉田山次方ニ到リ同人ニ對シ當時株式會社伊藤銀行ニハ左記代金ヲ支拂フニ足ル預金殘高ナク且期日迄ニ之カ預入ヲ爲ス確實ナル見込ナキニ拘ラス恰モ之レアルモノノ如ク裝ヒ代金八十日後支拂フトノ趣旨ノ下ニ左記代金相當額ノ同銀行宛自己振出昭和十三年十一月二十七日附ナル先日附小切手一通ヲ交付シ同人ヲシテ右小切手カ期日ニ於テ確實ニ支拂フ受ケ得ヘキモノナル旨誤信セシメ因テ同人ヲシテ其ノ頃綿物四百五十反代金八百七十八圓十錢相當ノモノヲ被告人居室ニ送荷交付セシメテ之ヲ騙取シ

第七 同月二十七日被告人居室ニ於テ愛知縣寶飯郡蒲郡町大字蒲郡織物問屋合資會社山川商店代表社員山川那嘉司ニ對シ代金支拂資力竝確實ニ之カ支拂フナス意思ナキニ拘ラス恰モ之レアルモノノ如ク裝ヒ代金ハ品物ヲ受取ルト同時ニ支拂フ旨虚偽ノ事實ヲ申向ケ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ同人ヲシテ其ノ頃格子縞スフ四十碼物三十反代金四百八十圓相當ノモノヲ被告人居室ニ送荷交付セシメテ之ヲ騙取シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十六條第一項第五十五條ニ該當スルトコロ前示前科アルヲ以テ同法第五十六條第一項第五十七條ニ則リ累犯加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告ヲ懲役一年六月ニ處シ同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決拘留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百二十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人赤井宰夫、相澤隼人上告趣意書第三點原判決ハ其ノ第五事實ニ對スル證據説明中被告人ニ對スル檢事聽取書ニ「吉口賢治ニ對シ前二回ト同様現金拂ヲナス旨申シ帶地其ノ他千七百餘圓(二千七百餘圓ノ誤記ト認ム)ノモノヲ注文シテ送ラセタル旨」ノ記載アリト判示シ斷罪ノ資料ニ供シタリ然レトモ右聽取書ニ明ニ千七百餘圓ナル記載アルニ拘ラス何故ニ之ヲ二千七百餘圓ノ誤記ト認ムヘキヤ全ク其ノ根據ヲ知ルヘカラス固ヨリ證據ノ解釋ハ事實承審官ノ權限ニ屬スル事項ナリト雖モ記錄上ニ存スル數字ノ記載ヲ何等ノ根據ナク之ト異ナル數量ヲ示スモノナリトシテ斷罪ノ資料ニ供スルカ如キハ明ニ證據解釋ノ範圍ヲ越脱スルモノト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ原判決カ右聽取書ニ於ケル千七百餘圓ナル記載ヲ二千七百餘圓ノ誤記ナリトシテ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

裁判所カ其ノ證據トシテ援用シタル書類ノ記載ヲ誤記ナリト認ムル場合ニハ之ヲ誤記ト認ムル理由ヲ説明スルノ優レルニ如カスト雖該誤記カ一件記錄ニ徴シ極メテ明白ナル場合ニ於テハ右理由ヲ説明セサルモ敢テ違法ナリト謂フヲ得ス原判決ハ其ノ認定シタル第五事實ニ對スル證據説明中被告人ニ對ス

【要旨】

證據書類ノ誤記ト其ノ説明

ル檢事ノ第二回聽取書ニ被告人カ吉口賢治ニ帶地其ノ他千七百餘圓(二千七百餘圓ノ誤記ト認ム)ノモノヲ注文シテ送ラセタル旨ノ記載アル旨ヲ判示シタルコト明カナリ而シテ記録ヲ查スルニ被告人ニ對スル檢事ノ第一回聽取書ニ依レハ被告人ハ右原判示第五ト符合スル事實ヲ包含スル司法警察官意見書記載ノ犯罪事實ヲ讀聞ケラレテ之ヲ自白シテ敢テ其ノ金額ヲ爭ハサルノミナラス其ノ後ノ第一審公判調書及原審公判調書ニ徴スルモ右原判示第五ノ事實ニ付其ノ金額其ノ他全部ヲ自白シ居リ被告人ニ於テ曾テ右金額カ原判示ノ如ク二千七百七十二圓四十一錢ニ非スシテ千七百餘圓ナリト主張シタル事實ヲ認メ難ク且前示被告人ニ對スル檢事ノ第二回聽取書ニ依ルモ亦其ノ金額カ二千七百七十二圓四十一錢ニ非サルコトヲ特ニ主張シタル事實ヲ認メ得サル點等ヨリ判斷スレハ右聽取書ニ千七百餘圓ト記載シアルハ二千七百餘圓ノ誤記ナルコト極メテ明瞭ナリト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ原判決カ前示聽取書中ノ右記載ヲ二千七百餘圓ノ誤記ト認メ之ヲ其ノ證據ニ採用シタルハ正當ニシテ其ノ誤記ト認メタル理由ヲ説明セサレハトテ所論ノ如キ違法アリト謂フヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事横田麟二關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和十五年(九)第七〇八號 棄却)

(昭和十五年(九)第七〇八號 同年九月十四日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 菊谷 龜 平松市藏 辯護人 一寺井後登

【第一審】 總ヶ澤區裁判所 【第二審】 青森地方裁判所

○判示事項

被疑者訊問ト其ノ手續

○判決要旨

被疑者ノ訊問ヲ爲スニハ必スシモ召喚若ハ勾引等ノ手續ヲ要セサルモノトス

【參照】 刑事訴訟法第二百五十三條 捜査ニ付テハ秘密ヲ保チ被疑者其ノ他ノ者ノ名

被疑者訊問ト其ノ手續

譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

同法第二百五十四條 捜査ニ付テハ其ノ目的ヲ達スル爲必要ナル取調ヲ爲スコトヲ得但シ強制ノ處分ハ別段ノ規定アル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

捜査ニ付テハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

同法第二百五十五條

檢事捜査ヲ爲スニ付強制ノ處分ヲ必要トスルトキハ公訴ノ提起前ト雖押收、搜索、檢證及被疑者ノ拘留、被疑者若ハ證人ノ訊問又ハ鑑定ノ處分ヲ其ノ所屬地方裁判所ノ豫審判事又ハ所屬區裁判所ノ判事ニ請求スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル請求ヲ受ケタル判事ハ其ノ處分ニ關シ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

同法第二百五十六條 判事前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人菊谷龜吉ヲ罰金百圓被告人佐藤堅次郎同新岡徹同長谷川兼一同千田寅之助ヲ各罰金二十圓ニ處ス(罰金不完納ノ場合ニ於ケル勞役場留置ノ點及訴訟費用負擔ノ點省略)ル旨判決シ猶後記被告人菊谷龜吉ニ對スル犯罪事實認定ノ證據トシテ後掲上告趣意書記載ノ新岡徹ニ對スル被疑者訊問調書中ノ記載ヲ引用シタルカ右訊問ニ當リ同人ヲ召喚若ハ勾引シ以テ訊問廷ニ立タシメタリト認ムヘキ記録上何等ノ形迹ナシ

第一 被告人龜吉ハ昭和十四年九月二十五日施行ノ青森縣會議員選舉ニ際シ同縣西津輕郡ヨリ立候補シ同月二日之カ届出テヲ爲シタルモノナルトコロ犯意繼續シテ

(一) 同年七月二十六日午後十一時頃同郡館岡村菰植小學校ニ開催セラレタル同人ノ北支出征兵士慰問及滿洲視察報告演說會ヲ終リ歸途同村大字菰植飲食店佐藤專十郎方二階座敷ニ於テ選舉人佐藤賢次郎同新岡徹同長谷川兼一同千田寅之助等ト飲食中同人等ニ對シ自己ヘ投票方竝他ノ選舉人ノ投票取纏方ヲ依頼シ

(二) 同郡十三村小學校ニ開催セラレタル被告人ノ北支出征兵士慰問及滿洲視察報告演說會ヲ終リ歸途同年八月二十日午前七時頃同村梶浦粕五郎宅前道路ニ於テ選舉人濱田喜代吉ニ對シ前同様自己ヘ投票方竝他ノ選舉人ノ投票取纏方ヲ依頼シ

以テ孰レモ立候補届出前ノ選舉運動ヲ爲シ

第二 被告人堅次郎同徹同兼一同寅之助ハ前示ノ如ク被告人龜吉ヨリ投票竝投票取纏方依頼ヲ受クルヤ之ヲ承諾シ各法定ノ選舉運動者ニ非サルニ拘ラス右龜吉ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ連續個々面接ノ意圖ノ下ニ

(一) 被告人堅次郎ハ昭和十四年九月九日右館岡村大字菰植ノ板山ニ於テ選舉人木村直作ニ對シ

(二) 被告人徹ハ同月七日頃前示肩書居宅ニ於テ選舉人新岡清次郎同新岡孫太郎ニ對シ

(三) 被告人兼一ハ前示肩書居宅ニ於テ同年八月三十日頃選舉人佐藤竹次郎ニ對シ同年九月六日頃同長谷川仁助ニ對シ同月八日頃長谷川佐吉ニ對シ

(四) 被告人寅之助ハ同年九月十四日肩書居村田圃ニ於テ選舉人石田仁郎ニ對シ
夫々被告人龜吉ノ爲投票方ヲ依頼シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人龜吉ノ判示所爲ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十五條ノ二第二百二十九條刑法

被疑者訊問ト其ノ手續

第五十五條ニ該當スルニヨリ所定ノ罰金刑ヲ擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定處斷スヘク被告人堅次郎徹兼一寅之助ノ判示各所爲ハ何レモ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第一項第九十八條第二項第一百二十九條ニ該當スルトコロ右各所爲ハ夫々一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルニヨリ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ各犯情重キ個々面接ノ罪ニ付定ムル刑ニ從ヒ罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ夫々主文ノ刑ヲ量定處斷スヘク(中略)公訴事實中被告人堅次郎カ佐藤徹夫及佐藤傳助ニ對シ投票ヲ依頼シタリトノ點竝龜吉以外ノ被告人カ立候補届出前ニ選舉運動ヲ爲シタリトノ點ハ其ノ證明ナキモ判示第二ノ他ノ所爲ト包括一罪ノ關係アルモノトシテ起訴セラレタルモノト看ルヘキニヨリ特ニ此ノ點ニ付主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲ササルモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人菊谷龜吉辯護人平松市藏同万城登上告趣意書第六點ハ原判決ハ判示第一ノ(一)ノ事實認定ニ付訴訟法上證據ト爲スコト能ハサルモノヲ罪證ニ供シタル違法アルモノナリ原判決ハ其ノ理由第一ノ(一)ニ於テ前記第一點ノ冒頭摘記ノ如ク被告人カ選舉人ナル佐藤堅次郎新岡徹千田寅之助及長谷川兼一等ニ對シ自己ヘ投票方並他ノ選舉人ノ投票取纏方ヲ依頼シ以テ立候補届出前ノ選舉運動ヲ爲シタル旨ノ事實ヲ判示シ之カ證據トシテ新岡徹ニ對スル昭和十四年九月二十日附強制處分訊問調書中ニ於ケル同人ノ供述記載ヲ援用舉示シタリ仍テ右新岡徹ニ對スル昭和十四年九月二十日附強制處分訊問調

書ヲ檢スルニ同調書ハ右日附ノ當日鯨ヶ澤區裁判所ニ於テ同人ヲ訊問ノ上作成セラレタルコト明ナリ然ルニ右強制處分ノ請求ハ其ノ前日タル昭和十四年九月十九日檢事小林八郎ニヨリテ爲サレタルモノナルコト記録中ニ存スル同日附強制處分請求書ノ記載ニ依リテ明白ナルニ拘ラス本件記録中ニハ新岡徹ニ對シ召喚狀若ハ勾引狀ノ發セラレタルコトヲ認ムヘキ何等ノ事跡モ存スルコトナシ依是觀之新岡徹ハ右強制處分訊問ノ行ハレタル當日何等適法ナル召喚ヲ受ケ若ハ勾引狀ヲ執行セラルルニ非スシテ警察官ニヨリ強制的ニ鯨ヶ澤區裁判所ニ連行セラレ同所ニ於テ訊問セラレタルモノナルコト明白ナリト謂ハサルヘカラス蓋シ何等適法ナル召喚ヲ受ケ若ハ勾引狀ヲ執行ヲ受ケタルニ非サルニ拘ラス昭和十四年九月十九日強制處分ノ請求アルヤ其ノ翌二十日新岡徹カ訊問ヲ受ケヘク鯨ヶ澤區裁判所ニ任意出頭スルカ如キコトハアルヘカラサルモノナレハナリ則チ新岡徹ニ對スル強制處分ノ訊問ハ不法ニ同人ノ自由ヲ拘束セル違法狀態ニ於テ爲サレタルモノナルコト明白ナルヲ以テ其ノ供述ヲ錄取セル調書ハ訴訟法上本來無効ニシテ其ノ記載内容ハ之ヲ證據トナスコト能ハサルモノナリ然ルニ原判決ハ敘上ノ事理ヲ無視シテ之ヲ罪證ニ供シタルモノナルヲ以テ則チ冒頭摘記ノ違法アルモノナリト云フニ在リ仍テ案ズルニ強制處分ニ於ケル訊問ハ裁判所ガ訊問權ノ發動ニ基キ被疑者證人等ヲ訊問スル適法ナル訴訟手續ニシテ之ヲ訊問スルニ至ル經路ハ必ズシモ召喚狀若ハ勾引狀等ノ如キ強制力ヲ用ヒ訊問廷ニ立タシムルコトヲ必要トスルニ非ザルコト刑事訴訟法殊ニ同法第二百五十三條乃至第二百五十六條等

ノ規定ニ照シ明瞭ナリ從テ右召喚若ハ勾引等ノ強制力ニ依ラザル被疑者證人ニ對スル強制處分訊問ヲ目シ不法ニ自由ヲ拘束シタル違法状態ニ於ケル訊問ナリト云フヲ得ザルヤ勿論ナリ果シテ然ラバ所論新岡徹ニ對スル本件被疑者訊問ハ其ノ訊問ニ當リ召喚若ハ勾引等ノ強制手續ヲ用ヒタルニ非ザルコトハ所論ノ如クナリト雖同人ノ意思ニ反シ強テ之ヲ出頭セシメタル所謂不法手段ニ依リ之ヲ訊問シタルモノト認ムベキ記録上何等ノ證據存セザルガ故ニ訴訟手續上何等缺クル所アリト云フヲ得ザルベク從テ同調書ヲ罪證ニ供シタル原判決亦探證上所論ノ如キ違法存スルコトナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事榎田麟二關與

○常習賭博賭場開張賭場開張幫助被告事件

(昭和十五年(れ)第八二二三號 一部破毀差戻
同年九月二十六日第一刑事部判決 一部棄却)

【上告人】 被告人

大豆生田

常八
外三名

辯護人

八並武治
米村嘉一
赤本錠之助
菅沼幸夫
沼井廣助

【第一審】 東京區裁判所

【第二審】 東京刑事地方裁判所

○判示事項

裁判所書記ノ官氏名ヲ遺脱セル公判調書ノ效力——賭場開張罪ノ成立

○判決要旨

- 一 公判調書ノ末尾ニ裁判所書記ノ署名捺印アルモ公判ニ列席セル裁判所書記ノ官氏名記載ナキ時ハ該調書ハ無効ナリ【要旨第一】
- 二 賭場開張罪ハ賭事又ハ博戲ヲ爲ス設備ヲ爲シ財産上ノ利益ヲ獲得セントスルニ依リテ成立シ現ニ賭事又ハ博戲ノ行ハレタルコ

裁判所書記ノ官氏名ヲ遺脱セル公判ノ調書效力 賭場開張罪ノ成立

トヲ必要トセズ【要旨第二】

【参照】 刑事訴訟法第六十條

公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ公判調書ヲ作ルヘシ

- 一 公判ヲ爲シタル裁判所及年月日
- 二 判事、檢事及裁判所書記ノ官氏名並被告人、代理人、辯護人、補佐人及通事ノ氏名
- 三 被告人出頭セザリシトキハ其ノ旨
- 四 公開ヲ禁シタルトキハ其ノ旨及理由
- 五 被告事件ノ陳述及公判開廷中口頭ノ起訴アリタルトキハ其ノ要旨
- 六 辯論ノ要旨
- 七 第五十六條第二項ニ掲クル事項
- 八 朗讀シ又ハ要旨ヲ告ケタル書類
- 九 被告人ニ示シタル書類及證據物
- 十 公判廷ニ於テ爲シタル檢證及押收
- 十一 裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及訴訟關係人ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項
- 十二 被告人若ハ辯護人最終ニ陳述シタルコト又ハ被告人若ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘタルコト
- 十三 判決其ノ他ノ裁判ノ宣告ヲ爲シタルコト

同法第六十三條

公判調書ニハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

裁判長差支アルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

區裁判所判事差支アルトキハ裁判所書記其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

裁判所書記差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

同法第三百二十九條 公判期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於テ之ヲ爲スヘシ

公判廷ハ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ開ク

刑法第八十六條第二項 賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三

月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審判決ハ被告人鈴木竹次郎ニ對シ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ同被告人ヲ懲役六月ニ處ス原審ニ於ケル未決拘留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

他ノ被告人三名ニ對スル事實ハ上告論旨及判決理由記載ノ通り

被告人鈴木竹次郎ハ生井一家ノ系統ニ屬スル博徒ノ親分鈴木梅太郎ノ實弟ナルトコロ

(一) 昭和十四年二月中旬頃右鈴木梅太郎カ靜岡縣田方郡伊豆長岡町長岡千五十六番地旅館營業大和館事大和廣良方ニ於テ寺錢取得ノ目的ヲ以テ賭博場ヲ開張シ博徒篠原縫殿之助外數名ノ賭客ヲシテ俗ニ丁半又ハ賽入本引ト稱スル賭錢博奕ヲ爲シメタル際其ノ情ヲ知り乍ラ盆布骨子壺等ノ賭具ヲ携帶シテ右大和館ニ至リ同館常盤ノ間ニ於テ賭博場開設ノ準備ヲ爲シ以テ右鈴木榮太郎ノ賭博場開張圖利ノ犯行ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

(二) 吉川和助、松本浩造等ト共謀ノ上同年三月八日夜前記大和館梅上ノ間ニ於テ寺錢取得ノ目的ヲ以テ布團及盆布

裁判所書記ノ官氏名ヲ滯脱セル公判調書ノ效力 賭場開張罪ノ成立

等ヲ數キ賭錢博奕ヲ爲サシムヘキ設備ヲ爲シ以テ圖利ノ目的ヲ以テ賭博場ヲ開張シタルモノニシテ以上ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中(一)ノ所爲ハ刑法第百八十六條第二項、第六十二條第一項ニ(二)ノ所爲ハ同法第百八十六條第二項、第六十條ニ各該當スルところ以上ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ賭博場開張圖利ノ一罪ト爲シ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處シ尙同法第二十一條ニ從ヒ原審ニ於ケル未決拘留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

主 文

原判決中被告人大豆生田常八、坂本清五郎、松尾嘉右衛門ニ關スル部分ヲ破毀ス
同被告人三名ニ關スル事件ヲ東京刑事地方裁判所ニ差戻ス
被告人鈴木竹次郎ニ關スル事件ノ上告ハ之ヲ棄却ス

理 由

被告人松尾嘉右衛門辯護人八並武治、米村嘉一郎上告趣意書第一點被告人ニ關スル原審第四回公判調書(千百四十四丁)ヲ見ルニ裁判所ノ構成トシテ裁判長岩田誠、判事渡邊辰吉、判事新垣進列席ノ上檢察司波實立會ノ上公判ヲ開廷スト記載アルノミニシテ裁判所書記ハ列席シタル旨ノ記載ナキナリ刑事訴訟法第三百二十九條第二項ニハ明カニ公判廷ハ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ開クト規定スルニ拘ラス裁判所書記カ列席シタル旨ノ記載ナキ以上總テ公判廷ノ事柄ハ公判調書ノミニヨリ

證明スヘキモノナレハ裁判所書記ハ列席セザリシモノト斷スルヨリ致方無シ尤モ調書ノ末尾ニハ裁判所書記石田長利署名捺印シアルモ右ハ別個ノ規定ニ基キ書記カ裁判長ト共ニ署名捺印シタルモノニシテ公判列席者ノ記載ニアラス末尾ニ署名捺印シタル者カ公判ニ列席シタリトハ斷シテ推知シ得サルモノナリ何トナレハ公判中途ニ於テ更替スルコトアリ又公判ニ立會セサル書記カ作成スルコトモ(違法ナルモ)アリ得ヘク又調書ハ公判期日後五日以内ニ整頓スヘキモノナレハ其ノ整頓シタル書記ノ署名捺印アルノ故ヲ以テ右ノ者カ公判廷ニ列席シタリトハ言ヒ得サルモノナルノミナラス本事件全部ノ審理中ニハ他ノ天野書記カ列席シタルコトアルヲ以テ第四回公判ノ際ハ必ス石田書記カ列席シタルモノナリト斷シ得サルモノナリ仍テ列席者トシテノ記載ナキ以上結局列席セザリシニ歸著スルモノニシテ刑事訴訟法第四百十條第一號ノ法律ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セザリシモノニ該當シ常ニ上告理由アルモノナリト云ハサルヘカラス然モ右第四回公判ハ判決ノ基礎トナリタル審理ノ公判ニシテ其ノ後公判更新セラレタルコトナキヲ以テ到底破毀ヲ免レサルモノト云ハサルヘカラス尙又右ノ違法ハ刑事訴訟法第六十條第二項第二號ノ規定ニモ違背シ公判調書ヲ無効タラシムルモノニシテ孰レノ點ヨリシテモ到底破毀セラルヘキモノナリト信ス參考判例「始末書ヲ整頓シタル裁判所書記ノ署名捺印アルモ書記カ辯論ニ立會ヒタルコトヲ記載セサル公判始末書ハ無効ナリ」(大審刑錄七輯五四頁)ト云ヒ「被告人坂本清五郎辯護人稻本錠之助上告趣意書第一點手續法違反論原審第三回公判ハ昭和十五年一月二十

五日開廷セラレ同年三月二日開廷サレタ第四回公判ニ於テ之カ更新手續ヲ履踐シテキルカラ原判決ニ於テ原審公廷ニ於ケル被告人ノ供述ヲ證據ニ援用スルコトハ適法テアル然シ之カ適法テアル爲ニハ右更新手續ヲ履踐シタ第四回公判カ正規ノ裁判所構成ノ下ニ開廷サレタモノテアルコトヲ必要トスルハ論ヲ俟タナイ然ルニ今右ノ第四回公判調書ヲ閱スルニ其ノ冒頭裁判所構成ノ部分ニ（記録一一四四丁裏）裁判長判事岩田誠、判事渡邊辰吉、判事新垣進列席ノ上檢事司波實立會公判ヲ開廷ストノミアツテ裁判所構成上必要ナル書記ノ列席ノ有無ヲ窺フヘキ何等ノ記載カナイ尤モ該公判調書末尾ニ裁判所書記石田長利ノ署名アルモ之ノミヲ以テシテハ果シテ石田長利書記カ列席シタカ怎ウカラ確認スルコトハ出來ナイ殊ニ本件第一回公判及第六回公判ニハ裁判所書記天野徳重カ列席シテキルカラ右第四回公判ニ列席シタル書記ハ調書末尾ノ署名ノミヲ以テ石田長利書記ノ列席アリトハ尙更確認スルコトカ出來ナイ然ラハ畢竟第四回公判ハ適法ニ開廷サレタモノテナク從テ該公判ニ於テ更新サレタ其ノ以前ノ公判ニ於ケル被告人ノ供述ヲ判決ノ證據ニ援用出來ナイコトハ勿論テアル翻ツテ原判決示ノ證據ヲ見ルニ被告人坂本清五郎同松尾嘉右衛門ノ原審公廷ニ於ケル供述ヲ唯一ノ證據トシテ被告人坂本清五郎ノ斷罪ノ資料ニ供シテキルカラ原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀セラルヘキモノテアルト信スト云フニ在リ

仍テ記録ヲ査閱スルニ原審第四回公判調書（記録第一一四四丁以下）ハ其ノ末尾ニ裁判所書記石田長

【要旨第一】

利ノ署名捺印アルモ該公判ニ立會シタル裁判所書記ノ官氏名ノ記載ナキコト洵ニ所論ノ如シ而シテ公判期日ニ於ケル公判調書ハ該公判ニ立會シタル裁判所書記ニ於テ作成スヘキモノナルコト勿論ナルヲ以テ如上立會裁判所書記ノ官氏名ヲ缺如セルニ於テハ刑事訴訟法第三百二十九條第二項ノ要求スル裁判所書記ノ立會アリシヤ否ヲ知り得ヘカラサルハ勿論縱令事實上裁判所書記ノ立會アリシトスルモ該調書カ果シテ其ノ立會裁判所書記ニ依リテ作成セラレタルモノナリヤ又該調書ノ記載カ當該公判手續ヲ如實ニ記載シタルモノナリヤ到底之ヲ確認スルニ由ナキモノトス固ヨリ前記公判調書末尾ニハ裁判所書記石田長利ノ署名捺印アリト雖斯ノ如キハ單ニ刑事訴訟法第六十三條ノ要件ヲ具備シタリト謂フニ止リ未タ以テ同法第三百二十九條、第六十條ノ要件ヲ充實セル公判調書ナリト斷スルヲ得サルナリ從テ右公判調書ハ公判調書トシテノ效力ヲ有セサルモノト謂フノ外ナク採テ以テ證據ト爲シ得サルハ勿論原審裁判所ノ構成及訴訟手續ノ適法ニ行ハレタルコトヲ知り得サルヲ以テ斯ル公判ニ基キ爲サレタル原審判決ハ違法ナリトス論旨執レモ理由アリ而シテ右ノ違法ハ本件事實ノ確定ニ影響ヲ及ホシ而モ被告人大豆生田常八、坂本清五郎、松尾嘉右衛門ハ共同被告人トシテ同一公判ニ於テ審判セラレタルモノナルヲ以テ右ハ同被告人三名ニ對シ執レモ共通ナリト謂フヘク爾餘ノ上告論旨ニ對スル逐一ノ説明ヲ遂クル迄モナク刑事訴訟法第四百五十一條ニ依リ同被告人三名ニ對シ原判決ヲ破毀スルヲ相當トスヘシ然レ共本院自ラ事實ノ審理ヲ爲スハ適當ナラスト認ムルヲ以テ同法第四百四十八條ノ二ニ則

リ同被告人三名ニ對シ主文ノ如ク判決ス

被告人鈴木竹次郎辯護人菅沼廣助上告趣意書第一點原判決ハ證據ニ據ラス不當ニ事實ヲ認定シタル違法アリ原判決ハ摘示理由(二)ニ於テ吉川和助、松本浩造等ト共謀ノ上年三月八日夜前記大和館梅上ノ間ニ於テ寺錢取得ノ目的ヲ以テ布團及盆布等ヲ敷キ賭錢博奕ヲ爲サシムヘキ設備ヲ爲シ以テ圖利ノ目的ヲ以テ賭博場ヲ開張シタルモノニシテ云々ト判示セリ然レトモ其ノ援用ニ係ル何レノ證據ヲ以テスルモ却ツテ賭博場ヲ開張セザリシト云フ消極的證據コソ認メ得ヘケンモ積極的ニ賭博場ヲ開張セリト云フカ如キ證據ハ斷シテ發見スルニ苦シムモノナリ即チ原判決判示(二)ノ事實トシテ援用セル證據ヲ見ルニ被告人ノ當公廷ニ於ケル私ハ昭和十四年三月八日夜吉川和助及松本浩造ト相談ノ上判示大和館ニ於テ寺錢ヲ取ル目的ヲ以テ賭博場ヲ開キタルモ一度其ノ夜ニ近所ノ葛城館ニ淺草水野勇吉ノ盆カ布カレタ爲メ吉川ヤ松本カ頼シテ置イタ客カ皆水野ノ方ニ行キ松尾嘉右衛門カ來タカ同人モ亦水野ノ盆ニ行ツテ仕舞ヒ結局賭博ヲ遣ルコトカ出來サリキトノ旨ノ記載アルコト又被告人ニ對スル檢事ノ聽取書(昭和十四年六月二日附)中被告人ノ供述トシテ私ハ本年三月八日頃ノ夜伊豆長岡溫泉大和館テ寺錢ヲ取ラウト思ヒ丁半ノ盆ヲ布キタルコトアリ……私ハ吉川ニ萬事ヲ任カセテ其ノ日東京ニ歸リ少シ客ヲ探シテ見様ト思ヒタルモ良イ客モ無イノテ八日午後三時頃東京ヲ發チ午後七時頃大和館ニ著キ午後十時頃松本及ヒ吉川ト相談ノ上本館ノ梅上ノ間ニ布團ヲ敷キ其ノ上ニ盆布ヲ布イテ準備ヲシタ

カ其ノ夜近所ノ葛城館ニ於テ水野勇吉ノ博奕カアリ私等ノ當ニシテ居タ北澤、百瀬等ノ親分連中ヤ私ノ兄榮太郎モ水野ノ盆ニ出ルコトニナリ之テハ駄目タト云ヒ居ル所ニ鶴見ノ松尾嘉右衛門カ來タノテ喜ンタカ同人モ亦水野ノ盆ニ行ツテ仕舞ツタ爲結局賭博ハ遣ラスニ盆ヲ切りタリトノ旨ノ記載アルコト面シテ原審カ右ヲ綜合シテ賭博開張行爲アリタリト認定セル旨判示セリ然レトモ凡ソ賭博開張行爲ノ有無ヲ斷センニハ單ニ意思ノミヲ以テ論スヘキニ非ス一定ノ場所ニ於テ賭博ヲ開ク目的ヲ以テ人ヲ誘引スル行爲アルモ未タ何人モ集合セス又集合シタルモ未タ賭博行爲ニ著手セサルトキハ賭博開張ノ行爲ヲ完成シタルモノニ非スト爲スハ學說ノ一致スルトコロニシテ又御院ノ數々判示スル所ナリ(大場茂馬刑法總論第七卷三八六頁)然ルニ原判決ハ單ニ寺錢取得ノ目的ニ出テ設備ヲ爲シタリト云フ主觀的意思ノミニ拘泥シテ客觀的ニ開張行爲其ノモノ有リタリヤ否ヤ之カ判斷ヲ遺脱シ漫然賭博開張行爲アリトシ斷罪ノ資料ニ供シタルハ甚シク失當トシテ此ノ點原判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノ有之ト思料スト云フニ在レトモ

同被告人ニ對スル原判示賭場開張ノ事實ハ原判決舉示ノ當該證據ニ依リ之ヲ證明シ得ヘク記錄ニ徵スルモ原審ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト認メ難シ而シテ賭場開張ノ罪ハ賭博場ヲ開張シテ利ヲ圖リタル行爲ニ關スルモノナルヲ以テ苟モ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲ス設備ヲ爲シ因テ財産上ノ利益ヲ獲得セントスル者ハ賭場開張罪ヲ以テ論スヘク

【要旨第二】

現ニ其ノ賭博場ニ於テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者アルト否トハ之ヲ問フノ要ナキモノトス從テ賭博行爲ニ著手シタルコトヲ前提トスル所論ハ排斥セサルヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ被告人鈴木竹次郎ニ對シテハ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事岡本梅次郎關與

○傷害竝縣會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和十五年(九)第六七八號
同年九月十八日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 三上武雄 辯護人

(平井俊夫
松井登藏
萬城)

【第一審】 五所川原區裁判所 【第二審】 青森地方裁判所

○判示事項

縣會議員選舉ノ投票立會人ニ對スル暴行罪ノ成立ト立會人ノ定數
欠缺

○判決要旨

縣會議員選舉ノ投票立會人カ投票立會中之ニ對シ暴行ヲ加フルト
キハ他ノ投票立會人中參會セサル者又ハ臨時退場シタル者アリテ

縣會議員選舉ノ投票立會人ニ對スル暴行罪ノ成立ト立會人ノ定數欠缺

投票立會人ノ定數ニ缺クル所アリトスルモ投票立會人ニ對スル暴行罪ノ成立ヲ妨ケス

六三八 (九三)

【參照】府縣制第十六條

議員候補者ハ各投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ登録セラレタル者ノ中ヨリ本人ノ承諾ヲ得テ投票立會人一人ヲ定メ選舉ノ期日前二日目マテニ投票管理者ニ届出ツルコトヲ得但シ議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ其ノ届出テタル投票立會人ハ其ノ職ヲ失フ(大正十五年法律第七十三號ヲ以テ全條改正昭和十年第四十四號ヲ以テ中改正)

前項ノ規定ニ依ル投票立會人三人ニ達セザルトキ若ハ三人ニ達セザルニ至リタルトキ又ハ投票立會人ニシテ參會スル者投票所ヲ開クヘキ時刻ニ至リ三人ニ達セザルトキ若ハ其ノ後三人ニ達セザルニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ登録セラレタル者ノ中ヨリ三人ニ達スルマテノ投票立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ投票ニ立會ハシムヘシ

投票立會人ハ名譽職トス

投票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

同制第二十條 投票管理者ハ投票録ヲ作り投票ニ關スル顛末ヲ記載シ二人以上ノ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ(大正十五年法律第七十三號ヲ以テ全部改正)

同制第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

衆議院議員選舉法第九十九條 投票管理者開票管理選舉長立會人若ハ選舉監視者

ニ暴行若ハ脅迫ヲ加ヘ選舉會場開票所若ハ投票所ヲ騷擾シ又ハ投票投票函其ノ他

關係書類ヲ扣留毀壞若ハ奪取シタル者ハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和八年四月頃ヨリ同十四年九月十九日頃迄青森縣北津輕郡六鄉村村長トシテ同月二十五日施行セラレタル同縣縣會議員選舉當日午後三時四十分頃投票ノ爲前記六鄉村役場内ニ開設セラレタル同村投票所ニ到リタルニ同投票所ニ會テ被告人ト二十年來ノ知人ニシテ時ニ被告人ヨリ物質的援助ヲ受ケタルコトアリ且村内ニ於テ同シク政友會員ノ間柄ニ在リタルモ數年來感情ノ疏隔ヲ來シ居リタル須郷論次郎(當時六十八年)カ他ノ候補者ノ投票立會人トシテ列席シ論次郎ハ投票管理者ノ左斜前方立會人席ニ在リテ右六鄉村ニ於ケル各選舉ノ際ノ慣例ニ依リ投票管理者ノ承認ノ下ニ投票ニ經驗ナキ選舉人等ヨリ投票管理者ニ差出スヘキ投票番號札ヲ受ケ之ト引換ニ投票管理者ヨリ夫等ノ選舉人ニ交付スヘキ投票用紙ヲ取次キ居リ被告人ニ對シテモ投票管理者ニ差出スヘキ投票番號札ヲ取次カントシテ前記立會人席ヨリ著席ノ儘右手ヲ被告人ノ方ヘ差延ヘタリ被告人ハ立會人タル同人ノ斯カル所爲ハ被告人カ苟シクモ當該選舉ニ於ケル候補者タル上嘗テ前記六鄉村長タリシ昭和十一年當時施行セラレタル青森縣會議員ニ際リ同村ニ開設セラレタル投票所ノ投票管理者トシテ選舉事務ヲ執行シタルコトアル經驗者ナルコトヲ論次郎ニ於テ當時ノ選舉ニ於ケル某候補者ノ投票立會人トシテ知り居レルニ拘ラス右ノ如キ所爲ニ出テタルハ被告人ヲ侮辱スル無禮ノ所爲ナリト做シ平素粗暴ノ被告人ハ立腹ノ餘リ「馬鹿何ヲスルノタ無禮テナイカ」ト怒罵シ右手指ニ、三本ヲ以テ前記自己ヘ差延ヘタル須郷論次郎ノ右手ヲ掃除ケタル上更ニ右手ノ指ニ、三本乃至握拳ヲ以テ同人ノ左顎部ヲ數回突立テ因テ治療日數約五日間ヲ要スル打撲傷ヲ被ラシメタルモノナリ

縣會議員選舉ノ投票立會人ニ對スル暴行罪ノ成立ト立會人ノ定數欠缺

六三九

(九三)

ト同時ニ刑法第二百四條ノ傷害罪ニ該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルル場合ニ該ルヲ以テ同法第五十四條第一項ノ前段第十條ニ從ヒ重キ傷害ノ罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金五十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人平松市藏万城登上告趣意書第一點原判決ハ法律ノ解釋適用ヲ誤リタル違法アルモノナリ原判決ハ其ノ理由ニ於テ被告人ハ昭和十四年九月二十五日施行セラレタル青森縣會議員選舉當日青森縣北津輕郡六鄉村役場ニ開設セラレタル同村投票場ニ於テ投票立會人トシテ立會シ居リタル須郷諭次郎ニ對シ同人ノ差延ヘタル右手ヲ拂ヒ除ケタル上更ニ右手ノ指二、三本乃至握拳ヲ以テ同人ノ左顎部ヲ數回突立テ因テ治療日數約五日間ヲ要スル打撲傷ヲ蒙ラシメタルモノナル旨ノ事實ヲ判示シ右被告人ノ所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第十九條ノ立會人ニ對スル暴行ノ罪ヲ構成スルト同時ニ刑法第二百四條ノ傷害罪ニ該當スルモノト爲シタリ然レトモ府縣制第四十條ニヨリテ準用セラレル衆議院議員選舉法第十九條ノ投票管理者開票管理者選舉長立會人若クハ選舉監視者ニ暴行若クハ脅迫ヲ加

ヘタル罪ハ適法有效ニ開設セラレタル投票所又ハ選舉會場ニ於テ其ノ投票管理者開票管理者選舉長立會人若ハ選舉監視者トシテ適法ニ其ノ事務ヲ執行シ居ル者ニ對シ暴行若ハ脅迫ヲ加ヘタル場合ニ於テ始メテ或立スルモノナリ故ニ假令立會人若ハ投票管理者トナリタル者ト雖モ其ノ適法有效ニ開設セラレタル投票所又ハ選舉會場ニ於テ其ノ職務執行中ニ非サル場合ニ於テハ右衆議院議員選舉法第十九條ノ罪ヲ構成スルモノニ非サルハ多言ヲ俟タサル所ナリ而シテ府縣制第十六條第二項ニハ「前項ノ規定ニ依ル投票立會人三人ニ達セサルトキ若ハ三人ニ達セサルニ至リタルトキ又ハ投票立會人ニシテ參會スル者投票所ヲ開クヘキ時刻ニ至リ三人ニ達セサルトキ若ハ其ノ後三人ニ達セサルニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ投票區ニ於ケル選舉人名簿ニ登録セラレタル者ノ中ヨリ三人ニ達スルマテノ投票立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ投票ニ立會ハシムヘシ」トノ規定アリ又同第二十條ニハ「投票管理者ハ投票録ヲ作り投票ニ關スル顛末ヲ記載シ二人以上ノ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ」トノ規定アリ此等各規定ヲ綜合スレハ府縣會議員選舉ニ際シ適法有效ナル投票所ノ開設ニハ尠ク共三人以上ノ投票立會人ノ立會ヲ要シ然ラサルトキハ適法有效ナル投票所ノ開設アリタルモノト爲ス能ハサルモノナルコト明ナリ而シテ本件記録ニ依レハ判示昭和十四年九月二十五日ノ青森縣會議員選舉ニ際シ同縣北津輕郡六鄉村ニ開設セラレタル投票所ニ於テハ當初立會人トシテ須郷諭次郎、成田與正、工藤嘉七郎、相川貞太郎ノ四名立會シテ午前七時ニ開設セラレタリ然ルニ被告人カ右投票所ニ臨ミタル午

縣會議員選舉ノ投票立會人ニ對スル暴行罪ノ成立ト立會人ノ定數欠缺

後三時半過頃ニ於テハ立會人須郷諭次郎及成田與正ノ兩名ノミ在席シ工藤嘉七郎及相川貞太郎兩名ハ投票所外ニ立出テ在席セサリシコト明ナリ從テ右當時ニ於テハ同投票所ニ於ケル立會人ハ二名ノミニシテ法ノ要求スル立會人三名ニ達シ居ラス適法有效ナル投票所ノ開設ナカリシコト明白ナリ故ニ縱令須郷諭次郎カ其ノ際投票立會人トシテ同投票所ニアリタリトスルモ之レ適法有效ニ開設セラレタル投票所ニ於テ立會人トシテノ職務ヲ執行シ居リタルモノト爲スコト能ハサルヤ當然ナリ然シテ記録ニ依レハ被告人カ須郷諭次郎ノ差出シタル右手ヲ拂ヒ除クル等ノ行爲ニ出テタルハ右投票立會人ヲ排除シ居リタル間ノコトナルコト明ナルヲ以テ假令被告人カ判示ノ如ク暴行ヲ爲シタル事實アリトスルモ右ハ府縣制第四十條ニ依リテ準用セラルル衆議院議員選舉法第百十九條ニ所謂立會人ニ暴行ヲ加ヘタルニ該當スルモノニ非サルコトハ多言ヲ俟タサル所ナリトス然ルニ原判決ハ敍上ノ事實及法理ヲ無視シ被告人ノ所爲ヲ以テ直ニ前示罰則ニ該當スルモノト爲シタルモノナルヲ以テ則チ冒頭掲記ノ事由アルモノナリト云フニ在レド

【要旨】

苟モ縣會議員選舉ニ關シ投票立會人ニ就任シタル者ガ村役場内ニ開設セラレタル投票所ニ於テ現ニ投票ノ行ハレツツアル現場ニ立會中ナル以上該立會人ハ即チ立會人トシテ其ノ職務ヲ執行シツツアルモノト謂フベク其ノ際他ノ投票立會人中ニ參會セザル者又ハ臨時退場シタル者等アリ因テ定員投票立會人ノ立會ニ缺クルモノアリタリトスルモ以テ此ノ結論ヲ左右スルヲ得ズ從テ如上投票現場ニ於テ如上

投票立會人ニ對シ暴行ヲ加フルトキハ即チ府縣制第四十條ニ依リ府縣會議員ノ選舉ニ準用セラルル衆議院議員選舉法第百十九條所定ノ犯罪ヲ構成スルコト多言ヲ須ヒズ之ト同一見地ニ於テ被告人ノ原判示所爲ヲ以テ右法條ニ該當スルモノト判定シタル原判決ハ至當ニシテ所論ノ如キ違法アルニ非ズ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)以上説明ノ如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事 榎田麟二 關與

○輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反被告事件

(昭和十五年(れ)第九二五號
 同年十月十日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 野田末吉 辯護人 鬼丸義齋

【第一審】 一宮區裁判所 【第二審】 名古屋地方裁判所

○判示事項

昭和十三年七月商工省令第四十八號第一條ノ混紡ノ割合 昭和十四年三月商工省
 告示第六十三號ノ毛絲

昭和十三年七月商工省令第四十八號第一條ノ混紡ノ割合—昭和十四年三月商工省告示第六十三號ノ毛絲

○判決要旨

一 昭和十三年七月商工省令第四十八號第一條ニ規定スル混紡ノ割合トハ製造ニ付遵守スヘキ比率ノ謂ニシテ其ノ製造セラレタルモノカ必スシモ其ノ割合ヲ保有スルコトヲ要スルモノニ非ス【要旨第一】

二 昭和十四年三月商工省告示第六十三號ノ毛絲ハ昭和十三年七月商工省令第四十八號第一條ノ規定ニ依リ混紡九割毛一割ノ割合ヲ以テ製造セラレタル絲ヲ包含スル趣旨ナリトス【要旨第二】

【參照】 昭和十三年七月商工省令第四十八號第一條 梳毛絲ヲ製造スル場合ニ於テハ輸出品(關東州滿洲國又ハ中華民國ニ輸出スルモノヲ除ク以下同シ)及輸出品ノ原料又ハ材料ニ用ユルモノヲ除クノ外其ノ太サヲメートル式番手九番、十六番、二十番、三十番、三十二番、三十六番、四十八番、五十二番、六十番、六十四番又ハ七十二番ト爲シテステープルファイバー其ノ他ノ毛又ハ綿ニ非サル纖維ヲ重量割合ニ於テ五割、六割、七割、八割又ハ九割混紡スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限りニ在ラス

前項ノ混紡毛絲ニハ混紡シタル纖維ノ種類及其ノ混紡割合ヲ表示スヘシ

昭和十四年三月商工省告示第六十三號 絲配給統制規則第一條第一項ノ規定ニ依リ

左ノ通絲ヲ指定シ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

毛絲(重量割合ニ於テ一割以上ノ毛ヲ含ム絲ヲ謂フ但シメートル式番手九番及十六番ノ三合燃絲及四合燃絲並ニ層絲ヲ除ク)

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定證據ノ說明辯護人等ノ主張ニ對スル判斷並法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二千五百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金十圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ肩書住居地ニ工場ヲ設ケ織物製造業ヲ營ミ居ルモノナルトコロ昭和十四年四月一日ヨリ同年五月三十一日ニ至ル迄ノ間右工場ニ於テ商工大臣指定ノ統制團體ヨリ割當テラレタル同大臣指定ノ梳毛絲ノ數量同年四月分ハ千三百八十七封度同年五月分ハ千四百三十二封度九分ナルニ拘ラス右割當數量ヲ超過スルコト合計五百一十一封度七厘(四月分九十七封度八厘五月分四百十三封度九分九厘各超過)ノ梳毛絲ヲ輸出品又ハ輸出品ノ原料若ハ材料ノ製造ノタメ使用スル場合ニ非スシテ國內用織物ノ製造ニ使用シタルモノナリ

證據ヲ按スルニ判示事實ハ

一 被告人ノ當公廷ニ於ケル自分カ昭和十四年四月及五月ニ於テ梳毛絲ト思ヒ使用シタル絲ノ中ニハ毛ノ含有量重量割合ニ於テ一割ニ滿タサル混紡絲約七百封度アリテ右ハ梳毛絲ニ非サルヲ以テ自分ハ本件ニ於テ梳毛絲ノ割當數量ヲ超過使用シタルコトトハナラズト辯疏スル外判示事實ト同趣旨ノ供述

昭和十三年七月商工省令第四十八號第一條ノ混紡ノ割合 昭和十四年三月商工省告示第六十三號ノ毛絲

一 被告人ノ當公廷ニ於ケル昭和十四年三月末日現在ノ自分方ノ梳毛絲ノ手持ハ一萬一千二百封度アリ右手持量ノ申告ヲ爲シ梳毛絲トシテ使用シタルカ此ノ内ノ七百封度許リノ絲ハ萩原毛絲紡績合名會社カラ買ヒタルモノニシテ羊毛一割スフ九割ノ混紡絲ト云フ話ナリシ右ノ絲ハ昭和十四年四月及五月中ニ織ツタ五千番及エス百二十一エス百二十四等ノ織物ノ横絲ニ使用シタル旨ノ供述

一 宮川芳雄ニ對スル司法警察官代理ノ聽取書中同人ノ供述トシテ自分ハ萩原毛絲紡績合名會社ニ勤メ居ルカ昭和十三年十月二十一日ヨリ昭和十四年三月十五日迄ニ同會社ヨリ野田末吉ニ對シ梳毛絲合計五千七百四十二封度五分ヲ販賣シタリ其ノ絲ハ全部羊毛一割スフ九割ノ混紡絲ニシテ其ノ混用割合ハ會社ノ帳簿ニ依リ判然シテ居リ梳毛絲ニ間違ヒナキ旨ノ記載

一 證人川久保元ノ當公廷ニ於ケル毛製品ステープルファイバー等混用規則ニ關シ昭和十三年七月七日臨時物資調整局第四部長ノ通牒ニ依リ梳毛絲ノ混紡割合ハ全重量ノ二分ヲ公差トシテ認メラレ居ルカ右ハ紡績ノ工程ニ於テ纖維カ落チルコトカアリ又製品ノ或部分ニハ毛カ多ク入り他ノ部分ニハ少ク入ルト云フ様ナコトカアリ要スルニ技術ノ關係テカツキリ何割混紡ノ絲ヲ引クコトハ出來ヌカラ公差ヲ認メタモノト思フ又右混用規則ニ依リ混紡毛絲ニハ混紡割合ヲ表示スルコトニナツテ居リ毛カ八分ノ絲ニハ二分ノ公差ニヨリ一割混紡ノ表示カ爲サレ其ノ絲ハ絲配給統制規則ノ關係ニ於テ一割混紡ノ梳毛絲トシテ業者ニ配給サレ業者モ一割混紡ノ梳毛絲トシテ使用スル旨ノ供述

一 鑑定人瀧本二二作成ノ鑑定書中五〇〇〇スフサーヂニ使用シアル絲ノ毛纖維含有重量割合ハ八分三厘四毛ニシテエスハ一二一三四ノ小兒服地ニ使用シアル絲ノ毛纖維含有重量割合ハ八分九厘七毛ナル旨ノ記載

ヲ綜合シテ之ヲ認ム依テ判示事實ハ其ノ證明アリタルモノトス

被告人及辯護人ハ本件ノ所謂梳毛絲中ニハ毛ノ含有量カ重量割合ニ於テ一割未滿ノモノアリテ右ハ絲配給統制規則

適用ヲ受クヘキモノニアラサルヲ以テ被告人ハ本件ニ於テ適當數量ヲ超過シテ梳毛絲ヲ使用シタルモノニ非スト主張スレトモ前掲證人川久保元ノ當公廷ニ於ケル供述ニ依リ認メ得ルカ如ク絲配給統制規則ニ基キ商工大臣ノ指定シタル毛絲ノ中混紡絲ハ毛製品ステープルファイバー等混用規則ニ依據シテ製造セラレタルモノニシテ右混用規則ニ依レハ梳毛絲ニ付テハステープルファイバー其ノ他ノ毛又ハ綿ニ非サル纖維九割毛一割其ノ他ノ混用割合ヲ定メラレアルモ現在ノ紡績技術上正確ニ毛ノ含有量一割ノ絲ヲ製造スルコトハ殆ト不可能事ニ屬スルトコロヨリ右混用規則運用ノ實際ニ於テハ混用割合ニ二分ノ公差カ認メラレ從テ毛ノ含有量八分以上一割未滿ノモノト雖モ事實上毛一割混紡ノ梳毛絲トシテ取扱ハレ右ハ絲配給統制規則ノ運用ニ付テモ梳毛絲トシテ配給セラレ使用セラルル實情ナル點ニ徵スルトキハ絲配給統制規則ニ基キ商工大臣ノ指定シタル毛絲ノ要件タル毛ノ含有量一割以上トハ之ヲ算數的ニ嚴密ナル意義ニ解セス宜シク右ノ事情ニ即應スル解釋ヲ下シ以テ統制ノ圓滑ナル運用ヲ期スヘキモノニシテ前掲諸證據ニ依リ認メ得ルカ如ク毛ノ含有量八分以上ニシテ梳毛絲トシテ製造セラレ且梳毛絲トシテ使用セラレタル本件ノ絲ハ商工大臣指定ノ毛絲ニ屬シ絲配給統制規則ノ適用ヲ受クルモノト解スルヲ相當トスルヲ以テ右主張ハ到底採用スルヲ得ス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條第五條絲配給統制規則第一條昭和十四年三月二十九日商工省告示第六十三號ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二千五百圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金十圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモスノトス

○ 主 支

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○ 理 由

昭和十三年七月商工省令第四十八號第一條ノ混紡ノ割合 昭和十四年三月商工省告示第六十三號ノ毛絲

辯護人鬼丸義齋上告趣意書第一點ハ原審裁判所ハ被告カ超過使用ヲ爲シタル梳毛絲ナリト認定シ
 絲配給統制規則第一條竝ニ臨時措置法第二條第五條ノ違反ナリト認メ被告ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタ
 ルコトハ重大ナル事實誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノトシテ破毀スヘキモノト信ス本件
 被告人カ昭和十四年四月及五月ニ於テ五百十一封度七厘ノ梳毛絲割當額ヲ超過使用シタリト見ルヘキ
 事實存在スルト雖右超過使用ノ絲ハ本件押收ニ係ル證第一號ノ規格帳中(S第一二一同第一二四)小
 供服及第五〇〇〇スフサイジ規格見本ニ依リ第一審裁判所ニ於テ愛知縣技手瀧本二一鑑定ノ結果何レ
 モ含有毛纖維一割ニ滿タス即チ右第五〇〇〇スフサイジハ毛纖維八分三厘四毛同第一二一同第一二四
 小供服地ハ毛纖維八分九厘七毛ナルコトハ同技手ノ鑑定書ニ依リ一點ノ疑フ餘地ナシ然ルニ原審裁判
 所ハ被告人ノ原審公判延ニ於ケル陳述及同證人川久保元ノ證言竝ニ宮川芳雄ニ對スル司法警察官代理
 ノ聽取書鑑定人瀧本二一作成ノ鑑定書等ヲ根據トシテ右被告人ノ超過使用ニ係ル五百十一封度七厘ヲ
 梳毛絲即チ毛絲ト認定セリ而シテ右證據ノ内容ハ何レモ歸一スル處ナク果シテ何レノ點ニ重點ヲ置キ
 タルヤ甚タ明瞭ヲ缺ク處ナルモ瀧本二一ノ鑑定書ヲ援用シ居ル點ヨリ考察スルトキハ被告人カ超過使
 用シタリト稱スル絲ハ毛纖維一割ニ滿タサルモノナルコトハ原審ニ於テモ之ヲ確認シ居ルモ同證人川
 久保元ノ證言ニ基ク昭和十三年七月七日臨時輸出調整局第四部長ヨリノ知事宛通牒ニ依ル梳毛絲ノ混
 紡割合カ全重量ノ二分ヲ公差トシテ認ムルコトニ對スル陳述ヲ採用シ假令毛纖維ノ含有量カ一割ニ滿

タサル場合ト雖二分ノ公差ノ範圍ニ止ルトキハ毛絲ト認ムヘキモノナリトノ見解ヲ採リ本件ニ對シ有
 罪ノ判決ヲ爲シタルモノナリト思料セラルルニ對シテ絲配給統制規則第一條第一項ノ規定ニ基キ昭和十四年
 三月二十九日商工大臣ノ名ヲ以テ告示第六十三號ヲ以テ指定セラレタル毛絲ハ重量割合ニ於テ一割以
 上ノ毛ヲ含ム絲ヲ指稱スルモノナルコトハ同告示ノ示ス處ナリ故ニ毛絲ノ意義ハ之ヲ變更スヘキ新ナ
 ル同列若クハ其レ以上ノ效力ヲ有スル規定ノ存セサル限りハ微動タモ爲シ得サルコトハ言ヲ待タサル
 處ニシテ原審證人川久保元ノ證言スル處ニ係ル昭和十三年七月七日臨時物資調整局第四部長ノ知事宛
 通牒ハ毛絲製造ニ對スル取扱上官廳間ノ對內的效力ヲ有スル訓令ニ過キササルヲ以テ此ノ通牒ニ依リ元
 ヲリ本則ヲ動カシ以テ國民一般ニ臨ムカ如キコトノ有リ得ヘカラサルコトハ他言ヲ要セスシテ明ナリ
 況ヤ毛絲製造業者ニ對スル毛製品ステールハイパー混用規則ニ基ク技術上ノ監督權行使ニ對スル標
 準ヲ示シタル部下ニ對スル訓令カ對外的ニハ何等ノ效力ヲ持ツモノニ非サルヲ以テ從テ此ノ通牒ニヨ
 リ商工省告示第六十三號ノ毛絲トハ毛纖維重量割合一割以上含有スルモノヲ指稱スト定メラレタルヲ
 此ノ一片ノ訓令ニ依リ毛纖維八分以下ニ顛落スヘキ筋合ノモノニ非サルコトハ火ヲ見ルヨリ明ナル處
 トス殊ニ右二分ノ公差訓令ハ毛絲製造業者ニ對スル取締ノ基準ヲ知事ニ示シタルモノニシテ織物業者
 ニ對シテハ何等ノ訓令等アルコトナク川久保證人ノ證言ニ依ルモ絲配給統制規則ニ依ル毛纖維ノ含有
 量ニ付テハ何等規則竝ニ通牒等無ク只毛絲製造ニ當リ二分ノ公差ヲ認メテ八分以上ノ毛纖維ヲ含有ス

ルトキハ之ヲ梳毛絲ト認メ且ツ梳毛絲トシテ配給シ居ルモ混用規則ニテ梳毛絲ノ公差ヲ認メ乍ラ織物ニハ何等ノ公差ヲ認メラレテ居ラサルコトハ規則ノ不備ナルコトヲ證言シ(記録一九七丁一九六丁)居ル處ニシテ刑罰ノ伴ハサル規則ニ付テハ比附援引或ハ類推解釋モ敢テ不法トスルモノニ非サルモ刑罰法規ニ於テハ嚴トシテ之ヲ排撃スヘキモノナルコトハ當然ノ歸結ニシテ今若シ官吏ニ對スル訓令カ其ノ儘國民ヲ羈束スルカ如キコト有ルトキハ國民ヲ知ラシメスシテ依ラシムルコトトナリ刑罰法規運用ニ於テ最モ慎ミ或ハ戒ムヘキコトハ今更言ヲ待タサル處ナリ從テ本件被告人カ超過使用ヲ爲シタル當時ハ勿論今日ト雖モ所謂毛絲ト稱スルモノハ毛纖維一割以上ヲ含有スルモノニ非サレハ斷シテ毛絲ト稱スルモノニ非ス故ニ假令被告人カ使用ノ當時梳毛絲ナリト認識シナカラ超過シテ製織シタリトスルモ其ノ目的物タル絲ニシテ毛絲ニ非スシテステールハイパーナリトセハ此ノ間違反構成ノ餘地ノ存セサルコト極メテ明瞭ナル處トス更ニ今次事變ニ付物資調整ノ爲毛纖維取締ニ關スル關係法規ヲ見ルトキハ昭和十三年七月八日商工省令第四十八號毛製品等ステールハイパー等混用規則第一條ニ於テ梳毛絲ノ意義ヲ明ニシ梳毛絲トハ毛纖維ヲ重量割合ニ於テ一割以上ヲ使用シタル絲ニシテ紡毛絲ヲ除キタルモノト云ヒ又同年十一月二十五日商工省令第一百號毛織機封絨規則第一條ニ於テ毛織物トハ羊毛山羊毛又ハ駱駝毛ヲ重量割合ニ於テ一割以上用ヒテ製造シタル織物ヲ云フトアリ同十四年二月二十四日商工省令第十三號毛襪配給統制規則第二條ニ於テ毛製品トハ羊毛山羊毛又ハ駱駝毛絲ヲ一

割以上ヲ用ヒテ製造シタルモノヲ云フトアリ斯ノ如クニシテ毛纖維ニ關スル取締ニ付テ何レモ一割以上毛纖維ヲ含有スルモノヲ毛絲若ハ毛織物毛製品ト稱シ何レモ之カ例外的ノ規定或ハ其ノ重量割合ヲ上下異動ヲ爲シタルコト無キ點ヨリ見ルモ本件ノ毛絲ニ付テハ其ノ基準ヲ一割以上ト解スルコトカ極メテ妥當ナルモノト信ス殊ニ物資調整局第四部長知事宛通牒公差ノ意義ニ付テハ官民ノ間ニ於テ其ノ解釋甚タ區々ニシテ川久保證人ノ證言必スシモ正解ナリト云フヲ得ス若シ夫レ公差ニハ上不何レニ對シテモ何等ノ制限無キ以上ハ毛纖維一割二分未滿ヲ含有シタル場合ニ於テステールハイパー絲トモ解シ得ヘク甚タ曖昧ナル文章ニシテ其ノ解釋歸一スル處無キニ於テ罪ノ有無ヲ決スヘキ重大ナル根據トナシ得ヘカラサルコトハ假ニ右通牒カ對外的効力アリト解スルトセハ危險此ノ上モナク更ニ織物業者ニ何等關係ナキ而モ對外的ノ効力ヲ有セサル筋合ノ一官吏ノ下官ニ對スル訓令カ其ノ儘國民ヲ羈束スルカ如キハ絕對ニ有リ得ヘカラサルコトナルニ拘ラス而モ原審裁判所ハ此ノ一小官吏ノ曖昧ナル證言ヲ採用シ本件ヲ有罪ニ決定シタルハ著シク事實誤認ニ基クモノナルヲ以テ速ニ破毀セラルヘキモノナリト信ス因ニ今若シ川久保證人ノ證言カ極メテ正シキモノナリトスルモ絲製造業者カ八分ノ毛纖維ヲ含有スルモノヲ梳毛絲ト銘シ毛織業者ニ送荷スルトキハ事實上一割以下ノ毛纖維ヲ含有スル絲カ直チニ一變シテ毛纖維一割以上ヲ含有スル事實ニ反スル毛絲ト變形スルコトトナリテ刑罰法規解釋ノ上ニ於テ想像タモ及ハサル奇觀ヲ呈スルニ至ルヲ以テ其ノ解釋ノ不當ナルコトハ他言ヲ要セスシテ明ナ

ル處ト信スト云フニ在リ

【要旨第一】

仍テ案スルニ昭和十三年七月八日商工省令第四十八號毛製品ステイブルファイバー等混用規則ハ其ノ第一條第一項ニ於テ梳毛絲ヲ製造スル場合ニ於テハ輸出品及輸出品ノ原料又ハ材料ニ用フルモノヲ除クノ外其ノ太サヲ云々ト爲システイブルファイバー其ノ他ノ毛又ハ綿ニ非サル纖維ヲ重量割合ニ於テ五割、六割、七割、八割又ハ九割混紡スルコトヲ要スル旨規定スルモ右ハ製造スル場合ニ於ケル混紡ノ割合ヲ定メタルモノニシテ其ノ製造セラレタルモノカ必ス右割合ヲ保有スルコトヲ要スル趣旨ナリト解スヘキモノニ非ス蓋シ原判決モ説明スル如ク現在ノ紡績技術上正確ニ毛ノ含有量ヲ右割合ノ如ク保有セシメテ製造スルコト殆ント不可能ニシテ法令ハ不可能ヲ強ヒルモノニ非サレハナリ而シテ原判決ノ説明スル如ク實際ニ於テ二分ノ差ヲ認メ居ル所以ノモノハ現在ノ技術ヲ前提トスルモノニシテ右省令モ亦技術關係ニ因ル差ヲ認ムル趣旨ナリト解スヘキモノトス蓋シ省令ハ技術關係ヲ考慮シテ定メタルモノト解スヘケレハナリ從テ同條第二項ノ規定ニ依ル混紡割合ノ表示モ第一項所定ノ何レノ割合ニ依リ混紡シタルカヲ表示スルヲ以テ足ル趣旨ニシテ現實ノ割合ヲ表示スルヲ要スル趣旨ナリト解スヘキモノニ非ス又昭和十四年三月二十九日商工省告示第六十三號ニハ毛絲(重量割合ニ於テ一割以上ノ毛ヲ含ム絲ヲ謂フ)ト規定シ恰モ一割以上ノ毛ヲ含ム絲ヲ指ス如ク見ユルモ之亦一割以上ノ毛ヲ含ム絲ハ勿論前掲商工省告示第四十八號第一條ノ規定ニ依リ混紡九割毛一割ノ割合ヲ以テ製造セラレタ

【要旨第二】

ル絲ヲ含ム趣旨ナリト解スルヲ相當トス此ノコトタル上敍ノ法令ノ趣旨ニ依リ之ヲ了解スルヲ得ヘシ然ラハ原判決カ被告人ノ使用セル絲カ毛纖維含有重量割合八分三厘四毛及八分九厘七毛ナルモ商工大臣指定ノ梳毛絲ニ該當スルモノト判示シタルハ正當ニシテ所論ノ如キ誤認若ハ法律ノ解釋ヲ誤リタル不當アルコトナシ所論ハ上敍ト反對ノ見解ニ立脚シテ原判決ヲ批難スルモノニ外ナラス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事柴碩文關與

○輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反被告事件

(昭和十五年(れ)第八〇二號 棄却)
同年十月十二日第二刑事部判決

商工省令第三十九號綿製品ノ販賣制限ニ關スル件ニ所謂綿織物ノ小賣ヲ除キタル販賣

【上告人】 被告人 森川喜一 辯護人

高谷清一 北村金太郎 古賀元吉

【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○ 判示事項

商工省令第三十九號綿製品ノ販賣制限ニ關スル件ニ所謂綿織物ノ小賣ヲ除キタル販賣

○ 判決要旨

綿織物ヲ商品トシテ賣渡シタル場合ハ商工省令第三十九號綿製品ノ販賣制限ニ關スル件ニ所謂綿織物ノ小賣ヲ除キタル販賣ニ該當ス

【參照】 輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律(昭和十二年法律第九十二號)第二條 政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲テ必要アリト認ムルトキハ輸入ノ制限其ノ他ノ事由ニ因リ需給關係ノ調整ヲ必要トスル物品ニ付左ノ措置ヲ爲スコトヲ得

一 命令ノ定ムル所ニ依リ當該物品ヲ原料トスル製品ノ製造ニ關シ必要ナル事項ヲ命シ又ハ制限ヲ爲スコト

二 當該物品又ハ之ヲ原料トスル製品ノ配給、讓渡、使用又ハ消費ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコト

第五條 第二條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分又ハ其ノ命令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

綿製品ノ販賣制限ニ關スル件(昭和十三年六月二十九日商工省令第三十九號) 綿絲、綿織物又ハ綿莫大小ハ小賣ヲ除キ商工大臣ノ指定シタル者以外ノ者ニ對シ之ヲ販賣

(本令施行前ニ爲シタル契約ニ依リ引渡ヲ含ム)スルコトヲ得ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル綿絲、綿織物又ハ綿莫大小ヲ販賣スル者ハ此ノ限りニ在ラス

一 輸出品關東州滿洲國又ハ中華民國ニ輸出スルモノヲ除ク以下同シ

二 輸出品ノ原料又ハ材料ニ用ユルモノ

三 綿製品ノ製造制限ニ關スル件第一項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ製造シタルモノ

四 輸出綿製品配給統制規則第二條但書、第三條但書、第四條但書、第六條但書又ハ第八條但書ノ許可ヲ受ケタルモノ

前項ノ規定ニ依リ商工大臣ノ指定シタル者ノ買受ケタル綿絲、綿織物又ハ綿莫大小ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

第一項ノ規定ニ依リ商工大臣ノ指定シタル者其ノ買受ケタル綿絲、綿織物又ハ綿莫大小ヲ販賣セントスルトキハ商工大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前三項ノ綿絲、綿織物及綿莫大小ニハステールフアイバーヲ混用シタルモノヲ含ム

商工省令第三十九號綿製品ノ販賣制限ニ關スル件ニ所謂綿織物ノ小賣ヲ除キタル販賣

物品販賣價格取締規則(昭和十三年七月九日商工省令第五十六號)第一條 商工大臣ノ指定スル物品ヲ販賣スル者ハ何等ノ名義ヲ以テスルチ問ハス其ノ指定ノ前日ニ於ケル販賣價格ヲ商工大臣又ハ地方長官カ販賣價格ヲ指定シタルトキハ其ノ販賣價格ヲ超ユル對價ヲ以テ當該物品ヲ販賣(指定前ニ爲シタル契約ニ依ル引渡チ含ム)スルコトヲ得ス但シ輸出スル場合、取引所ニ於テ賣買スル場合及已ムチ得サル事由ニ依リ卸賣ニ付テハ商工大臣、小賣ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限リニ在ラス

鐵鋼配給統制規則(昭和十三年六月二十日商工省令第三十三號)第二條 鐵鋼ノ製造業者又ハ販賣業者(シヤリシヤ業者ヲ含ム以下同シ)ハ官廳、公共團體又ハ商工大臣ノ指定シタル團體(以下統制團體ト稱ス)ニ於テ發行スル鐵鋼割當證明書ト引換フルニ非サレハ鐵鋼ヲ使用スル者ニ對シ鐵鋼ヲ販賣スルコトヲ得ス但シ左ニ掲クル場合ハ此ノ限リニ在ラス

- 一 左ノ各號ノ一ニ該當スル鐵鋼ヲ販賣スルトキ
- イ 御料品
- ロ 官廳ニ於テ購入スルモノ
- ハ 公共團體ニ於テ購入スルモノ
- 二 製鐵用原料又ハ材料トシテ製鐵事業者ニ鐵鋼ヲ販賣スルトキ
- 三 天災事變其ノ他已ムチ得サル事由アリタルニ因リ鐵鋼割當證明書ニ依ルコトヲ得サルトキ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役四月ニ處スル旨判決シタリ

被告人ハ染色業ヲ營ミ居ルモノナルトコロ

第一 昭和十四年二月五日頃大阪市西區靱下通一丁目八番地綿布ブローカー成瀬與一方ニ於テ商工大臣ノ指定シタル者以外ノ者タル同人ニ對シ法定ノ除外事由ナク且地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ國防色ニ染色加工シタル廣幅物純綿葛城二百反ヲ代金六千圓ニテ卸販賣シ

第二 昭和十三年十一月十二日頃ヨリ同十四年二月下旬頃迄ノ間前後約七回ニ互リ前記成瀬與一外一名ノ依頼ヲ受ケ大阪市旭區赤川町千三百三十二番地ノ一ナル被告人工場ニ於テ法定ノ除外事由ナク且地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ經緯ニ英式二十番手以下ノ純綿單絲ヲ用ヒテ製織シタル廣幅物コールル天生地十六反葛城合計三百三十五反細布合計六百反ヲ加工賃合計金約千六百六十圓ニテ國內向トシテ墨色又ハ國防色ニ染色加工シタルモノニシテ右第二ノ各所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中判示第一ノ所爲ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條昭和十三年商工省令第三十九號綿製品ノ販賣制限ニ關スル件第一項昭和十三年商工省令第六十二號綿製品ノ販賣並ニ加工ノ制限ニ關スル兩省令ノ制限ニ拘ラス販賣シ又ハ加工ヲ爲スコトヲ得ルノ件前記法律第五條ニ該當シ判示第二ノ所爲ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條昭和十三年商工省令第七十號前記法律第五條刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ各所定刑中夫々懲役刑ヲ選擇シ以上兩罪ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ則リ犯情重シト認ムル判示第一ノ罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役四月ニ處スヘキモノトス

商工省令第三十九號綿製品ノ販賣制限ニ關スル件ニ所謂綿織物ノ小賣ヲ除キタル販賣

○主 文

六五八 (三)

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人高谷清一郎上告趣意書第一點ハ原判決ハ刑事訴訟法第四百十四條ニ該當ス可キ事由存ス即チ原
判決判示第一ノ事實ハ「卸販賣」ニアラス原判決カ證據ト爲シタル被告ニ對スル檢事聽取書第五項ニ依
レハ「先ニ申シマシタ成瀬ニ賣ツタ二百反ハ又一洋行カラノ注文テ葛城ヲ茶ニ染メマシタカ昭和十二
年十二月頃迄ニ二百反許リ不出來ニナリソレヲ手持致シテ居タノテスカ成瀬ニ賣ル前ニ國防色ニ染メ
テ賣ツタノテス不出來品ノ代リハ武カラ二百反買ツタノテアリマス」又第一審裁判所ノ公判ニ於テ被
告ハ「問此ノ違反ヲスル様ニナツタ事情ハ什ウカ答他所カラ染色ヲ頼マレタノカ不出來テ納メルコト
カ出來ナカツタノテ手持ニナツテ居タモノテスカラソレヲ賣ツタノテハナイカ答ソナコトハアリマセン私
ハ何故屈出ナカツタカ賣ル意思カアツタカラ屈出ナカツタノテハナイカ答ソナコトハアリマセン私
ハ二等品タカラ構ハヌタロウト思ツテ居タノテス」以上ノ供述ニ依レハ本件取引ニ於テ行ハレタル賣
買ハ第一「染損シニ依ル手持品所謂不出來品ト稱スルモノニシテ之ヲ具體的ニ詳述スレハ本件賣買ノ
目的ニ供セラレタル物品ハ當初又一洋行ヨリノ染色加工ノ注文ニ依リ同洋行ヨリ屈ケラレタル「葛城」
ト稱スル生地ヲ茶色ニ染色ナシタル處注文通ノ仕上ケ爲シ得サリシ爲ニ被告ハ武爲太郎ヨリ同様ノ生

地ヲ買取り漸ク注文通りニ染色爲シタルヲ以テ之ヲ又一洋行ニ納入シ前記又一洋行ヨリ交付ヲ受ケタ
ル被告人ノ染色加工不出來品ハ其ノ儘被告ノ手持ト爲リタルモノナリ第二、而シテ右被告ノ手持ト爲
リタルハ昭和十二年十二月頃ノコトナリ第三、被告ハ右手持トナリタル染色加工品ヲ更ニ本件成瀬與
一ニ賣却スル前昭和十三年一月頃(控訴公判調書)ニ國防色ニ再染爲シタルモノナルコト第四、本件物
品ハ二等品ナルカ故ニ届出ヲ要セスト思慮シタルコト第五、而シテ本件被告カ染色加工業ナルコトハ
記録ノ全部ニ徴シ明瞭ナリ右要約スレハ本件第一事實ハ被告カ其ノ營業上生シタル廢品ヲ處分爲シタ
ルニ過キササルナリ右ハ賣買タルニ相違ナキモ恰カモ吾人カ日々ノ生活上生スル反古類ヲ屑屋ニ拂フニ
等シク或ハ各種ノ製造業者カ其ノ製造工程ニ於テ其ノ材料屑ヲ拂フニ均シク而シテ之等ノ廢品中ニハ
其ノ儘使用セラルルモノアル可ク或ハ種々ノ加工ヲ施サレタル上使用セラルルモノモ存ス可キモ之ヲ
目シテ卸販賣若クハ小賣販賣ト稱スルコトハ絶對的ニ在リ得ヘカラサルコトナリ如何トナレハ該卸販
賣若クハ小賣販賣ノ觀念ハ本法商法上ニ於ケル商行爲ノ範圍ニ屬スルモノニシテ夫レ自體商行爲ナレ
共本件廢品ノ賣却ノ如キ該商行爲ノ觀念ヲ容ルル餘地無キモノナレハナリ而シテ昭和十三年商工省令
第三十九號綿製品ノ販賣制限ニ關スル件ハ凡テノ賣買行爲若クハ綿製品ニ對スル所有權行使ノ全部ヲ
禁止シタルモノニアラサルコトハ該省令中「小賣ヲ除キ」ト規定シ「販賣スルコトヲ得ス」ト規定セルニ
徴シ明白ニシテ蓋シ該制限ノ趣旨ハ從來本邦ニ無制限ニ輸入セラレタル綿製品ノ原料タル綿花カ支那

商工省令第三十九號綿製品ノ販賣制限ニ關スル件ニ所謂綿織物ノ小賣ヲ除キタル
販賣

六五九

(三)

事變處理ノ爲資金調整ノ關係ヨリ著シク輸入制限セラレタル關係上該綿製品ノ製造ニ關シテ最モ緊要有效ナル用途ニ付テノミ其ノ製造ハ許可セラレテ之又製造上ニ大ナル制限ヲ受クルニ至リシヲ以テ從來國內ニ存在スル綿製品ノストックニ付テモ出來得ル限り浪費ヲ制シテ最モ適切緊要ナル方面ニ充分振向ケシムル方針ノ下ニ小賣商以外ノ者ノ手持品ニ付キテハ之カ販賣先ヲ指定シ以テ既製綿製品ノ確保ヲ爲サントスルニアルモノナリ而シテ該販賣制限中ヨリ小賣ヲ除外シタル所以ノモノハ綿製品ニ對スル販賣制限ノ趣旨前掲ノ如クナルモ既ニ小賣商ノ手中ニ存スル綿製品若クハ消費者ノ有スル綿製品ヲ動員シ又ハ其ノ販賣若クハ使用ヲモ制限セントスルモノニハアラス唯從來消費者ヘノ一大配給機關タリシ國內ノ百貨店ニ對シテハ本件省令發布ノ前日タル昭和十三年六月二十八日附商工省商務局長ノ名ヲ以テ一三商局第一〇八九號綿製品ノ販賣制限ニ關スル件本夕不取敢電報便ヲ以テ標記ノ件ニ關シ通達シ置キタル處右ハ綿製品ノ國內生産並ニ消費ノ制限ニ伴ヒ現在ストック品ニ付テハ今後最モ適切ナル用途ニ之ヲ振向ケシムル要有之特定機關ヲシテ一時之ヲ買上ケシメ然ル後ニ於テ合理的ナル配給ヲ圖ラントスルモノニシテ右ニ關スル省令ハ別紙ノ如ク明二十九日附ヲ以テ發令セラルルモノナルカ同省令ニ於テハ卸賣ノミニ適用シ小賣ニ付テハ別段適用シ居ラサルモ百貨店ニ付テハ大量販賣大量ストック等ノ點ニ鑑ミ本件ノ如キ國策ニ參加スルヲ至當ト思料セラルルニ付今回打電致シ置キタル次第ニ有之充分右通達ノ趣旨ヲ體シ政府ノ採ラントスル國策ヲ遵守セラレ度此段及通牒候也ノ通牒ヲ發

シテ各百貨店ニ於ケルストックノ賣止ヲ實施シタルモノナリ從テ本省令ニ依リ綿製品ノ販賣制限ヲ受クル者ハ綿製品ノ製造業者及卸賣業者ニシテ本件被告ノ如キ其ノ何レニモ屬セサル者ノ賣買ハ本省令ノ適用ヲ除外セラレタルモノナリ然レ共被告ヨリ該綿製品ヲ買取りタル者カ更ニ之ヲ卸賣爲サントスル場合若クハ之ニ加工爲サントスル時ハ各省令ノ適用ヲ受ケ或ハ又其ノ儘輸出セントスル場合ハ所定ノ手續ヲ爲ササル可カラサルコトハ論ナシ之ヲ換言スレハ被告ノ如キ場合ハ恰カモ屑鐵又ハ屑ゴム等ヲ回收爲サントスル蒐集業者ニ之ヲ賣却スルニ均シキモノニシテ之ヲ買受ケタル蒐集業者ハ各種統制法規ノ適用ヲ受クルモノナレ共之ヲ賣却スル者ニ付テハ何等ノ制限ヲ受ケサルモ毫モ其ノ弊害ナキモノナレハナリ更ニ例セハ本件被告カ前記不出來品ヲ動産質ト爲シタル場合該質權者カ之ヲ競賣ニ付シ若クハ任意賣却スル場合ノ如キ本件販賣制限ヲ受クルコト無キト其ノ軌ヲ一ニスルモノト謂フ可シ以上縷述ノ如ク本件賣買ハ卸販賣ニアラサルニ不拘原審裁判所カ斯ク認定シタルコトハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ル可キ顯著ナル事由アルヲ以テ速カニ原判決破毀ノ上適當ノ御裁判相仰候ト云ヒ辯護人清瀨一郎同北村金太郎上告趣意書第一點ハ原判決ハ昭和十三年商工省令第三十九號ノ解釋ヲ誤リ其ノ結果罪ト爲ラサル事實ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲シタル違法ノ判決ナリ昭和十三年六月二十九日商工省令第三十九號(其ノ後同年七月二十九日及十一月十四日ニ一部修正セラル)ノ第一項ノ本文ハ次ノ如シ曰ク「綿絲綿織物又ハ綿莫大小ハ小賣ヲ除キ商工大臣ノ指定シタル者以外ノ者ニ對シ之ヲ販

賣(本令施行前ニ爲シタル契約ニ因ル引渡ヲ含ム)スルコトヲ得ス。ト右省令第一項本文中「販賣」ト
 言フ文字ノ含蓄如何カ本件ニ於テ問題ト爲ル主要ノ點ナリ我國ノ法律用語トシテ「販賣」ナル文字ハ
 税法其ノ他ノ行政法規商事法規竝ニ先年來制定ノ各種法規ニ屢々使用セラレタル文字ナリ其ノ意味ハ
 其ノ使用ノ場所ニ依リ幾分ノ相異アレトモ要スルニ營利ノ爲ニスル繼續的組織的ノ物品賣渡行爲ナリ
 ト解スルヲ妥當ノ見解ナリト考フ(此ノ文字ノ語源ヲ深究スルニ説文ニハ「賤ヲ買ヒ貴ヲ賣ルナリ」
 ト在リ)故ニ例ヘハ普通人カ自家所有ノ不用ノ物品ヲ賣拂フ如キ場合ハ之ヲ販賣ト稱スル者ナシ又
 例ヘハ加工業者カ注文者ノ委託ヲ受ケ加工ヲ爲ス際仕損シテ爲シタル爲注文者ニハ代品ヲ加工シテ引
 渡シタル爲偶々自己ノ手許ニ仕損品ノ殘留シタルカ爲之ヲ他ニ處分シテ手ヲ抜クト云フカ如キ場合ハ
 之ヲ販賣ト言フヘキニアラス此ノ點ニ關シ行政裁判所ニ於テ明治四十一年二月二十日次ノ如キ裁判ヲ
 爲シタルコトアリ夫ハ其ノ當時施行セラレタル營業税法中ノ物品販賣業ト云フコトノ意義ニ關スル問
 題ナリ税法ニ於テハ取引所ノ仲買人カ定期取引ニ於テ轉賣買戻シテ爲シ差金ヲ得ルヲ目的トスル賣買
 行爲ハ之ヲ販賣トハ解セサルナリ然ルニ或ル仲買人カ轉賣ノ機ヲ失シ米穀ノ現物ヲ引取り之ヲ處分シ
 タル場合ハ販賣ト言フヘキヤノ問題ヲ生シタリ此ノ問題ニ對シ行政裁判所ハ仲買人カ受米ヲ爲シ之ヲ
 處分スルカ如キハ畢竟自己當初ノ意思ニ反シ受米ヲ爲ササルヲ得サルノ境遇ニ陥リタル結果止ムヲ得
 サルニ出テタルモノニシテ之ヲ以テ米穀販賣ノ業ヲ爲シタリト言フヘキニアラスト判斷セリ右判斷ハ

移シテ以テ本件ノ場合ノ解釋ニ資スヘキナリ殊ニ右昭和十三年商工省令第三十九號ノ發布竝ニ運用ノ
 事情ヲ見ルモ此ノコトハ明白ナリ右商工省令第三十九號第一項ニハ綿絲綿織物綿莫大小等ハ一旦之ヲ
 商工大臣ノ指定シタル者ニ對シ販賣スヘキモノト爲シタルカ然ラハ商工省ハ此ノ買受人トシテ如何ナ
 ル者ヲ指定シタリヤト云フニ綿織物ニ關シテハ日本綿織物卸商業聯合會日本綿織物工業組合會大
 日本莫大小商業組合聯合會等ノ如キ或ハ商業組合或ハ工業組合ノ聯合會ヲ指定シタリ(昭和十三年商
 工省告示一七五號及同年同省令第三八一號參照)是等ノ聯合會ノ下ニハ各地方ノ商業組合工業組合ナ
 ルモノ隸屬シ此等商業組合工業組合ハ更ニ其ノ地區内ノ組合員ヲ統轄スルモノナリ仍テ組合員即チ組
 織的繼續的ノ綿絲布製造業者竝ニ販賣業者ハ右省令施行ト同時ニ自家所屬ノ商業組合又ハ工業組合ヲ
 通シ前記商工省告示ニ依リテ指定セラレタル聯合會ニ手持品ヲ讓渡スルノ便宜ヲ得セシムルノ組織ナ
 リ從テ此ノ系統ニ屬セサル者ハ手持品讓渡ノ便宜ヲ有セサリシモノナリ此ノ法律施行ノ組織ヨリスル
 モ右商工省令ニ於ケル「販賣」ト云フハ其ノ品物ノ賣渡ヲ營業ノ一科目トシテ繼續的組織的ニ爲ス處
 ノ賣買行爲ナリト言ハサルヘカラス尙ホ此ノ意味ヲ證スヘキ歴史上ノ事實アリ昭和十三年六月二十九
 日綿絲布ノ販賣制限ニ關スル商工省令發布セラレルヤ同日商工大臣ハ特許局會議室ニ民間營業團體ヲ
 招致シ省令ノ趣旨ヲ説明セリ且ツ其ノ後右省令及告示ニ付テハ前記指定聯合會ヨリ商業組合竝ニ工業
 組合員ニ通達セラレタレトモソレ以外ノ者ニ對シテハ官報ニ掲載ノ外特殊ノ告知方法ヲ採リタルコト

ヲ聞カス本件判示第一事實ナルモノハ要スルニ被告人森川喜一カ綿布ヲ唯一回賣渡シタリト云フ事實ナレトモ被告人ハ本來綿布ヲ賣買スル營業者ニアラス單ニ各種織物ヲ染色スル染色業者ニ過キササルナリ然ラハ如何ニシテ判示第一ノ「國防色ニ染色加工シタル廣幅物純綿葛城二百反」ヲ一回ニ限り成瀬某ナル者ニ賣渡シタリヤト言フニ之ヲ原判決カ引用シタル檢事聽取書ニ徵スレハ右葛城二百反ハ同人カ又一洋行ヨリノ注文ニ基キ茶色ニ染色セントシタルカ昭和十二年十二月頃迄ニ二百反許リカ不出來ト爲リ注文者ニ納ムルヲ得ス手持品ト爲リ居リタルカ被告人ハ右茶染不出來品ヲ更ニ國防色ニ染上ケテ成瀬某ニ賣渡シタルモノナリ而シテ賣渡代金ハ六千圓ナレトモ之ニ依リテ得タル利益ハ僅ニ二百圓ニ過キス別ニ利益ヲ得ンカ爲ニ賣買ヲ爲シタルノ形跡ナシ唯染色工程中不出來ノモノヲ生シタルカ爲注文者ニハ其ノ當時自家手持ノ品ニ染色シテ納品シ（記録二二丁司法警察官ノ聽取書ニ依レハ同人カ昭和十三年一月中大阪府泉南郡山直町武爲太郎ヨリ買受ケ居リタル別ノ二百反ヲ以テ完納シタルモノノ如シ）タル爲自己ノ工場ニ手持ト爲リタルモノニ再度他ノ色ヲ掛ケ所謂國防色類似ノ二等品ニ仕上ケ安値ニテ處分ヲ爲シタル事實ナリ斯ノ如キ賣買行爲ハ本來被告人ノ意ニ反シテ止ムヲ得ス爲シタルモノニシテ被告カ營業トシテ組織的繼續的ニ爲ス處ノ行爲ニハアラサルナリ綿絲布販賣禁止ノ商工省令ハ此ノ種ノ賣買ヲ禁止スルモノニアラサルコトハ本論旨前段ニ於テ縷述シタル通りナリサレハ原審公判ニ於テモ被告ハ加工禁止ノコトニ付テハ商工省令ノ存在ヲ了知シ居リタルコトヲ認ムルニ拘ラス販

賣ノ件ニ付テハ「左様ナ規則ノ出來タコトハ少シモ知ラス此ノ事件ヲ檢舉セラレテカラ初メテ知ツタノテアリマス」ト陳述セリ（記録八九丁）此ノ陳述ハ大ニ意味アルコトナリ被告人ハ綿絲布販賣業者ニアラサル爲綿絲布販賣ノ商業組合ニハ屬シ居ラス從テ組合ヨリノ通知ヲ受ケサリシナリ又其ノ販賣ヲ營業ト爲ササル爲斯ノ如キ省令ニ付テハ新聞紙其ノ他ノ記載ニ付キ注意ヲ拂ハサリシモノナリ要スルニ昭和十三年商工省令第三十九號ナルモノハ綿絲布ヲ取扱フ業者カ組織的ニ爲ス販賣行爲ヲ禁止スルコトニ依リ綿絲布ノ國內需要ヲ制限セントシタルニ過キス染色截斷等ノ加工營業ヲ爲ス者カ其ノ意ニ反シ不出來ノ品ヲ生シタル爲偶然手持トナリタルモノヲ任意處分スルコトヲモ禁止スルト云フカ如キ趣旨ヲ包含セサルナリ實際問題トスルモ當時森川喜一ハ大阪市ニ於ケル綿絲布商業組合ニモ又綿布工業組合ニモ屬シ居ラサリシヲ以テ此ノ手持品ヲ商工省ノ指定スル聯合會ニ持込マントスルモ何レノ聯合會ニ持込ムヘキヤモ定マラス（當時斯ノ如キ指定團體ハツアリタリ何レモ東京ニ存在ス）其ノ實行ハ實ニ一般人トシテハ不可能ニ近キ煩雜サヲ伴ヒタルモノナリ斯ノ如キ案件ニ對シ商工省令ノ基本ト爲リシ臨時措置法ニ依リ刑ノ言渡シヲ爲シタルハ冒頭掲記ノ如キ違法アル判決ナリト言ハサルヘカラス原判決ハ此ノ趣旨ヨリスルモ宜シク速ニ破毀セラレ判示第一事實ニ付テハ無罪ノ言渡シアルヘキモノナリトスト云セ「辯護人古賀元吉上告趣意書第一點ハ原審判決ニハ事實ニ付重大ナル誤認ヲ爲シタルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由カ存スルト同時ニ依ツテ罪トナラサル事實ニ付之ヲ罪ナリトシタ

擬律錯誤ノ違法カアルト信セラレマス原審判決ニハ其ノ理由中第一事實トシテ被告人ハ大阪市旭區赤川町七百二番地テ染色業ヲ營ンテ居ル者テアルカ昭和十四年二月五日頃成瀬與一ニ對シ商工大臣ノ指定シタ者テモナイ同人ニ對シ且法定ノ除外理由モナク相當官署ノ許可モ受ケス純綿國防色染葛城二百反ヲ代金六千圓テ卸販賣シタト認定シ其ノ所爲カ昭和十三年商工省令第六十二號綿製品ノ販賣制限ニ關スル件ノ規定ニ違反シ隨テ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反テアルト判示シタノテアリマスカ右原審ノ認定ニ謂フ「卸販賣」ト云フノカ重大ナル事實ノ誤認テアルト信セラレ隨テ其ノ趣旨ヲ以テ被告人ノ所爲カ法律違反テアルトシタノカ間違テイルト思フノテアリマス依テ之ヲ記録ニ現ハレタ諸事實ヲ綜合シテ稽ヘマスルニ被告人ハ其ノ業務テアル染色ノ爲昭和十二年十二月頃又一洋行カラ同洋行ノ所有ニ係ル葛城二百反ヲ茶ニ染メル様トノ注文ヲ受ケ染色シタ處其ノ仕上リカ悪クテ又一洋行ノ受取ル處トナラス被告人ハ止ムナク他ヨリ葛城二百反ヲ買入レ其レヲ茶ニ染色シテ又一洋行ニ納品シタ結果被告人ノ手許ニ前記仕上リノ惡イ葛城二百反カ手残りト爲ツタノテアリマス其處テ被告人ハ閑散時ヲ見計ツテ昭和十三年一月頃其レヲ國防色ニ二度染シテ倉入レシ折カ有レハ其レヲ處分シテ前記染違イノ損失ヲ補填シヨウト考ヘテ居タ次第テアツタノテアリマス處カ其ノ事情ヲ知ツテ居タ被告人方ノ店員藤江榮太郎カ昭和十四年二月五日頃成瀬與一カ其ノ買取リヲ希望シタ處カラ右藤江榮太郎ハ主人ノ意ヲ察シ其ノ場テ前記染直シノ葛城ノ賣買ヲ決シ其ノ頃藤江榮太郎カ前記葛城ヲ倉出

シシテ之ヲ成瀬ニ受渡シ居ル際被告人カ之ヲ發見シテ其ノ店員藤江ニ事ヲ質シタルニ藤江カ「アレハ賣リマシタ」ト説明シ被告人ハ「アイソーカ」ト是ヲ肯キ其ノ際藤江ヨリ代金ヲ領收シタルモノ本案ノ眞實ノ經過テアルト考ヘラルルノテアリマス其處テ右被告人ノ所爲カ果シテ「卸販賣」テアルノカトウカ云フ點ニナリマス勢ヒ卸販賣トハ何ヲ指スカト云フコトニナルノテアリマスカ所謂卸販賣ノ定義ト云フモノハ法令ノ中テモ今日迄明カニナツテ居ラナイノテアリマス只原審判決カ前記被告人ノ所爲ヲ「卸販賣」テアルト認定スルニ至リマシタノハ其ノ引用ニ係ル昭和十三年商工省令第六十二號綿製品ノ販賣制限ニ關スル件ノ規定ニ小賣ヲ除キ其ノ他ノ販賣ヲ禁止シテ居ルノニ鑑ミ被告人ノ所爲ハ小賣ト認メ難シトシテ依テ被告人ノ所爲ヲ特ニ卸販賣ナリト認定シタモノカト考ヘラレルノテアリマスカ其ノ點カ本件ノ疑義トナルモノテアリマス試ニ右商工省令ノ本文ヲ見マスト次ノ様ニ記載セラレテ居ルノテアリマス「綿絲綿製品又ハ綿莫大小ハ小賣ヲ除キ商工大臣ノ指定シタル者以外ノ者ニ對シ之ヲ販賣スルコトヲ得ス」此ノ省令ハ洵ニ小賣ト其ノ他ノ販賣トヲ區別シテ居ルノテアリマシテ隨テ或ル解釋ニ在ツテハ此ノ省令ニ謂フ所ノ小賣ニ非サル販賣ヲ「卸販賣」又ハ「卸販賣」ト解釋シ原審裁判所モ此ノ趣旨ニ於テ「卸販賣」ヲ解釋シテ被告人ノ所爲ヲ卸販賣ナリト認定シタルモノニ相違ナイノテアリマス然シ乍ラ前記商工省令ノ小賣ニ非サル販賣ニ關スル右ノ如キ解釋ハ當時ノ商工省ノ公式解釋等ヲ精査セサルト撰ナル解釋テアルト信セラレルノテアリマス即チ前記商工省令カ發布セラレ

マシタ當時ノ昭和十三年商局第五一七號商務局長ヨリ地方長官ヘノ通牒中ニハ「斯様ニ本省令ニ於テハ小賣商ノミヲ除外シタ結果綿絲綿織物綿莫大小ノ製造業者及卸賣業者ハ此ノ販賣制限ノ適用ヲ受ケルノテアル」ト謂ヒ同年商局第一〇八九號前同様ノ通牒中ニハ「小賣ノ點ニ於テ疑問ヲ生スル點ハ卸商ト小賣商ト兼業スル者又ハ製造業ト小賣業トヲ兼營シツアル者等ヲ如何ニ取扱フカト云フ點テアルカ云々」ト謂ツテ居ルマシ此ノ通牒ハ其ノ立法ノ責任官廳ノ公式解釋テアルト見テ差支ヘナイト考ヘルノテアリマスカ其ノ解釋ニヨルト前記商工省令ニ於テ小賣ニ非サル販賣トハ卸賣業者又ハ製造業者ノ營業上ノ販賣テアルト解釋セラレルノテアリマス此ノ事ハ綿製品ノ販賣ヲ業トセサル一般大衆カ偶々其ノ親戚ニ綿布カ多量アル處カラ對價ヲ出シテ之カ分與ヲ受ケ之ヲ其ノ知友ニ對價ヲ受ケテ更ニ分讓スルカ如キ場合ニ前記省令カ果シテ之ニ適用カ有ルト見ルヘキカトウカト云フ點ニ顧ミマスル時ニ其ノ商工省カ省令ノ適用ヲ綿製品ノ販賣業者ニ限定シテ解釋シタノハ當然ノコトテアルト考ヘラレルノテアリマス隨ツテ例ヘハ綿製品ノ販賣業者ニ非サル破産者ノ破産管財人カ綿製品ヲ綿製品ノ小賣業者ヘ賣渡ス所爲ノ如キモノ又ハ轉居轉宅ニ當ツテ綿製品ヲ古物商ニ賣却スル如キ場合ヲ想像スル時ハ前記商工省令ノ真意カ奈邊ニ在ルカハ之ヲ解スルニ難シトシナイト信セラレルノテアリマス其ノ意味カラ云ヒマスナラハ綿製品ノ卸賣業者テハ無ク只染色業者ニ止ル被告人カ偶然綿製品ヲ手持チスルニ至ツタモノカ之ヲ處分賣シタト云フ本案ノ如キハ前記商工省令ニ所謂小賣ニ非サル販賣ニハ當ラナ

イモノテアルト信セラレルノテアリマス斯様ニ解釋シテ來マスト原審判決カ前敍ノ如キ被告人ノ所爲ヲ綿製品ノ卸賣ナリト判示シタノハ綿製品ノ販賣制限ニ關スル商工省令ヲ誤解シテ其ノ解義ヲ被告人ノ所爲ニ牽強附會シタ無理カアルモノト云ハネハナラス隨テ斯ル判決カ事實ニ付重大ナル誤認ヲ爲シタルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由亦茲ニ存スルモノト信スルモノテアリマスト共ニ依テ原審判決ニハ元來罪ト爲ラサル被告人ノ所爲ヲ罪ヲ構成スルモノテアルト判示シタ明カナル擬律錯誤ノ違法カアルモノテアルト信シマス破毀可然モノト考ヘマスト云ヒ「同第二點ハ原審判決ハ證據ニヨラスシテ事實ノ認定ヲ爲シタ違法カアルト信シマス原審判決ハ其ノ理由中第一ノ事實トシテ被告人カ成瀬與一ニ對シ純綿葛城二百反ヲ卸賣シタ旨判示シテ居ルノテアリマスカ記錄ヲ精査致シマスニ右成瀬與一カ其ノ純綿葛城ヲ消費シタノカ又ハ轉賣シタノカハ明カニナツテ居ナイノテアリマス却ツテ記錄ニ於テハ右成瀬與一カ被告人ニ對シテ米綾生地等ノ少量宛ヲ數度ニ互ツテ染色ノ依頼ヲナシタコトカ明カニセラレテアリマシテ（記錄一二丁同五丁）恰モ成瀬與一ハ綿製品ノ消費者テアルカノ様ニ考ヘラレルノテアリマス元來小賣ト卸賣トハ理論上モ實際問題トシテモ判別ハ難カシイ問題テハアリマスカ商工省ノ商務局長カ綿製品ノ販賣制限ニ關スル商工省令ノ解說トシテ昭和十三年六月二十八日附ヲ以テ各地方長官ニ發シマシタ昭和十三年商局第一〇八九號ノ通牒中ニハ直接消費者ニ賣ル場合カ小賣テ然ラサル場合カ卸賣テアルトシテ居ルノテアリマス右様商工省ノ解釋ヲ一應適切ナ解義テアルト致シマ

スナレハ裁判所ニ於テ一定ノ取引ヲ小賣ト認定シ又ハ之ヲ卸賣ト認定スル爲ニハ其ノ取引ノ相手方ニ付テ其ノ取引ニ係ル物件ヲ費消シタノカ其ノ他ノ處分ヲシタノカヲ確メナケレハナラナイモノテアルト信スル次第テアリマス然ルニ原審裁判所カ斯ル事實ニ付何等ノ證據調ヲ爲サス漫然前記取引ヲ被告人ニ於ケル卸販賣テアルト認定シタノハ明カニ證據ニヨラスシテ事實ヲ認定シタル違法テアルト信シマス隨テ原審判決ハ破毀セラルヘキモノテアルト信シマス云フニ在リ

仍テ案ズルニ昭和十三年六月二十九日商工省令第三十九號綿製品ノ販賣制限ニ關スル件ニ所謂販賣トハ同種類ノ法令タル同年七月九日同省令第五十六號物品販賣價格取締規則第一條及同年六月二十日同省令第三十三號鐵鋼配給統制規則第二條等ニ於ケル所謂販賣ノ意義ト同趣旨ニ解スベキモノナルコトハ特ニ多言ヲ費スノ要ナカルベク而シテ之等法令ニ所謂販賣トハ利益ヲ得ル目的ヲ以テスル一切ノ有償的讓渡ヲ指稱シ其ノ行爲ガ繼續的若ハ反覆的ノモノタルコトヲ要セザルハ勿論行爲者カ他ニ主タル營業ヲ有スルト否トモ亦關ハルトコロニ非ザルハ本院判例(本院昭和十四年(れ)第一一三〇號同十五年二月二十四日判決本院昭和十四年(れ)第一一七八號同十五年三月六日判決)ノ趣旨トスルトコロニシテ原判決引用ノ當該證據ニ依レバ原判示第一事實殊ニ被告人ガ利益ヲ得ル目的ヲ以テ綿布ブローカーナル原判示成瀬與一ニ原判示ノ如ク廣幅物純綿葛城二百反ト云フ相當多數量ノ織物ヲ販賣シタルコトヲ證明スルニ足り右織物ガ商品トシテ賣渡サレタルコトモ亦首肯スルニ難カラザルトコロトス

【要示】

從テ該販賣ガ小賣ニ非ザルコトハ疑ノ餘地ナキトコロニシテ正ニ前示商工省令第三十九號ニ所謂小賣ヲ除キタル販賣ニ該當スベキモノト云フベク原判決ニ卸販賣ト判示スルモ全ク此ノ意味ニ外ナラズト解スルヲ妥當ナリトスルガ故ニ被告人ガ綿製品ノ製造業者若ハ其ノ卸業者ニ非ズシテ染色業者ナルコト本件綿織物ハ所謂統制法實施前ヨリノ被告人ノ業務上ニ於ケル手持品ナリシコト及買受人成瀬與一ノ本件買受織物ニ對スル爾後ノ處分如何ノ如キ所謂事項ハ毫モ本犯罪ノ成立ヲ左右スルニ足ラザルノミナラズ記錄ヲ精査スルモ右事實ノ認定ニ重大ナル誤認アリト疑フニ足ルベキ顯著ナル事由存スルコトナシ然ラバ原判示第一ノ犯罪ノ成立ヲ認メ原判示法令ヲ適用シタル原判決ハ正當ニシテ擬律錯誤其ノ他ノ所論ノ如キ何等ノ違法存スルヲ見ズ論旨ハ孰レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事 横田 麟二 關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件竝之二附帶スル當選無效訴訟事件

(昭和十五年(九)第八六二號 同年十月十二日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 中矢 貞義 外二名 當選無效附帶訴訟被告 中矢 近太郎

辯護人竝附帶訴訟被告訴訟代理人

〔宇和川濱藏 八並武治 米村嘉一郎〕

【第一審】 松山地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

衆議院議員選舉法第三百三十六條ニ所謂「選舉事務長力第一百十二條乃至第一百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス」トノ意義同選舉法第三百三十四條ノ意義——同選舉法第八十四條第二項若ハ府縣制第三十四條トスト」ノ關係

衆議院議員選舉法第三百三十六條ニ所謂「選舉事務長力第一百十二條乃至第一百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス」トノ意義同選舉法第三百三十四條第二項若ハ府縣制第三十四條ノ關係ト衆議院議員選舉法第三百三十六條トノ關係

ノ二第三項ノ公訴ニ附帶スル當選無効判決ト衆議院議員選舉法第百三十六條トノ關係

○判決要旨

一 衆議院議員選舉法第百三十六條ニ所謂選舉事務長力第百十二條乃至第百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トストハ選舉事務長力同法條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於ケル當選ハ同事務長力其ノ刑ニ處セラレタルトキニ於テ無効トスル旨ノ法意ナリ【要旨第一】

二 當選無効訴訟事件ニ付テハ公訴判決ニ於テ選舉事務長ヲ同法第百十二條乃至第百十三條ノ罪ヲ犯シタルモノトシテ刑ニ處スヘキトキハ當選無効ノ判決ヲ爲シ得ルモノトス【要旨第二】

【參照】 衆議院議員選舉法第八十四條第二項 檢事ハ第百十二條乃至第百十三條ノ罪

ニ該ル事件ノ被告人力選舉事務長又ハ選舉事務長ニ非スシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者ナルニ因リ第百三十六條ノ規定ニ依リ當選ヲ無効ナリト認ムルトキハ公訴ニ附帶シ當選人ヲ被告トシテ訴訟ヲ提起スルコトヲ要ス
同法第百十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又

ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品、其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ要應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ
 - 二 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權寄附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲナシタルトキ
 - 三 投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト、選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ第一號ニ掲クル行爲ヲナシタルトキ
 - 四 第一號若ハ前號ノ供與、要應接待ヲ受ケ若ハ要求シ第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ
 - 五 第一號乃至第三號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル目的ヲ以テ選舉運動者ニ對シ金錢若ハ物品ノ交付、交付ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ選舉運動者其ノ交付ヲ受ケ若ハ要求シ若ハ其ノ入申込ヲ承諾シタルトキ
 - 六 前各號ニ掲クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ
- 選舉事務ニ關係アル官吏又ハ吏員當該選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ四年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス警察官吏其ノ關係道府縣内ノ選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキ亦同シ

衆議院議員選舉法第百三十六條ニ所謂「選舉事務長力第百十二條乃至第百十三條ノ罪ヲ犯シタルモノトシテ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス」トノ意義 同選舉法第百三十六條第二項若ハ府縣制第三十四條ノ第二項ノ公訴ニ附帶スル當選無効判決トスル關係

同法第百十三條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ四年以下ノ懲役若ハ禁錮ハ又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メシムル目的ヲ以テ議員候補者若ハ議員候補者タラムトスル者ニ對シ又ハ當選ヲ辭セシムル目的ヲ以テ當選人ニ對シ第百十二條第一項第一號又ハ第二號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ

二 議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メタルコト當選ヲ辭シタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ議員候補者タリシ者議員候補者タラムトシタル者又ハ當選人タリシ者ニ對シ第百十二條第一項第一號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ

三 前二條ノ供與、要應接待ヲ受ケ若ハ要求シ前二號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第一號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

四 前各號ニ掲クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ選舉事務ニ關係アル官吏又ハ吏員當該選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ五年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ四千圓以下ノ罰金ニ處ス警察官吏其ノ關係道府縣内ノ選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキ亦同シ

同法第百三十六條 當選人其ノ選舉ニ關シ本章ニ掲クル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス選舉事務長又ハ選舉事務長ニ非スシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者第百十二條乃至第百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ

亦同シ但シ選舉事務長カ刑ニ處セラレタル場合ニ於テ當選人カ選舉事務長ノ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ選舉事務長ニ非スシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者カ刑ニ處セラレタル場合ニ於テ當選人カ選舉事務長ニ非スシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者ナルコトヲ知ラザリシトキ若ハ其ノ者カ當選人ノ制止ニ拘ラス事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者ナルトキハ此ノ限りニ在ラス

同法第百四十一條ノ二 第八十四條第二項ノ規定ニ依ル訴訟ニ付テハ刑事訴訟法中第五百七十二條第二號第三號第五號乃至第八號第十號乃至第十三號、第五百七十四條、第五百八十二條、第五百八十八條、第五百八十九條、第五百九十一條、第六百條乃至第六百十二條ノ規定ヲ除クノ外私訴ニ關スル規定ヲ準用ス但シ同法第五百七十六條中民事訴訟法トアルハ刑事訴訟法トシ民事部トアルハ刑事部トス

第八十四條第二項ノ規定ニ依ル訴訟ニ付當選無効ノ判決確定スト雖モ其ノ判決ハ公訴ニ付有罪ノ判決確定スルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス
府縣制第三十四條ノ二 衆議院議員選舉法第百十條ノ規定ノ準用ニ依リ當選ヲ無効ナリト認ムルトキハ選舉人又ハ議員候補者ハ當選者ヲ被告トシ第三十一條第一項告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得
前項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得
檢事ハ衆議院議員選舉法第百十二條乃至第百十三條ノ規定ノ準用ニ依ル罪ニ該ル

衆議院議員選舉法第百三十六條ニ所謂「選舉事務長カ第百十二條乃至第百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス」トノ意義同選舉法第百八十四條第二項若ハ府縣制第三十四條ノ二第三項ノ公訴ニ附帶スル當選無効判決ト衆議院議員選舉法第百三十六條トノ關係

事件ノ被告人カ選舉事務長又ハ選舉事務長ニ非スシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者ナルニ因リ同法第三百三十六條ノ規定ノ準用ニ依リ當選ヲ無効ナリト認ムルトキハ公訴ニ附帶シ當選者ヲ被告トシテ訴訟ヲ提起スルコトヲ要ス

衆議院議員選舉法第八十五條、第八十七條、第一百四十一條及第四百四十一條ノ三ノ規定ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル訴訟ニ、同法第四百四十一條ノ二及第四百四十一條ノ三ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル訴訟ニ之ヲ準用ス

府縣制第四十條、府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

刑事訴訟法第五百九十二條、裁判所ハ公訴ノ判決ト同時ニ私訴ノ判決ヲ爲スヘシ

○事實

第二審ハ公訴判決ニ於テ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人中矢貞義ヲ禁錮二月ニ被告人森詰男ヲ禁錮三月ニ被告人川本喜一ヲ禁錮一月ニ處ス(其ノ他ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シ附帶訴訟判決ニ於テ左記ノ理由ニ依リ昭和十四年九月二十五日施行ノ愛媛縣縣會議員選舉ニ於テ溫泉郡選舉區ニ於ケル被告(中矢近太郎)ノ當選ヲ無効トスル旨判決シタリ

昭和十四年九月二十五日施行セラレタル愛媛縣縣會議員總選舉ニ際シ被告人中矢貞義ハ溫泉郡選舉區ヨリ立候補シ同月九日其ノ届出ヲ爲シタル上當選シタル中矢近太郎ノ爲同月九日ヨリ同月二十五日迄ノ間選舉事務長タリシモノ被告

人森詰男ハ同候補者ノ選舉委員ニシテ被告人川本喜一ハ選舉人タリシモノナルトコロ右選舉ニ關シ

第一 被告人中矢貞義同森詰男ノ兩名ハ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ共謀ノ上被告人森詰男ニ於テ其ノ都度被告人中矢貞義ヨリ金員ヲ受取リタル上被告人森詰男ノ手ニ依リ

(一) 同候補者ノ選舉事務所ナル松山市榎町末廣ホテルニ於テ被告人相原健太郎ニ對シ同候補者ノ爲投票取纏運動報酬トシテ同月十七日頃金十圓同月二十四日頃金二十圓ヲ各供與シ

(二) 同月二十二日頃前同所ニ於テ選舉人ナル原審相被告人河本綱三郎ニ對シ同人ノ右候補者ニ對スル投票並選舉運動ノ報酬及費用等トシテ金三十圓ヲ供與シ

(三) 右金三十圓ヲ河本綱三郎ニ供與スルニ際シ前同様ノ目的ヲ以テ同人ト共謀ノ上同人ノ手ヲ經テ同日頃同郡在原村ナル田和四郎方ニ於テ同人ニ對シ同候補者ノ爲ニスル選舉運動ノ報酬トシテ金十五圓ヲ供與シ

(四) 同日頃前記選舉事務所ニ於テ被告人武智登ニ對シ同人ノ同候補者ニ對スル投票並選舉運動ノ報酬並費用等トシテ金五十圓ヲ供與シ

(五) 同日頃前同所ニ於テ被告人江戶常一ニ對シ同候補者ノ爲ニスル選舉運動ノ報酬並費用トシテ金六十圓ヲ供與シ

(六) 同月二十三日頃松山市湊町湊屋萬年筆店ニ於テ被告人川本喜一ニ對シ同候補者ニ對スル投票及選舉運動ノ報酬並費用トシテ金百五十圓ヲ供與シ

第二 被告人中矢貞義ハ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ前記選舉事務所ニ於テ被告人森詰男ニ對シ同人ノ同候補者ニ對スル投票並選舉運動ノ報酬トシテ同月十七日頃金三十圓同月二十二日頃金十圓同月二十三、四日頃金二十

衆議院議員選舉法第三百三十六條ニ所謂「選舉事務長カ第三百十二條乃至第三百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルキハ其ノ當選ヲ無効トス」トノ意義、同選舉法第八十四條第二項若ハ府縣制第三十四條ノ二第三項ノ公訴ニ附帶スル當選無効判決ト衆議院議員選舉法第三百三十六條トノ關係

圓合計金六十圓ヲ供與シ

第三 被告人森詰男ハ第二掲記ノ日時場所ニ於テ被告人中矢貞義カ各同掲記趣旨ノ下ニ供與スルノ情知リヲナカラ同人ヨリ三回ニ合計金六十圓ノ供與ヲ受ケ

第四 被告人川本喜一ハ

(一) 第一ノ(六)掲記ノ日時場所ニ於テ被告人森詰男カ同掲記趣旨ノ下ニ供與スルノ情ヲ知リナカラ同人ヨリ金百五十圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

(イ) 同月二十一日頃松山市平船町金森飲食店ニ於テ同選舉區選舉人タル原審相被告人橋好衛ニ對シ同人ノ同候補者ニ對スル投票並選舉運動ノ報酬並費用トシテ金五圓ヲ供與シ

(ロ) 同月二十四日頃前記選舉事務所ニ於テ被告人相原健太郎ニ對シ同人ノ同候補者ノ爲ニスル選舉運動ノ報酬トシテ金十圓ヲ供與シ

(ハ) 同日頃温泉郡浮穴村原審相被告人向井清太郎方ニ於テ同選舉區選舉人タル同人ニ對シ同候補者ニ對スル投票並選舉運動ノ報酬トシテ金十圓ヲ供與シ

(ニ) 選舉人橋好衛ニ投票並選舉運動ノ報酬ヲ供與スル目的ヲ以テ同日同所ニ於テ前記向井清太郎ニ金十五圓ヲ交付シ

(ホ) 同月二十五日頃前記向井清太郎方ニ於テ同人ニ對シ前記(ハ)ト同趣旨ノ下ニ金十圓ヲ供與シ

タルモノニシテ被告人中矢貞義同森詰男同川本喜一ノ判示所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ各被告人ノ判示所爲中被告人中矢貞義同森詰男同川本喜一ノ各金錢供與ノ所爲ハ各府縣制第四十條衆議

院議員選舉法第十二條第一項第一號ニ被告人川本喜一ノ判示第四ノ(二)ノ(ニ)ノ金錢交付ノ點ハ同條第一項第五號府縣制第四十條ニ被告人中矢貞義ヲ除ク爾餘ノ各被告人ノ各金錢ノ供與ヲ受ケタル所爲ハ各府縣制第四十條衆議院議員選舉法第十二條第一項第四號ニ該當スルトコロ被告人中矢貞義同森詰男ノ判示第一ノ各所爲ハ孰レモ共犯ナルヲ以テ刑法第三十條ヲ適用シ被告人中矢貞義同森詰男同川本喜一ノ判示各所爲ハ夫々連續犯ナルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シ其ノ所定刑中被告人中矢貞義同森詰男同川本喜一ニ對シテハ各禁錮刑ヲ選擇シ夫々其ノ刑期金額範圍内ニ於テ主文第一項ノ刑ヲ量定處斷シ同法第二十一條ニ依リ各被告人ニ對シ主文第二項掲記ノ如キ原審ニ於ケル未決勾留日數ヲ其ノ本刑ニ算入シ被告人森詰男カ判示第三ノ犯行ニ因リ收受シタル利益金六十圓被告人川本喜一カ判示第四ノ犯行ニ因リ收受シタル利益金百圓ハ孰レモ之ヲ沒收スルト能ハサルヲ以テ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第十四條後段ニ則リ當該被告人ヨリ之ヲ追徵スヘキモノトス

本件公訴事實中判示選舉ニ關シ被告人中矢貞義同森詰男ノ兩名ハ昭和十四年九月十八日頃候補者中矢近太郎ノ選舉事務所ナル松山市榎町末廣ホテルニ於テ共謀ノ上同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

(一) 同月十八日頃右選舉事務所ニ於テ原審相被告人窪田忠雄ニ對シ右忠雄ノ同候補者ニ對スル投票及投票取纏選舉運動ノ報酬並右忠雄ヨリ同候補者ニ對スル投票及投票取纏ノ選舉運動ノ報酬トシテ愛媛縣温泉郡選舉區内ニ於ケル選舉人及選舉運動者ニ供セシムル目的ヲ以テ金十圓ヲ被告人中矢貞義ノ手ヨリ之カ供與及交付ヲ爲シ

(二) 同月二十日頃前同所ニ於テ原審相被告人窪田忠雄ニ對シ前同趣旨ノ下ニ金二十圓ヲ被告人中矢貞義ノ手ヨリ之カ供與及交付ヲ爲シ

タリトノ事實ニ付テハ其ノ證明ナキモ右ハ被告人中矢貞義同森詰男ノ各判示犯行ト連續犯ノ關係アルモノトシテ公判

衆議院議員選舉法第三十六條ニ所謂「選舉事務長カ第一百十二條乃至第一百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルハ其ノ當選ヲ無効トス」トノ意義同選舉法第八十四條第二項若ハ府縣制第三十四條ノ第三項ノ公訴ニ附帶スル當選無効判決ト衆議院議員選舉法第三十六條トノ關係

ニ付セラレタルモノト認ムルヲ以テ此ノ點ニ付右被告人兩名ニ對シ特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲サス

● 主 文

本件公訴竝之ニ附帶スル當選無效訴訟ノ上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

● 理 由

附帶訴訟被告中矢近太郎訴訟代理人八並武治同米村嘉一郎上告趣意書第一點ハ被告人中矢貞義ノ公訴ニ附帶スル被告ニ對スル縣會議員當選無效訴訟ニ於テ原審ハ被告ノ當選ヲ無効トセラレタリ然ルニ府縣制第四十條ニヨリ準用セラルル衆議院議員選舉法第三十六條ニハ選舉事務長カ第百十二條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ云々トアルヲ以テ單ニ罪ヲ犯シタル事實ノミニアラス刑ニ處セラルルコトヲ要件トナスヲ以テ當選無效ヲ言渡ス判決ニ於テハ選舉事務長カ第百十二條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル旨ノ判示ヲナササルヘカラス然ラスンハ法ノ要求スル條件ヲ具備セサルモノナリ然ルニ原判決ハ其ノ判示ニ於テ「而シテ中矢貞義ハ事務長トシテ在任中……中略……金員ヲ供與シタル事實ハ當院公訴判決ニ引用シタル證據ニ依リ之ヲ認ムルニ充分ナリ」トノミ判示セラレタルモノニシテ宛モ公訴判決ノ如ク中矢貞義ノ或犯罪事實ヲ認定シタルニ止マリ此ノ事實カ第百十二條ノ罪ニ該當シ同人カ如何ナル刑ニ處セラレタルカニ付テ何等ノ判示ヲ爲スコトナシ尤モ其ノ前半ニ於テ中矢貞義カ起訴セラレ豫審終結決定シテ松山地方裁判所ノ公判ニ付セラレ一審ニ於テ禁錮二月ノ判決ヲ受ケ之ニ對シ控訴申

立ヲナシタルコトハ記錄ニヨリ明白ナリトノ記載アルモ右ハ一審判決ノ記載ニシテ而モ控訴中ナレハ未タ事務長カ刑ニ處セラレタリトノ記載ニ該當セス控訴審ハ控訴審トシテ新ニ右事務長ノ行爲ハ第百十二條ニ該當スル犯罪ニシテ其ノ爲メ刑ニ處セラレタル旨ノ判示ヲ爲スコトヲ要スルハ當然ナリ然ルニ原判決ハ單ニ事務長ノ或行爲ヲ認定シタルノミニシテ之カ第百十二條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタリトノ重要ナル條件ニツキ何等ノ判示ヲナササル理由不備即チ判決ニ理由ヲ附セサルノ違法アリト云ハサルヘカラスト云フニ在リ

仍テ案スルニ所論衆議院議員選舉法第三十六條ニハ選舉事務長カ同法第百十二條乃至第百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トナス旨規定シアルモ同選舉法第八十四條第二項府縣制第三十四條ノ二第三項ニ依レハ檢事ハ前掲犯罪ニ該當スル事件ノ被告人カ選舉事務長ナルニ因リ前掲選舉法第百三十六條ノ規定ニ依リ當選ヲ無効ナリト認ムルトキハ公訴ニ附帶シ當選人ヲ被告トシテ訴訟ヲ提起スルコトヲ要シ其ノ訴訟手續ハ孰レモ原則トシテ刑事訴訟法私訴ニ關スル規定ノ準用アルヘク（同選舉法第百四十一條ノ二第一項府縣制第三十四條ノ二第四項參照）而シテ右準用ニ係ル刑事訴訟法第百九十二條ニハ附帶訴訟ニ關スル判決ハ公訴判決ト同時ニ各其ノ言渡ヲ爲スヘキ旨規定シ又前示選舉法第百四十一條ノ二第二項（府縣制第三十四條ノ二第四項ニ依リ同法條ノ二第三項ノ訴訟ニ準用セラル）ニ前示選舉法第八十四條第二項ノ規定ニ依リ訴訟ニ付當選無効ノ判決確定スト雖モ

衆議院議員選舉法第百三十六條ニ所謂「選舉事務長カ第百十二條乃至第百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス」トノ意義同選舉法第八十四條第二項若ハ府縣制第三十四條ノ二第三項ノ公訴ニ附帶スル當選無効判決ト衆議院議員選舉法第百三十六條トノ關係

其ノ判決ハ公訴ニ付有罪ノ判決確定スルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セサル旨規定シアルヨリ觀レハ前示選舉法第三十六條ノ規定ハ選舉事務長カ同法第一百十二條乃至第一百十三條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於ケル當選ハ選舉事務長カ其ノ刑ニ處セラルトキ無効ト爲ス換言スレハ當選無効ノ判決ニ因ル當選無効ノ效力ノ發生ハ選舉事務長ニ對スル前示犯罪ノ公訴判決カ確定スルコトニ因リ生スルモノナル趣旨ニ過キスシテ公訴ニ附帶スル當選無効ノ判決ヲ爲スニ當リテハ公訴判決ニ於テ前示選舉法第一百十二條乃至第一百十三條ノ罪ヲ犯シタルモノトシテ選舉事務長ヲ刑ニ處スヘキトキハ當選ヲ無効トシテ之カ言渡ヲ爲シ得ルモノト解スルヲ相當トス若然ラストセンカ公訴ニ附帶スル當選無効ノ判決ハ常ニ公訴ト同時ニ言渡ヲ爲スコトヲ得サルヘク又當選無効ノ判決カ公訴判決前ニ確定スルカ如キ場合ヲ生スルコトナク前示選舉法第四百十一條ノ二第二項若ハ刑事訴訟法第五百九十二條等ノ規定趣旨ニ背反スルノ結果ヲ生スヘケレハナリ而シテ原判決(附帶訴訟判決)ハ其ノ前半ニ於テ被告人中矢貞義カ本件選舉ニ際シ被告(附帶訴訟)ノ選舉事務長トシテ選舉運動ニ從事中本件府縣制第四十條ニ依リ準用アル衆議院議員選舉法第一百十二條ノ罰則違反行爲ニ付松山地方裁判所ノ豫審請求ヲ受ケ其ノ後同地方裁判所ノ公判ニ附セラレ公判ニ於ケル審理ノ結果同被告人ニ對スル犯罪ハ證明アリトシテ同人ヲ禁錮二月ニ處シ未決勾留日數中十五日ヲ本刑ニ算入スル旨ノ判決アリタルニ對シ同被告人ヨリ控訴申立ヲ爲シタルヲ以テ原審(公訴第二審)ニ於テ審理ヲ遂ケタルニ同公訴判決ノ被告人ノ犯罪事實(原判示第一ノ

【要旨第二】

一)乃至(六)及同第二事實)ハ同判決引用ノ證據ニ依リ認定スルニ足ル旨說示シ次テ被告(附帶訴訟)訴訟代理人ノ右被告ハ本件選舉事務長ノ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタル旨ノ主張ヲ排斥シ其ノ當選ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第三十六條ニ依リ無効ナル旨說明シ公訴判決ト同時ニ當選無効判決ヲ爲シタルモノナレハ原判決ニハ理由不備等所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事田口環關與

○墮胎幫助被告事件 (昭和十五年(九)第九六五號) 棄却

(昭和十五年(九)第九六五號) 同年十月十四日第二刑事部判決

【上告人】 被告人 渡邊安太郎 辯護人 (三) 輪壽雄 壯北村利夫

【第一審】 新發田區裁判所 【第二審】 新潟地方裁判所

墮胎罪ノ幫助ト其ノ手段

○ 判示事項

墮胎罪ノ幫助ト其ノ手段

○ 判決要旨

墮胎幫助罪ハ幫助者ニ於テ墮胎ノ用具ヲ供與スルト費用ヲ供與スルトヲ問ハス又其ノ費用タルヤ直接手術者ニ支拂ハレタルト否トヲ問ハス成立スルモノトス

【參照】 刑法第六十二條第一項 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス (以下省略)

同法第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三月ニ處ス訴訟費用中證人小野爲清ニ支給シタル分ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 (一) (イ) 被告人安太郎ハ昭和十年春頃ヨリ北清原郡笹岡村大字笹岡關川ハルノト私通シハルノハ妊娠スルニ至リタルカ同女カ世間態ヲ恥チテ墮胎手術ヲ受ケントシタルモ貧困ニシテ其ノ費用ニ窮シ昭和十二年八月頃被告人安太郎ニ墮胎手術料三十圓ノ供與方ヲ求ムルヤ被告人安太郎ハ右ハルノノ求メニ應シハルノ方居宅ニ於テ

右墮胎手術料トシテ三十圓ヲ供與シ以テ右ハルノヲシテ同年九月頃笹岡村大字笹岡小野爲清方ニ於テ被告人長一ニ手術料二十五圓ニテ墮胎手術方ヲ依頼スルニ至ラシメ

(ロ) (中略)

以テ被告人安太郎ハ右ハルノノ墮胎ヲ幫助シ

(二) (イ) 被告人安太郎ト右ハルノハ其ノ後モ情交ヲ續ケ居タルカ右ハルノハ又亦妊娠スルニ至リタルヨリ世間態ヲ恥チ墮胎手術ヲ受ケントシタルモ貧困ニシテ其ノ費用ニ窮シ昭和十三年九月頃被告人安太郎ニ墮胎手術料三十圓ノ供與方ヲ求ムルヤ被告人安太郎ハ右ハルノノ求メニ應シ右ハルノ方居宅ニ於テ右墮胎手術料トシテ金三十圓ヲ供與シ以テ右ハルノヲシテ同年十月頃同居人居宅ニ於テ被告人長一ニ手術料三十圓ニテ墮胎手術方ヲ依頼スルニ至ラシメ

以テ被告人安太郎ハ右ハルノノ墮胎ヲ幫助シタルモノナリ

(中略)

法律ニ照スニ (中略) 被告人安太郎ノ所爲ハ刑法第二百十二條第六十二條第一項ニ各該當スルヲ以テ同法第六十三條第六十八條第三號ニ則リ法定ノ減輕ヲ爲シ右ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ニ係ルヲ以テ同法第四十七條第十條ニヨリ犯情重キ判示第一 (二) ノ罪ノ刑ニ併合罪ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人安太郎ヲ懲役三月ニ處スヘク (中略) 訴訟費用中證人小野爲清ニ支給シタル分ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニヨリ被告人安太郎ヲシテ負擔セシムヘキモノトス (以下省略)

○ 主 文

墮胎罪ノ幫助ト其ノ手段

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人三輪壽壯、細野三千雄、北村利夫上告趣意書第一點被告人ハ原審認定ノ第一ノ(一)其ノ情婦關川ハルノ昭和中十二年申ノ墮胎(二)關川ハルノ昭和中十三年申ノ墮胎ニ付手術料各金三十圓ヲ關川ハルノニ供與シ墮胎ヲ幫助シタルモノナリトノ事實ヲ第一審公判以來否認シ關川ハルノト情交關係アリタルハ昭和十四年七月頃ヨリ同十二月頃迄ニ過キス原審認定ノ第一ノ(一)(二)ノ關川ハルノノ懷胎當時ハ關係ナク昭和十二年中供與シタル金員ハ關川ハルノノ子供カ被告人ノ瓦製造業ノ手傳ヲナシタル手傳賃ニシテ昭和十三年申ニハ金員ヲ供與シタルコトナキ旨陳辯シ來レルニモ拘ラス原審ハ被告人ニ對スル司法警察官第一回聽取書ト同人ノ原審ニ於ケル關川ハルノノ家ノ貧シクシテ二十圓三十圓ト纏リタル金ヲ所持シ居ラサリシ旨ノ供述トノミヲ證據トシテ判決理由ノ如ク認定セラレタリ然レトモ本件ニ於テ司法警察官聽取書ヲ殆ント唯一ノ有力ナル證據トスルハ極メテ危險ナルノミナラス該聽取書ニヨリテハ未タ犯罪事實ヲ肯定スルニ充分ナラスト信ス抑モ金錢ノ供與カ犯罪ノ幫助トナルハ金錢共ノモノカ犯罪ノ用具タルカ又ハ直接ニ犯罪ヲ容易ナラシメタル場合即チ通貨ニ關スル犯罪又ハ贈賄罪等ニ付テアリウル所ナランモ本件ニ於テ金錢ハ元ヨリ墮胎ノ用具ニアラス又金錢供與ハ直接被告人ヨリ手術者ニ支拂ハレタルニモアラス直接ニハ被告人ヨリ關川ハルノニ交付セラレ又第一ノ(一)

ノ事實ニ於テ供與金ノ中金五圓ハ關川ハルノノ家計其ノ他墮胎手術料以外ニ費消セラレタルコト明カニシテ此レヲ供與者タル被告人ノ意思ニ付テ觀察スレハ其ノ金錢供與ハ或ハ情婦タル關川ハルノノ家計費補助或ハ情交ニ對スル對價等複雑ナル意圖アリタルモノト云フヘク此ノ金錢ヲ家計ニ費消スルカ手術料ニ使用スルカノ決定ハ關川ハルノノ自由ニ委セラレ從テ手術料ニ使用セラレサリシトスルモ被告人ハ敢テ之ヲ各メサル趣旨ナリト解ス故ニ被告人ニ於テハ供與金錢カ必ス墮胎手術料ニ使用セラレヘシトノ結果ノ認識換言スレハ金錢ヲ供與セハ必ス墮胎ナル犯罪行ハルヘシトノ認識ナカリシモノト云ハサルヘカラス即チ被告人ハ從犯者トシテ正犯行爲ヲ認識セサリシモノナレハ之ヲ墮胎幫助トナス原判決ハ法律ヲ不當ニ適用シタル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ

從犯ハ罪ノ實行行爲ニ屬セサル行爲ヲ以テ正犯ノ實行行爲ヲ幫助スルニヨリ成立スルモノナルヲ以テ懷胎ノ婦女ノ依頼ニヨリ墮胎手術ヲ受クル費用トシテ金員ノ供與ヲ爲スカ如キハ墮胎罪ノ從犯ヲ以テ論スヘキモノトス蓋刑法第六十二條第一項ノ幫助行爲ニ付テハ其ノ手段ヲ制限セサルヲ以テ墮胎ノ用具ヲ供與スルト金錢ヲ供與スルトヲ問ハス又其ノ金錢タルヤ直接手術者ニ支拂ハレタルト否トヲ問ハサレハナリ原判決ノ認メタル事實ハ論旨摘録ノ如クニシテ之ヲ援用證據ニ參照スレハ被告人ハ關川ハルノト私通シ昭和十二年八、九月頃及同十三年九月頃ノ兩度同人カ懷胎シ墮胎手術ノ費用ヲ求メラルヤ其ノ情ヲ知り乍ラ其ノ都度各三十圓宛ヲハルノニ供與シ以テ同人カ原審相被告人花澤長一ニ手術

【要旨】

料ヲ支拂ヒテ手術ヲ受ケ胎兒ヲ墮胎シタル行爲ヲ幫助シタリト云フニ在ルヲ以テ被告人ノ所爲ハ刑法第二百十二條第六十二條第一項ニ當ルコト洵ニ明ナリ所論ハ更ニ原審ト證據ノ取捨判斷ニ付見解ヲ異ニシ右供與金ヲ以テ別途ノ用ニ供スル爲ナリト謂フモ畢竟獨自ノ意見ニシテ採テ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事柴領文關與

○業務上横領贓物故買被告事件 (昭和十五年(れ)第六一八號 同年十月十六日第三刑事部判決 破毀差戻)

【上告人】 被告人 大沼重司 辯護人 坂田豐喜
 外四名 飯島良平
 【第一審】 横濱區裁判所 【第二審】 横濱地方裁判所

○判示事項

裁判所書記ノ署名捺印ト公判調書ノ效力

○判決要旨

公判調書ニ署名捺印セル裁判所書記ノ氏名カ公判列席者トシテ當該公判調書ニ記載セラレタル裁判所書記ノ氏名ト相違セルトキハ當該公判調書ハ無効ナリトス

【參照】 刑事訴訟法第六十條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ公判調書ヲ作ルヘシ

- 一 公判調書ニハ左ノ事項其ノ他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ
 - 二 判事、檢事及裁判所書記ノ官氏名並被告人、代理人、辯護人、輔佐人及通事ノ氏名
 - 三 被告人出頭セサリシトキハ其ノ旨
 - 四 公開ヲ禁シタルトキハ其ノ旨及理由
 - 五 被告事件ノ陳述及公判開廷中口頭ノ起訴アリタルトキハ其ノ要旨
 - 六 辯論ノ要旨
 - 七 第五十六條第二項ニ掲ケル事項
 - 八 期讀シ又ハ要旨ヲ告ケタル書類
- 裁判所書記ノ署名捺印ト公判調書ノ效力

- 九 被告人ニ示シタル書類及證據物
- 十 公判廷ニ於テ爲シタル檢證及押收
- 十一 裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及訴訟關係人ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項
- 十二 被告人若ハ辯護人最終ニ陳述シタルコト又ハ被告人若ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘタルコト
- 十三 判決其ノ他ノ裁判ノ宣告ヲ爲シタルコト
- 同法第六十三條 公判調書ニハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ
- 裁判長差支アルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ
- 區裁判所判事差支アルトキハ裁判所書記其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ
- 裁判所書記差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ
- 同法第六十四條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得
- 同法第三百二十九條 公判期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於テ之ヲ爲スヘシ
- 公判廷ハ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ開ク
- 同法第四百十條 左ノ場合ニ於テハ常に上告ノ理由アルモノトス
- 一 法律ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ
- (中略)
- 七 審判ノ公開ニ關スル規定ニ違反シタルトキ
- (中略)

十 法律ニ依リ辯護人ヲ要スル事件又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル事件ニ付
辯護人出頭スルコトナクシテ審理ヲ爲シタルトキ
(以下省略)

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ヲ認定シ法律ヲ適用シテ被告人大沼重司ヲ懲役十月ニ被告人出口勇ヲ懲役八月ニ被告人土屋久一ヲ懲役六月ニ被告人川津明三ヲ懲役一年及罰金五百圓ニ被告人菱沼喜三司ヲ懲役十月及罰金五百圓ニ處スル旨(罰金完納不能ノ場合ニ於ケル勞役場留置ノ言渡ハ之ヲ省略ス)ノ判決ヲ爲シタリ

第一(中略)被告人大沼重司ハ重油運送船三幸丸光運丸ヲ所有シ更ニ同第一號八重洲丸及右光運丸等ノ機關手被告人出口勇ハ同三幸丸光運丸ノ船長被告人土屋久一ハ同第五號八重洲丸ノ船長(中略)トシテ何レモ東京市日本橋區茅場町二丁目十一番地中川又吉回漕店監督ノ下ニ同市日本橋區通一丁目一番地日本重油株式會社力橫濱市鶴見區安全町日本石油株式會社鶴見製油所外數箇所ヨリ購入シタル重油ヲ前記運送船ニ積込ミ東京市向島區吾嬬町東四丁目六十二番地株式會社吾嬬製鋼所同市城東區南砂町同會社砂町工場並同市城東區南砂町六丁目四百十番地株式會社宮製鋼所等ニ運搬スル業務ニ從事シ居タルモノナルトコト其ノ運送ニ係ル重油ヲ運送先ナル前記各會社ノ貯油タンクニ荷揚スルニ當リ檢收係ノ査定粗漏ナルニ乘シ密ニ其ノ幾分ヲ船底ニ殘留セシメ置キ歸途之ヲ擅ニ賣却シテ橫領センコトヲ企テ

(中略)

(乙) 被告人大沼重司ハ(一)(イ)三幸丸ノ船長ナル被告人出口勇及其ノ機關手高橋信作ト共謀ノ上兩名ヲシテ昭
裁判所書記ノ署名捺印ト公判調書ノ效力

和十二年十月初旬頃ヨリ昭和十三年十二月下旬頃マテノ間ニ月數回ニ互リ毎回十石乃至十數石位合計約二千石ヲ
(ロ) 光運丸ノ船長ナル間野榮及其ノ機關手吉田記一等ト共謀ノ上兩名等ヲシテ昭和十二年十月初旬頃ヨリ昭和
十三年十二月下旬頃マテノ間ニ月數回ニ互リ毎回五石乃至十八石位合計約八百數十石ヲ

(ハ) 昭和十四年一月頃ヨリ光運丸ノ船長トナリタル被告人出口勇ト共謀ノ上同人ヲシテ其ノ頃ヨリ同年三月上
旬頃マテノ間ニ月數回ニ互リ毎回十二石乃至十四、五石位合計約百數十石ヲ

何レモ其ノ頃前記浮標附近ニ於テ被告人川津明三菱沼喜三司等ニ擅ニ賣却セシメ

(ニ) 昭和十四年三月頃ヨリ自ラ光運丸ノ機關手トナリ其ノ船長ナル被告人出口勇ト共謀ノ上其ノ頃ヨリ同年六
月下旬頃マテノ間ニ月八回位ニ互リ前記浮標附近ニ於テ被告人川津明三菱沼喜三司等ニ毎回五、六石乃至十二、
三石位合計約四百石ヲ擅ニ賣却シ

(中略)

(丁) 被告人土屋久一、林仙太ハ右第五號八重洲丸ニ乗組ミ兩名共謀ノ上昭和十二年九月下旬頃ヨリ昭和十四年六
月中旬頃マテノ間ニ月數回ニ互リ前記浮標附近ニ於テ被告人川津明三菱沼喜三司等ニ毎回二石乃至三十石位合計
千五百石ヲ擅ニ賣却シ

(中略)

以テ横領シタルモノニシテ(中略)各被告人ノ所爲ハ何レモ夫々犯意繼續ニ係ルモノ(中略)ナリ

第二(甲) 被告人川津明三八油仲買人被告人菱沼喜三司ハ重油運送船ノ船長ナルトコロ兩名共謀ノ上判示第一記載ノ
各被告人等ヨリ其ノ運搬ニ係ル重油ヲ贓物タルノ情ヲ知り乍ラ買受ケ更ニ之ヲ賣却シテ利ヲ圖ランコトヲ企テ
(一) 被告人川津明三八被告人小谷文三ヨリ其ノ所有ニ係ル重油運送船叶丸ヲ借受ケ其ノ船長ナル被告人菱沼喜三

司ト共ニ同船ニ乗シ昭和十三年一月頃ヨリ同年十二月頃マテノ間ニ毎月十數回ニ互リ前記浮標附近ニ於テ判示
第一記載ノ各被告人等ヨリ其ノ横領ニ係ル重油合計約四千數百石ヲ買受ケ

(二) 被告人川津明三八昭和十四年二月中旬頃被告人老田常太郎ヨリ其ノ所有ニ係ル重油運送船千才丸ヲ借受ケ
之ニ船長トシテ被告人菱沼喜三司ヲ乗込マシメ其ノ頃ヨリ同年七月初旬頃マテノ間ニ毎月十數回ニ互リ前記浮
標附近ニ於テ同人ヲシテ判示第一記載ノ各被告人等ヨリ其ノ横領ニ係ル重油合計約千石ヲ買受ケシメ

(乙) 被告人川津明三八昭和十四年一月中旬頃ヨリ同年七月上旬頃マテノ間自ラ右叶丸ノ船長トシテ同船ニ乗組ミ
前同様其ノ贓物タルノ情ヲ知り乍ラ毎月十數回ニ互リ前記浮標附近ニ於テ判示第一記載ノ各被告人等ヨリ其ノ領
横ニ係ル重油合計約千石ヲ買受ケ

(丙) 被告人菱沼喜三司ハ右千才丸ノ船長トシテ同船ニ乗組ミ昭和十四年二月中旬頃ヨリ同年七月頃マテノ間ニ
前同様其ノ贓物タルノ情ヲ知り乍ラ毎月數回ニ互リ前記浮標附近ニ於テ判示第一記載ノ各被告人等ヨリ其ノ横領
ニ係ル重油合計約千石餘ヲ買受ケ

以テ故買シ

(中略)

タルモノニシテ以上被告人三名ノ各所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

(中略)

法律ニ照スニ被告人(中略)大沼重司、出口勇(中略)土屋久一(中略)ノ判示各所爲ハ夫々刑法第二百五十三條第六
十條第五十五條ニ(中略)該當スルヲ以テ何レモ其ノ所定期間範圍内ニ於テ(中略)被告人大沼重司ヲ懲役十月ニ被
告人出口勇ヲ懲役八月ニ(中略)被告人土屋久一ヲ懲役六月ニ(中略)ニ處スヘク(中略)被告人川津明三八ノ判示第

裁判所書記ノ署名捺印ト公判調書ノ效力

二ノ(甲)ノ各所爲ハ同法第二百五十六條第二項第六十條ニ判示第二ノ(乙)ノ各所爲ハ同法第二百五十六條第二項ニ夫々該當スルトコロ以上ノ各所爲ハ凡テ連續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ一罪トシテ處斷スヘク被告入菱沼喜三司ノ判示第二ノ(甲)ノ各所爲ハ同法第二百五十六條第二項第六十條ニ判示第二ノ(丙)ノ各所爲ハ同法第二百五十六條第二項ニ夫々該當スルトコロ以上ノ各所爲ハ凡テ連續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ一罪トシテ處斷スヘク(中略)夫々其ノ所定期期及所定金額ノ範圍内ニ於テ被告人川津明三ヲ懲役一年及罰金五百圓ニ被告人菱沼喜三司ヲ懲役十月及罰金五百圓ニ(中略)處シ(中略)被告人川津明三菱沼喜三司小谷文三老田常太郎カ前示各罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ金十圓ヲ一日ニ換算シタル期間(中略)何レモ其ノ被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

原判決中被告人等ニ關スル部分ヲ破毀ス
本件ヲ橫濱地方裁判所ニ差戻ス

○理 由

各被告人辯護人坂田豐喜深町良平上告趣意書第二點公判調書ハ公判廷ニ列席シタル裁判所書記之ヲ作成スルコトヲ要ス依テ原審公判調書ヲ查閱スルニ其ノ第四回公判調書記載トシテ「昭和十五年三月六日橫濱地方裁判所第二刑事部ニ於テ第一回公判調書ニ記載シタルト同一ノ判事裁判所書記列席ノ上公判ヲ開廷ス」トアリ又第五回公判調書記載トシテ「昭和十五年三月十八日橫濱地方裁判所第二刑事部判ヲ開廷ス」トアリ

ニ於テ第一回公判調書ニ記載シタルト同一ノ判事裁判所書記列席ノ上公判ヲ開廷ス」トアリ而シテ原審第一回公判期日ニ於テハ裁判所書記杉山宏カ其ノ公判廷ニ列席シタルコトハ本件記録第二二一一一丁裏ニ明記セラレアル處ナリ然ルニ前記第四回及第五回ノ公判調書ハ右公判ニ列席セサリシ裁判所書記小林謙治ニ依テ作成セラレタルモノナルコトハ本件記録第二四九二丁及同第二五〇一丁裏記載ニ據リ明カナリ果シテ然ラハ前記第四回及第五回公判調書ハ無効ノモノニシテ原審カ斯ル無効ノ書類ニ基キ爲シタル原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

仍テ按ズルニ刑事訴訟法第六十三條第一項ニ依リ公判調書ニ署名捺印スルコトヲ要スル裁判所書記ハ當該公判ニ列席シタル裁判所書記ナルコト言フ俟タズ然ルニ原審第四回及第五回公判調書ノ各末尾ニハ裁判所書記小林謙治ノ署名捺印アレドモ該各調書ノ冒頭ニハ孰レモ第一回公判調書ニ記載シタルト同一ノ判事及裁判所書記列席シタル旨ノ記載アリ其ノ引用ニ係ル第一回公判調書ヲ調査スルニ裁判所書記小林謙治ガ該公判ニ列席シタル旨ノ記載絶エテ無ク却テ裁判所書記杉山宏之ニ列席シタル旨ノ記載存スルヲ見ルノミ夫レ公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ニノミ依リテ之ヲ證明シ得ベキモノナルコトハ刑事訴訟法第六十四條ノ明定スル所ナルニ右第四回及第五回公判調書ニ署名捺印セル裁判所書記小林謙治ガ該各公判ニ列席シタルコトハ其ノ記載前敍ノ如クナル是等公判調書ニ依リテハ之ヲ認ムルヲ得ザルコト勿論ナルガ故ニ結局右第四回及第五回公判調書ハ孰レモ當該公判ニ列席シタル裁判

【要旨】

所書記ニ於テ署名捺印シタルモノト謂フヲ得ザルニ歸スベク斯ノ如キ公判調書ノ無効タルベキハ多言ヲ須ヒザル所ナレバ所詮原審第四回及第五回公判期日ニ於テハ法律ニ從ヒタル裁判所ノ構成アリシコト及訴訟手續ガ刑事訴訟法第四百十條第一號第七號乃至第九號等ニ該當セザル如ク適法ニ行ハレタルコトヲ認ムルニ由ナク即チ刑事訴訟法第四百十條第一號第七號乃至第九號ニ該當スル違法アルニ歸スルモノトス而シテ該違法ガ被告人全員ニ付事實ノ確定ニ影響ヲ及ボスベキモノナルコトハ記録上明白ナルヲ以テ論旨ハ被告人全員ノ爲ニ理由アリ原判決中被告人等ニ關スル部分ハ之ヲ破毀セザルベカラズ仍テ爾餘ノ論旨ニ對シテハ説明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十八條ノ二ニ則リ主文ノ通り判決ス
檢事田口環關與

○殺人未遂竊盜住居侵入被告事件

(昭和十五年(れ)第九七一號
同年十月十六日第三刑事部判決)

棄却)

【上告人】 被告人 戸井政吉 官選辯護人 堀江金治

【第一審】 金澤地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

黄燐ノ使用ト殺人未遂罪

○判決要旨

毒物黄燐ヲ含有スル米飯ヲ攝取セシメテ他人ヲ殺害センコトヲ企テ黄燐ヲ米釜中ニ投入シタル以上煮沸等ノ爲右黄燐ノ分量ニ減少ヲ來シ致死量ニ達シ居ラサリシトスルモ殺人未遂罪ナリト解スヘキモノトス

【参照】 刑法第四十三條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其ノ刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二年ニ處ス押收ニ係ル自轉車用電燈一個(證第十六號)ハ之ヲ沒收ス押收ニ係ル黄燐入りノ壺一個(證第十號)ハ之ヲ被害者ニ還付スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ小學校高等科第一學年修了後實父戸井太三次郎ノ農竝漁業ヲ手傳ヒ居リタルモ數年前ヨリ早發性痴呆症ニ罹

黄燐ノ使用ト殺人未遂罪

リ精神障碍ヲ萌シ更ニ心臟胃ヲ患ヒタル爲次第ニ憂鬱厭世的トナリ近隣ノ者ニ對シテハ勿論家族ノ者等トノ對話スラ之ヲ厭ヒテ避ケ無爲徒食シ昭和十四年七月頃ヨリ肩書居宅續キノ納屋二階ヲ居所ト爲シ爾來家族ト別離籠居スルニ至リタルカ其ノ間貧窮ノ爲充分ノ療養ヲ爲スコト能ハサリントコロヨリ實父及實兄戸井豐作其ノ妻戸井千代子等カ被告人ノ病患ヲ理解セス放擲シテ顧ミサルモノト深ク右家族等ヲ怨ミ且右家人等カ時折近隣ノ東治學前川豊松方野太吉等ト被告人ヲ無爲徒食スル者變リ者ナリト噂シ居ルヲ屢々見聞スルニ及ヒ益々前記ノ者等カ被告人ヲ嘲笑シ相手ニセサルモノナリト信シ痛憤遺ル方ナク果テハ右ノ者等ニ對シ復讐呪咀ノ念ヲ惹起シ其ノ鬱憤ヲ霽シタル上自殺セント思惟シ種々其ノ復讐方法ヲ考究セシ結果遂ニ毒殺手段ニ出シコトヲ決意シ

一 昭和十五年三月初頃ノ夜毒物竊取ノ目的ヲ以テ石川縣河北郡大場村大場尋常高等小學校標本室ニ侵入シ所携ノ自轉車用電燈(證第十六號)ヲ照シテ物色中偶々「毒黃燐水中ニテ貯フ指ナト觸ルルヘカラス」トノ貼紙アル容器中ノ同校理科實驗用燐入ノ黃燐ヲ發見シタルヨリ該燐中ヨリ約三、七瓦ノ黃燐一個ヲ取り出し傍ニ在リタル空罎ニ之ヲ納メ持歸リ以テ右黃燐(證第十號)ヲ竊取シ

二 昭和十五年三月六日河北郡八田村自宅附近ナル菊田外松方ノ食物内ニ右竊取ニ係ル黃燐ノ少量ヲ混入シ同人及其ノ妻トメヲシテ之ヲ食セシメ該黃燐ノ人體ニ及ホス影響其ノ致死量ヲ試驗センコトヲ企テ翌七日午後十時頃右自宅納屋續ナル眞田工場内ニ於テ右黃燐ノ一部ヲ碎キ米二、三粒大ノ一塊ヲ作り其ノ後間モナク之ヲ携ヘ前記ノ菊田外松方ニ至リ裏口ノ戸ヲ開ケ同家炊事場ニ忍入り同所ニ翌日ノ朝飯ノ爲メ準備シアリタル洗米入り一升釜アルヲ發見シ右釜中ニ所携ノ右黃燐ヲ混入シ置ケハ翌朝菊田外松夫妻カ之ヲ食シ腹痛其ノ他身體ニ異狀ヲ惹起スルモノト思惟シ且場合ニヨリテ之カ中毒ノ爲メ同人等カ死亡スル虞レアルコトヲ豫見シ乍ラ右釜中ニ右黃燐(致死量以上)ヲ投入シ置キタルモ翌八日朝菊田トメカ右釜ノ米ヲ炊キ外松ト共ニ食セムトシタルニ該飯ノ異臭ト怪光トニ驚キ之ヲ食

セサリシ爲メ右外松夫妻ヲ殺害スルニ至ラサリシモノナリ

而シテ右學校及住居ニ侵入シタル所爲ハ犯意繼續ニ係リ尙被告人ハ右犯行當時心神耗弱ノ狀態ニ在リタルモノナリ法律ニ照スニ被告人ノ所爲中判示學校及他人ノ住居ニ侵入シタル點ハ刑法第三百三十條第五十五條ニ竊盜ノ點ハ同法第二百三十五條ニ殺人未遂ノ點ハ同法第二百三條第九十九條ニ各該當スルコト判示殺人未遂ノ所爲ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ從フヘク而シテ右住居侵入ト竊盜竝殺人未遂トハ夫々手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ結局其ノ中最モ重キ殺人未遂罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中ノ有期懲役刑ヲ選擇シ尙右ハ心神耗弱者ノ行爲ナルヲ以テ同法第三十九條第二項第六十八條第三號ニ則リ法定ノ輕減ヲ爲シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年ニ處シ押收物件中自轉車用電燈(證第十六號)ハ被告人カ本件竊盜罪ノ用ニ供シタルモノニシテ所有者不明ノモノナルヲ以テ同法第十九條第一項第二號第二項ニ則リ之ヲ沒收シ黃燐入ノ罎一個(證第十號)ハ被告人カ判示學校ニ於テ竊取シタル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百七十三條第一項ニ依リ判示被害者ニ之ヲ還付スヘク訴訟費用ハ同法第二百三十七條第一項ヲ適用シ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理 由

被告人上告趣意書一、津幡署に於ける申立私が最初津幡署へ勾引せられた時既に嫁の訴へに依ると私が以前短刀を振つて脅迫したとか漆巴豆の如き毒草を隠し持つて居たとか贋造紙幣を畫いて居たとか

黃燐ノ使用ト殺人未遂罪

禁厭で人を呪ふ相談をして居たとか云つてありました嫁が家に來て以來十年間未だ曾て一度も反抗的不平一つ云つた覺えの無い私に餘りに酷い仕打だと思ひ極度に嫁に對する憎惡の念が生じ御取調べの西尾司法主任に嫁の事は一切口外せず私の目的は日頃から私を變人者として嘲笑する近所親戚の者に對し怨を抱き是等の人々に對する復讐を圖つたのですと申し上げました一、裁判所に於ける申立先づ近所親戚の最も憎いと思ふ者の名前を云つて見よと積極的に追求を加へられるので私は近所親戚の方の七八名の人々の名前を申し上げました其の時先方様より無理矢理に家族の者にも怨を持つて居るだらうと強ひて鋭い觀察を投げられました而し私の目的は身體を衰弱せしめ又は障害を加へ病氣の苦痛を味合はせてやりたいのが目的でありますと申し上げましたが其の後どうした譯か先方様より御勝手に實父太三郎實兄豊作兄嫁千代子其の他隣人の東次學才野太吉前川豊松等の毒殺を企圖して居たと推定されたのであります一、第三者に就て菊田夫妻に對しては私が投入した程の黄燐で翌日同人等が胃痛腹痛の如き身體に異狀を催した場合は更に分量を加へこれを飯食物に混入し嫁の毒殺を圖つたのであります尙盗んだ黄燐には毒藥御手に觸るべからずと添書してありました故危険なるものと解りましたが斯様な少量で其の異臭に感付れたり又萬一それが爲生命に危険を及ぼす様な事になりはせぬかと云ふ懸念は寸毫もありませんでした一、嫁の毒殺を企てたに就て駐在巡査の中山さんと私は兄弟分を結び無二の親友の間柄でありましたが中山さんの親切に感動され本年三月頃に至り厭世の念が起り

自殺を決意したものの日頃の家庭不和が忍に堪へず嫁は一家の會計を握り一家の主婦たる者が家庭の經濟も顧みず毎日菓子屋に通ひ平均三、四十錢の飲食に耽り其の癖父には寺詣りする一錢の賽錢すら與へず舅の暇を出す始末私には親兄弟の目を盗み世間態を胡魔化し衣食住に危害を加へる年々に老衰する父の姿を見れば今後數年にして如何に悲惨な壽命が迫るかは一目瞭然な事實であります故此の際死出の道伴れに嫁の毒殺を發意したのであります一、博士の檢身に就て身柄の診察としては至極簡単な處があり私の信ずる處夢精の頻發眼病早發性痴呆性の如き疾病を有するは單なる自發的なものとは思はれずこれには何か餘程の精神的苦惱が起因して居たものと思ひます故過去に於て如何なる程度の病症に呻吟して居たか當時の醫師の診斷書を一應御參照なされた上で現在の身柄をレントゲン撮影に依る再鑑定を御願ひ戴きたう御座いました一、證人關係に就て家族及隣人の供述を必要に認められるなら私にも適當な親友の誰かを一人證人として青少年時代に於ける素行や性格を一應御聞きなされた下さる様御願ひ戴きたう御座いました一、抗訴に就て幼少の頃母に別れて以來冷たい家庭の仲で父を助けて未だ人生の春を知らぬ十九歳に罪の無い病魔に誘はれ慘な日常を過し乍ら突然愚な惡意から社會の治安を攪亂する危険性を有する者と断定せられ刑務所へ收容されました裁判に於ける御制裁刑事課の刺激は御尤もなれど私の家庭を充分御檢察下さい日頃喧嘩爭論は何が原因でありますや父が同じ我が子である兄を見捨て弟の私に情愛を傾けて居ると云ふ嫁の量見違から起るのであります親子が互に

眼と眼心と心は相通じて居乍ら外面へ現す事の出来ない理由があります事件發端當時も近所の菊田の宅に斯様な不審な事が露見されたと云つて嫁は逸早くも自分に危険の迫つた事を直感し駐在巡查の奥さんに密告して居ります父はそんな事とは知らず懸命になつて私の身邊を駆け探し犯行用の電池も父が横の小川へ隠し捨てた爲に津幡署の豚箱へ投込まれました又私が名古屋へ来る際も杖を便りに來た父と親子がどんな面會をして來た事でせうか當時立會つて居られた部長さんに御聞き下さいそれにも拘らず豫審の終結書を拜見致しますれば私が以前病氣の治療をしたい一念から姫路市に道場を設け毎月一回五日間洗心流心靈術の教傳をして居られる松原皎月先生の處へ入會する手續を會員某氏に相談して居たのが復讐呪咀を念じと云ふのに變り東京より藥草の本を買ひ求め試みに漢方處方を作り服用して居たのが加害的念慮を抱きと云ふのに變り又無爲徒食して交友を嫌ひ家人をすら避けとは何を意味した言葉でせうか私が家人を避けてゐるのか家人に避けられてゐるのか如何なる物を身に纏ひ如何なる物をどの位食べて居た事か友人達の雜談を聞けば羨しいし幾等懇意な仲とは云ひ乍ら他人に自分の苦痛を訴へれば聞く者をして恰も自分に同情を乞ひ求めて居るかの様にも察せられ一方家人の機嫌も計らねばならず此の點に付ては如何に隣人とは云ひ乍ら神ならぬ世間の者が何んで本當の事實が解りませう家庭の情狀に依り父の前途を見抜いて居た私はどうかして父に安閑とした餘生を與へたい爲に苦しい境遇からも自分は藝術的職務に身を起て様と祕に努力し乍ら唯天佑を祈念するのみでありましたが

現在に至つては却つてこれが罪となり一場の瞑想に消えました人間と生れて天災地變に直面した場合自己本態の精神から離れて懊惱精神の發揮するを誰一人避け得る者が居りませう一度溺れる時は一本の藁にも縋りたいのは誰しもが持つ人間本來の慾望でありませう私は自分で自分の事を辯解する位なら紙數に限り無きものがありますが金や口辯で人の人たるものが裁かれるなら私如き者は父の居る限り何もこれ以上赤裸々な事は申上げられません私如き者が刑期の長短を問題にしては居りません犯意を隠さうとして居るのでもありません世の矛盾を怨むのでも無く他人の幸福を呪ふのでもありません第一審第二審共に此の私に犯行の足取り又被害者に對する悔悟の情を現はさぬと云ふ點申立る事に一言の愚な點も認められぬと云ふ處から狂へる殺人魔として俎上に載せられ鋭い視線で私の心髓を貫いて居る御心算で御居出る様であります私が私に取りましては往々にして不審な事ばかり如何にしてもこれが神の御裁斷と仰がれず今後憂慮すべき點は徹底的に草の根を分けて御檢察の上今一度神聖なる御批判が願ひ度く茲に上告申上げた次第であります一、現在の胸中は最初博士の鑑定に依り私が投入した程の黄燐でも翌日菊田夫妻が知らずに御飯を食べたとしたら完全に兩人共致死する處であつたと聞かされた途端思はず自分の邪慳な心に戦慄するを覺えずには居られませんでした被害者は云ふ迄も無く幾多の人々に不安と動搖を起させた私は何んと御詫び申してよいか誠に申譯の無い次第になりました今後は被害者に對する謝罪から嫁に對する復讐的念慮を斷念すると同時に父を見捨て別れなければ

ならぬ様になりました故家へは歸りません而し現在の私には一刻を争ふ事の出来る身體ではありませぬ年配と云ひ健康と云ひ残念乍ら判然と申上げる事は出来ませんが萬事は私の胸中にあります審査なされた上様方に御名惜りの懸る様な事は毛頭ありませぬ事を確く御誓ひ致します罪の償ひ身の修養に全力を盡して進みますどうぞ私の眞意を萬分の一なりと認めて下さい是が私の心血を注いでの御願ひで御座いますト云ヒ」辯護人堀江金治上告趣意書第一點原判決ハ證據ニ基カシテ犯罪事實ヲ認定シタル違法アリ原判決ハ上告人カ菊田外松及其ノ妻菊田トメヲ黃燐ニヨリテ毒殺セントシテ遂ケサリシ犯罪事實認定ノ資料トシテ引用シタル各證據ノ中黃燐ト致死トノ關係ハ鑑定人井上剛作成ノ鑑定書中「金屬燐ハ劇烈ナル中毒ヲ惹起スル毒物ナル旨」及 最初混入セラレタル金屬燐ノ總量ハ致死量以上ニ達スルモノト推定スルヲ妥當トスル旨ノ記載(四三八、九丁)ニヨリタルモノナリ然ルニ右鑑定書中ニハ又次ノ如キ記載アリ「燐カ煮沸セラレル状態ニアリタル爲燐自身カ著シク揮發セラルルノミナラス一方ニ於テハ酸化セラレテ金屬燐ノ消失ヲ招來スル旨」ノ記載アリ之ニ依レハ黃燐ハ其ノ化學的性質トシテ煮沸セラレル時ハ(一)著シク揮發シ其ノ量ヲ減スルコト(二)酸化作用モ盛トナリテ燐ノ消失ヲ招ク其ノ結果黃燐ノ量ハ著シク減少スルモノナルコトヲ知ル然レトモ此處ニ注意ヲ要スルコトハ金屬燐カ煮沸ニヨリテ減量スル割合ナリ煮沸ノ結果黃燐ノ消失程度甚シク到底中毒ヲ惹起セシムルニ足ルカヲ維持シ得サルニ至ルトセハ如何本件ノ場合菊田夫妻カ燐混入ノ飯ヲ食シタリトスルモ致死

ハ勿論傷害モ發生セサリシヤモ計ラレス此ノ見地ニ立チテ右鑑定書ヲ視ルニ一定量ノ黃燐ヲ煮沸シタル場合(一)如何ナル程度ノ金屬燐ノ消失ヲ招來シ殘留スル金屬燐ノ割合如何ハ全ク不明ナリ(二)又殘存スル黃燐ニヨリテモ致死ヲ招來スル程度ノ中毒ヲ惹起スルヤ否ヤモ不明ナリ從テ最初ニ投入シタル黃燐ノ總量ハ致死量ナルヘシト雖モ煮沸後モ尙致死量ヲ殘存保有シタルヤ或ハ致死ノ結果ヲ惹起スルコト絶對ニ不可能ノ程度ナルヤハ不明ナルノミナラス寧ロ「致死量ハ通常大人ニテ〇・〇五乃至〇・一瓦程度ナリ」ノ記載竝ニ「米飯約一・五瓦中現在少クトモ一五瓦ノ金屬燐ヲ含有ス」ノ記載ヲ照合スル時ハ黃燐ハ煮沸ニヨリテ甚シク其ノ量ヲ減シ全ク致死ノ危險ナキコトヲ窺知シ得ヘシ若シ然ラストスルモ右煮沸ト減量トノ割合從テ致死ヲ招來スル程度ノ中毒性ノ有無ニ付何等ノ證明ナキニ拘ラス之ヲ殺人未遂ト斷シタル原判決ハ破毀ヲ免レス又黃燐ハ煮沸セラレルモ其ノ性質ヲ變セサルヤ換言セハ煮沸後モ尙劇毒性ヲ失ハサルヤ否ヤノ點ニ付テモ右鑑定書ニ何等ノ記載ナシ此ノ如キ證明不充分ナル證據ニ基キ犯罪事實ヲ認定シタル原判決ハ破毀スヘキモノト信スト云ヒ」同第二點原判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノトス鑑定人猪原清作成ノ鑑定中(二五二丁)「戸井政吉ハ現在早發性痴呆症ニ罹リ精神ニ障礙アリ犯罪當時タル昭和十五年三月七日頃ハ本病ノ經過中ニアリ現在ト略々同程度ノ精神障礙アリシモノト推定ス障礙ノ程度ニ關シテハ本病ハ治療困難ニシテ遂ニハ全ク痴呆状態ニ陥ル性質ノモノナルヲ以テ此ノ觀點ヨリスレハ當然心神喪失トスヘキモノ

ト信ス但シ現時ノ精神障碍ノ程度ニ於テハ心神耗弱程度ナリ」トノ記載又同人ノ證言中(四〇六丁)「……現在ノ状態テハ道德的感情カ全然ナイカラ醫者トシテ行爲ノ價值判斷乃至責任ヲ負ハシムルコトハ出來ナイト考ヘマス尙將來ニ向テ除々病狀カ進ミ結局ハ完全ナル痴呆状態ニ陥ツテ行クモノト思ヒマス」トノ記載ニ徵スル時ハ犯行當時可罰ニ適セサル精神状態ナリシナリ假リニ然ラストスルモ上告人ノ病狀ハ治療ノ見込ナク遠カラス癡人トナリ其ノ前途ハ全ク憐ムヘキ状態ナリ加フルニ犯行當時ノ家族及近隣等上告人ニ對スル環境ヲ見ルニ同情ニ價スヘキ點多々アリ之等ノ點ヲ綜合スル時懲役二年ヲ科スルコトハ苛酷ト言ハンカ否寧ロ不必要ナリト言フヲ得ヘシ又社會防衛ノ立場ヨリ可罰ノ要アリトノ見解ニヨルモ前叙ノ事情ヲ酌量スル時原判決ハ重キニ失スルモノト謂フヘク此ノ點ニ於テモ亦原判決ハ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レドモ

原判決ノ舉示スル證據ヲ綜合スレバ被告人ガ本件犯行當時心神耗弱ノ状態ニ在リタルコト其ノ他原判決事實全部ヲ認ムルニ足り記録ヲ精査検討スルモ原審ノ認定ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルベキ顯著ナル事由ヲ發見シ難シ。而シテ毒物ハ人ノ致死量ニ達セザル場合ト雖攝取者ノ身體的状況其ノ他ノ事情ニ依リ死ノ結果ヲ惹起スルノ危険ナキヲ保セザルコト經驗則上顯著ナル事實ナルヲ以テ苟モ人ヲ殺害スル目的ヲ以テ毒物ヲ對手方ガ攝取シ得ベキ状態ニ置キタル以上其ノ分量ガ偶致死量ニ達セザリシトスルモ尙殺人罪ノ著手アリタリト解スルヲ妨グズ。原判決ガ其ノ理由ニ於テ認定シ

【要旨】

タル事實ハ要スルニ被告人ガ菊田外松方ニ於テ洗米入り一升釜ノ中ニ黄燐ヲ混入シ置ケバ翌朝外松及其ノ妻トメガ之ヲ食スベク然ラバ場合ニヨリテハ之ニ因ル中毒ノ爲同人等ガ死亡スル虞アルコトヲ豫見シナガラ右釜中ニ致死量以上ノ分量ノ毒物黄燐ヲ投入シ置キタルモ翌朝トメガ右釜ノ米ヲ炊キ外松ト共ニ之ヲ食セムトシタルニ其ノ異臭ト怪光トニ驚キ之ヲ食セザリシ爲兩人ヲ殺害スルニ至ラザリシモノナリト謂フニ在ルヲ以テ外松夫妻ガ右米飯ヲ食セムトシタル際ニ於ケル右黄燐含有量ガ煮沸等ノ結果減少ヲ來タシテ致死量ニ達シ居ラザリシトスルモ被告人ニ於テ殺人未遂ノ罪責ヲ免ルルヲ得ザルコト論ヲ俟タズ。然レバ右ノ際ニ於ケル黄燐ノ殘存量ヲ證明スル證據ナク又原審ガ之ヲ判示セザレバトテ所論ノ如キ違法アリト謂フヲ得ズ。更ニ記録ニ現ハレタル犯情其ノ他諸般ノ情狀ヲ斟酌考量スルニ原審ガ被告人ヲ懲役二年ノ實刑ニ處シタルヲ目シテ量刑甚シク不當ナリト思料スベキ顯著ナル事由アリト認ムルヲ得ズ。論旨孰レモ理由ナシ。

以上ノ理由ヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事横田麟二關與

○府會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和十五年(九)第八〇七號
同年十月二十一日第二刑事部判決)

棄却

【上告人】

被告人

内藤 廣吉

辯護人

(平松市
山村治郎吉
井出甲子太郎)

【第一審】

京都區裁判所

【第二審】

京都地方裁判所

○判示事項

虚偽ノ精算届出ト其ノ期間内ノ訂正ノ效力

○判決要旨

故意ニ虚偽ノ選舉運動費用ノ精算届ヲ爲シタルトキハ之ト同時ニ
犯罪成立スルヲ以テ其ノ後届出期間内ニ届出ノ訂正書ヲ提出スル
モ犯罪ノ成立ニ影響ナシ

虚偽ノ精算届出ト其ノ期間内ノ訂正ノ效力

【参照】衆議院議員選舉法第六條 選舉事務長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ選舉運動ノ費用ヲ精算シ選舉ノ期日ヨリ十四日以内ニ第八十八條第五項ノ届出アリタル警察署ヲ經テ之ヲ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ届出ツヘシ
地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ前項ノ規定ニ依リ届出アリタル選舉運動ノ費用ヲ告示スヘシ

同法第三百三十五條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

二 第六條第一項ノ届出ヲ怠リ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタルトキ

事實

第二審ハ左記事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シテ被告人ヲ罰金五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金五圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス被告人ニ對シ衆議院議員選舉法第三百三十七條第一項ノ五年間選舉權及被選舉權ヲ有セサル旨ノ規定ヲ適用セサル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十四年九月二十五日施行セラレタル京都府會議員選舉ニ際シ京都市中京選舉區ヨリ立候補シタル議員候補者ニシテ且自ラ選舉事務長トシテ選舉運動ニ從事シタルモノナルトコロ

(一) 昭和十四年九月七日頃ヨリ同月二十日頃迄ノ間六戸二郎外五名ト意思ヲ通シ推薦狀ニ依ル運動方ヲ依頼シ同人等ヲシテ自己ノ爲推薦狀合計二萬九千八百十枚ヲ同選舉區内ノ選舉人ニ發送セシメ自ラ選舉事務長トシテ其ノ費用金六百九十一圓七十四錢ヲ支出シナカラ同區小川通丸太町下ル中之町七十番地自宅ニ設置セル選舉事務所ニ備付ノ選舉運動費用支出簿ニ之カ記載ヲナス

(二) 同月二十七日京都府知事ニ對シテ選舉運動費用ノ精算届出ヲナスニ際シ實際選舉運動費用トシテ金千二百五圓六十二錢ヲ支出シタルニモ拘ラス右推薦狀ニ依ル運動ノ爲支出シタル費用金六百九十一圓七十四錢ヲ控除シ選舉運動費用トシテ金五百十三圓八十八錢ヲ要シタル旨虚偽ノ届出ヲ爲シタルモノニシテ右所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示(一)ノ所爲ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第三百三十五條第一號第五百條ニ判示(二)ノ所爲ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第三百三十五條第二號第六條第一項ニ各該當スルトコロ以上ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ニ則リ判示(一)ノ罪ノ一罪トシテ處斷シ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金五十圓ニ處シ刑法第十八條ニ則リ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金五圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク尙情狀ニ依リ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第三百三十七條第三項ニ從ヒ被告人ニ對シ同條第一項ノ五年間選舉權及被選舉權ヲ有セサル旨ノ規定ヲ適用セサルヲ相當ト認メ其ノ旨ノ宣言ヲ爲スヘキモノトス

主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理 由

辯護人平松市藏山村治郎吉井出甲子太郎上告趣意書第十點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルト共ニ又法律ノ解釋適用ヲ誤リタル違法アルモノ也原判決ハ理由(二)ニ於テ前點記載ノ如ク被告人カ選舉事務長トシテ實際選舉運動費用金千二百五圓六十二錢ヲ支出シタ

虚偽ノ精算届出ト其ノ期間内ノ訂正ノ效力

ルニモ拘ラス之ヲ金五百十三圓八十八錢ヲ要シタルモノトシテ届出テタル事實ヲ判示シ之ニ對シ前點記載ノ如キ法律ノ適用ヲ爲スモノ也然レ共衆議院議員選舉法第六條第一項ハ「選舉事務長ハ勅令ノ定ムルトコロニ依リ選舉運動ノ費用ヲ精算シ選舉ノ期日ヨリ十四日以内ニ第八十八條第五項ノ届出アリタル警察官署ヲ經テ之ヲ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ届出ツヘシ」ト定ムルモノナルカ故ニ其ノ届出ハ選舉期日ノ翌日ヨリ十四日以内ニ之ヲ爲セハ足り又一旦之カ届出ヲ爲スト雖モ其ノ内容ニ付齟齬遺漏アル場合ニ於テハ之カ追完補正ノ上任意訂正ヲ爲スコトヲ得ルモノ也蓋シ衆議院議員選舉法第六條ハ選舉費用ノ公正ヲ所期スル爲メ選舉事務長ニ對シ之カ正確ナル届出ヲ爲サシムル趣旨ナルコト明ニシテ然モ其ノ届出ノ效力ハ選舉期日ノ翌日ヨリ十四日以内ノ法定期間ヲ經過スルニアラサレハ確定セサルモノナルカ故ニ其ノ確定前ニ於テ齟齬遺脱アル届出アリトスルモ爾後ニ於ケル正確ナル届出アル場合ニ於テハ之ニ依リ法ノ目的トスル完全ナル義務ノ履行アリタルモノト謂フヘキモノナリ之ヲ内務省警保局發行改正選舉法質疑竝ニ判決例百八十八頁ニ依ルニ「九、選舉運動ノ費用ノ精算届出ト其ノ訂正(問)選舉運動ノ費用ノ精算届出ヲ爲シタル後其ノ届出内容ニ誤謬アリタルノ理由ヲ以テ之カ訂正ノ申出ヲ爲ス者アリタル場合其ノ取扱ヲ如何ニスヘキヤ(答)精算届出期間内ニ於テハ訂正ノ申出ヲ認メ其ノ訂正シタルモノヲ告示シ精算届出滿了後ニ於テハ訂正ノ申出アルモ之ヲ受理スヘキ限リニアラス」トノ記載アリ之ニ徴スレハ既ニ選舉ニ關スル監督官廳タル内務省ニ於テモ届

出期間内ニ於ケル訂正届ノ可能ナルコトヲ認メ居ルコト明ナルカ故ニ其ノ期間内ニ於ケル訂正届アル以上先キノ届出ノ内容ノ虚偽ナルコトヲ理由トシテ處罰スルコト能ハサルモノ也而シテ更ニ精算届ノ本質ヨリ之ヲ觀ルニ本件ハ自然犯タル通常刑事犯罪ノ事實的行為ニシテ一旦其ノ行為ヲ爲シタル以上犯罪ハ直チニ成立シ爾後ニ於ケル取消又ハ訂正ヲ許ササルモノト異ナリ特殊ナル行政目的ノ爲メ選舉事務長ニ科セラレタル義務ニ基ツク届出タルニ過キス則チ之レ法律上ノ效力ヲ有スル通知行為ナルカ故ニ一旦虚偽ノ届出ヲ爲シタリトスルモ法定ノ義務履行期間中ニ正確ナル届出ヲ爲スニ於テハ之ヲ以テ處罰ノ原因トナスヘキモノニアラス之ニ付美濃部達吉著選舉罰則ノ研究一三一頁ニ依ルモ「(一)届出ノ訂正一タヒ届出ヲ爲シタル後ニモ法定ノ届出期間内ハ之ヲ訂正スルコトカ出來ル其ノ訂正ハ有效テ警察署ハ之ヲ受理セネハナラヌ昭和十一年九月十五日ノ判決ハ「選舉事務長カ選舉運動費用ノ精算額ニ付虚偽ノ届出ヲ爲ストキハ犯罪ハ之ニヨリテ當然成立スヘク後日届出ノ訂正書ヲ提出スルト否トハ犯罪ノ成立ニ影響ナキモノトス」ト曰ツテ居ルケレ共是レハ正當ノ見解テハナイ夫レハ十月九日迄ニ届出ツヘキ場合ニ十月六日ニ届出ヲナシ更ニ十月九日ニ其ノ訂正届ヲ爲シタカ警察署テ其ノ訂正届ヲ受理シナカツタ事件テ原審テハ訂正届ヲ爲シタ事ニ付テハ何等ノ判斷ヲ與ヘス最初ノ届出ノミニ依ツテ虚偽ノ届出ヲ爲シタルモノトシテ處斷シタノヲ大審院ニ於テ正當トシテ是認シタノテアル成ル程法律ハ「虚偽ノ届出ヲ爲シタルトキ」ハ何々ノ罰則ニ處スト曰ツテ居ルノテアルカラ普通ノ刑事犯罪

ノ例ニ依リ一旦其ノ行爲ヲ爲シタル以上犯罪ハ直チニ成立シ取消ヤ訂正ニ依ツテ犯罪ヲ阻却スルモノ
 テナイト解スルノモ無理ノナイ事ノ様テアルカ選舉運動費用ノ精算届出ハ普通ノ刑事犯罪ノ様ナ事實
 的行爲ニアラスシテ法律上ノ效力ヲ有スル通知行爲テアリ有效ナ訂正ニ依ツテ其ノ效力ヲ失フモノテ
 アルカラ一度虚偽ノ届出ヲ爲シタトシテモ夫レカ效力ヲ失ツタ以上ハ之ヲ以テ處罰ノ原因トナスヘキ
 モノテハナイ凡テ法定犯ハ法律ニ定ムル義務ニ違背スル事ニヨツテ成立スルモノテ而シテ選舉法第一
 ○六條ノ命シテキル義務ハ法定ノ期間内ニ運動費用ヲ精算シテ届出ツヘキテアル縱令一度虚偽ノ届出
 ヲナシタトシテモ其ノ届出ノ效力ハ法定ノ期間ヲ過クル迄ハ未タ確定シナイモノテ法定ノ期間内ニ之
 ヲ訂正シテ正確ナ精算書ヲ提出スレハ夫レテ完全ニ法律上ノ義務ヲ充タシタモノテアツテ敢テ義務違
 反ノ責ヲ負フヘキ理由ハナイトト解説セリ此レニ依レハ選舉事務長カ故意ニ選舉運動費用ノ僅少ヲ裝
 ハンカ爲メ虚偽ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テモ尙且法定届出期間内ニ之カ追完補正ヲ爲シテ届出ヲ爲
 ス場合ニ於テハ違反ノ責ナキモノト謂フ可ク此ノ理ニ依リ本件ニ於テモ亦罪ノ成立スルコトナキヤ論
 ナキトコロナリ況ンヤ本件ハ前記援用判例ニ於テ選舉事務長カ虚偽ノ届出ヲ爲シタル場合ト異ナリ第
 三者ト通シタル選舉運動費用ニ付認識ナク且爾餘ノ支出ヲ觀念セサリシ川瀬事務員カ被告ノ意見ヲ徵
 スルコトナク獨斷ニテ届出ヲ爲シタル場合ナルカ故ニ右ハ虚偽ノ届出ニアラスシテ單ナル誤謬又ハ錯
 誤ノ範圍ヲ出テサルモノニシテ被告ニ於テ其ノ違法性ニ付何等ノ認識ヲ有セサルコト明カナル場合ナ
 在リ

レハ之ニ對シ法定期間内訂正届出ヲ爲シ通知義務ヲ完了シタル以上判示犯罪ノ成立スルコトナキハ倍
 々明ナルトコロナリ然ルニ原判決ハ此ノ明確ナル理ヲ無視シテ判示認定ヲ爲シタルハ違法也ト云フニ
 在リ

因テ案スルニ選舉運動費用ノ精算届ニ付テハ選舉事務長ニ於テ選舉ノ期日ヨリ十四日以内ニ之カ届出
 ヲ爲スヘキコト洵ニ所論ノ如シ而シテ一旦届出ヲ爲シタル後之ニ錯誤又ハ脱漏アルコトヲ發見シタル
 トキハ其ノ届出期間内ナルニ於テハ之カ更正ヲ爲シ得ヘシト雖虚偽ノ届出ヲ爲ス意思ヲ以テ爲シタル
 トキハ其ノ届出ト同時ニ犯罪成立スルヲ以テ其ノ後ハ右期間内ニ届出ノ訂正書ヲ提出スルモ一旦成立
 シタル犯罪ヲ阻却セサルモノトス故ニ原判決ニ於テ被告人ノ所爲ニ付罪責ヲ問ヒタルハ法律ノ解釋ヲ
 誤リタルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事柴碩文關與

○輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反被告事件

(昭和十五年(れ)第九九九號
同年十月二十一日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 辻 秋藏 辯護人 山崎 伸稔

【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

數個ノ正犯ヲ幫助シタル罪ト併合罪ノ適用

○判決要旨

獨立シタル數個ノ正犯ヲ幫助シタル罪ニ對シテハ併合罪ノ規定ヲ適用スヘキモノトス

【參照】 刑法第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三千圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金三十圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ綿絲ブローカーヲ爲シ居タルモノナルトコロ其ノ當時

第一 昭和十四年二月初旬頃及同月中旬頃ノ二回ニ互リ綿絲ヲ原料トシ軍手製造業ヲ營ム中島卯八ヨリ軍手製造用綿絲買入方幹旋ヲ依頼セラルルヤ其ノ都度之ヲ承諾シ同人カ法定ノ割當票ト引換フルニ非スシテ該綿絲ヲ買受クルモノナルコトヲ知悉シナカラ同人ヲ四月初旬頃布施市長瀬字吉和川上德太郎方及同月中旬頃同市宮前高田源太郎方ニ夫々案内シ右兩名ニ對シ夫々中島卯八ニ其ノ所用綿絲ヲ販賣シ遣サレ度旨依頼シ以テ中島卯八カ犯意繼續ノ上同月二日頃及二十日頃ノ二回ニ互リ右川上德太郎方及高田源太郎方ニ於テ法定ノ除外事由ナク所定ノ割當票ト引換フルニ非スシテ右兩名ヨリ純綿絲二十番手單絲合計三十五玉ヲ代金合計金三百七十圓ニテ買受ケタル犯行ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

第二 同年六月頃及七月頃ノ二回ニ互リ莫大小編立業ヲ營ム杉本清將ヨリ莫大小編立用綿絲ノ買入方幹旋ヲ依頼セラルルヤ其ノ都度之ヲ承諾シ同人カ法定ノ除外事由ナク所定ノ割當票ト引換フルニ非スシテ右綿絲ヲ買受クルモノナルコトヲ知悉シナカラ夫々其ノ當時布施市荒川三丁目百六番地ノ被告人方ニ於テ杉原義雄ニ對シ杉本清將ニ其ノ所用綿絲ヲ販賣シ遣サレ度旨依頼シ以テ杉本清將カ犯意繼續ノ上同年六月十二日頃及同年七月七日頃ノ二回ニ互リ布施市内大阪電氣軌道株式會社彌刀驛附近ニ於テ法定ノ除外事由ナク所定ノ割當票ト引換フルニ非スシテ前記杉原義雄ヨリ純綿絲四捆半ヲ代金合計金二千七百圓ニテ買受ケタル犯行ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示第一、二ノ所爲ハ夫々輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條昭和十四年商工省

數個ノ正犯ヲ幫助シタル罪ト併合罪ノ適用

令第七號絲配給統制規則第三條前記法律第五條刑法第五十五條第六十五條第一項第六十二條第一項ニ該當スルヲ以テ夫々所定刑中罰金刑ヲ選擇シ從犯ナルヲ以テ夫々刑法第六十三條第六十八條第四號ニ則リ法定ノ減輕ヲ爲シ右ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十八條第二項ニ依リ其ノ合算額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金三千圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ從ヒ金三十圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人山崎伸稔上告趣意書第一點原審カ認定シタル上告人ノ犯行ハ 1、昭和十四年二月二日頃中島卯八ノ犯行ヲ幫助シタル行爲 2、同年二月二十日頃同上 3、同年六月頃杉本清將ノ犯行ヲ幫助シタル行爲 4、同年七月七日頃同上ナリ然ルニ右四回ニ互ル上告人ノ幫助行爲ハ短期間内ニ同一事情ノ下ニ於テ反覆累行シタルモノナリ換言セハ上告人カ「ブローカ」トシテ他人ノ犯罪ヲ幫助シタル右四個ノ行爲ハ前後單一ノ意思ヲ繼續シテ同種行爲ヲ反覆累行シタルモノニ外ナラス然ラハ此ノ行爲ヲ目シテ中島卯八ニ關スル分一罪杉本清將ニ關スル分一罪ト認ム可キニアラス宜シク之レカ處分ハ刑法第五十五條ニ據ツテ一罪トシテ處斷ス可キモノナリ然ルニ原審カ上告人ノ行爲ヲ漫然併合罪ナリト認定シテ刑法第四十五條及ヒ第四十八條第二項ヲ適用シ上告人ヲ罰金三千圓ニ處シタルハ明ラカニ失當ナリ惟フ

ニ原審カ上告人ヲ處斷スルニ當リ苟モ罰金刑ヲ選擇シタル以上ハ須ラク本件ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第五條刑法第五十五條刑法第六十三條第六十八條第四號ニ則リ最高二千五百圓ノ範圍内ニ於テノミ罰金ノ刑ニ處ス可ク併合罪ノ法條ハ之ヲ適用スル餘地全々無之モノナリト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

從犯ノ犯罪ハ正犯ノ犯罪ニ附隨シテ成立スルモノナレハ從犯ノ行爲カ連續犯ナリヤ否ハ正犯ノ行爲カ連續犯ナリヤ否ニ因リテ之ヲ決スヘキモノナルコト勿論ナリトス而シテ被告人ノ本件幫助行爲ハ中島卯八ノ犯行ヲ幫助シタル行爲及杉本清將ノ犯行ヲ幫助シタル行爲ナルコト原判示ニ照シ明カニシテ右中島杉本兩人ノ各獨立シタル犯行ヲ連續一罪ト認ムヘカラサルコト論無キヲ以テ之ヲ幫助シタル被告人ノ犯行亦連續一罪ヲ構成セサルコト亦當然ナリトス從テ被告人ノ判示所爲ニ對シ併合罪ノ規定ヲ適用處斷シタル原判決ハ正當ニシテ所論ノ如キ違法アリト爲スヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事下田勝久關與

○詐欺電信法違反横領被告事件 (昭和十五年(九)第一〇一〇號 棄却)

【上告人】 被告人 相 良 八 幡 辯護人 赤井 幸夫 増田 秀雄 外二名 安武 宗次

【第一審】 京都地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

虚偽電報ト詐欺罪

○判決要旨

虚偽ノ電報ニ依リ詐欺行爲ヲ行ヒタル場合ニ在リテハ電信法違反ト詐欺トノ間ニ手段結果ノ關係アルモノトス

【参照】 電信法第三十三條 自己若ハ他人ニ利益ヲ與ヘ又ハ他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ電信又ハ電話ニ依リ虚偽ノ通信ヲ發シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス (以下省略)

刑法第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス 前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人坂銀太郎ヲ懲役一年六月ニ處シ未決勾留日數中三百六十日ヲ本刑ニ算入スル旨(訴訟費用負擔ノ點省略)ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人八幡ハ豫テ知ナル春日公博ヨリ同人及坂詰勝等カ相諮リ執レモ經營困難ニ陥リ居リタル勢力造船所及協和製作所ヲ現物出資トシテ時局柄有望視セララル造船會社ノ設立ヲ企圖シ先ツ資本金百萬圓全額拂込濟ノ製藥事業ヲ失敗シテ數年前ヨリ營業ヲ休止シ有名無實ナル株式會社春光堂ヲ金五千圓ニテ買收シ商號ヲ株式會社昭和造船所目的ヲ船舶ノ建造並修理船舶用機械器具ノ製造販賣ト變更シ其ノ旨ノ登記ヲ了シ東京市京橋區銀座西三丁目建築會館内ニ事務所ヲ開設シタルカ資金皆無ニシテ右會社買收金ヲ支拂ヒ得サルノミナラス勢力造船所ノ引渡スラ受クルニ至ラス當時ハ事業ヲ開始スルニ由ナク其ノ株券ハ殆ト無價値ニシテ到底金融ノ資料ト爲シ得サル事情ヲ打開ケ人爲的工作ヲ施シ右株券ニ依ル營業資金ノ調達ニ協力センコトヲ懇談セラレ曩ニ泡沫會社ニ關係シ受刑後幾何モナキコトトテ危懼逡巡シタルモ公博ヨリ福壽證券株式會社專務取締役ナル被告人精治トハ其ノ機關紙國民經濟新報ニ右株券ノ仲値表掲載方連絡濟ナルコトヲ聞キ其ノ人爲工作ノ相當進捗セルヲ知り所期ノ如ク金融ヲ得容易ニ開業シ成功スヘシト輕信シ之ヲ承諾シ茲ニ被告人八幡及精治ハ昭和十四年四月頃右公博ノ仲介ニテ前記事務所ニ相會シ無價値ニ等シキ右株券ヲ相當價額ニテ取引セラルルモノノ如ク裝ヒ之ヲ賣却又ハ擔保ニ供シテ金員ヲ騙取セムコトヲ共謀シ被告人八幡ハ直接又ハ他人ヲ介シテ金融ヲ爲シ被告人精治ハ前掲國民經濟新報ニ同株ノ仲値ハ金五十二圓五

十錢ナル旨虚偽ノ仲値表ヲ掲載シテ之ヲ得意先ニ送付シ同株値ノ問合人ニハ仲値表掲載通ノ價値アル株ナリト虚偽ノ返信ヲ爲スコトニ一決スルヤ被告人八幡ハ同月下旬頃坂詰勝ヨリ昭和造船株三千株及右虚偽仲値發表ノ國民經濟新報數十部ヲ交付セラレ之ニ依リ約金二萬圓ノ資金獲得ノ目的ニテ名古屋市ヲ經大阪府ニ赴キ翌月初旬同市北區大融寺町大一ホテル又ハ東區北濱二丁目北濱ビル内不二證券部等ニ於テ被告人吉一及原審相被告人福山益藏ニ順次面接シ敘上ノ經緯ヲ打明ケ其ノ協力ヲ求ムルヤ被告人吉一等ハ之ヲ了知承諾シ茲ニ被告人八幡ハ更ニ吉一及福山益藏ト共ニ被告人精治トノ敘上談合ノ如ク金員ヲ騙取セムコトヲ企テ

(中略)

(四) 原審相被告人福山益藏ニ於テ同年十二月中旬臺灣ニ渡リ株式賣買ニ經驗ヲ有セル被告人宇吉ト共謀ノ上豫テ同人ニ東邦産業株三百株ヲ一株三圓五十錢替ニテ引取方請求シ居リタル臺中州員林郡員林街醫師詹位ニ對シ昭和造船株ヲ價値アルモノノ如ク申欺キテ賣却シ代金名下ニ金品ヲ騙取セムコトヲ企テ先ツ被告人益藏ニ於テ豫テ前記不二證券ヲ讓リ受ケ莫證券名義ヲ以テ株式現物賣買業ヲ營ミ居リタル被告人銀太郎ニ對シ當地ヨリ昭和造船株ニ付問合アラハ一株三十五圓ニテ買フ旨ノ返信ヲナシ吳レ度キ旨依頼シ被告人宇吉ニ於テ右詹位方ニ到リ同人ニ對シ前掲國民經濟新報ノ仲値表ヲ示シタル上昭和造船株ハ仲値表通り一株三十數圓ノ價値アリ臺中州東勢郡ノ某客カ東邦産業株ノ買入ヲ希望シ手持ノ昭和造船株百株ヲ一株三十六圓替ニテ賣却方申入レ居ルニ依リ右百株ヲ買受ケ吳レ度キ旨申向ケ詹位方直ニ轉賣シ得ハ買取ルモ可ナリト告クルヤ東京ノ福壽證券及大阪ノ莫證券ニ於テ之ヲ買受クヘシト返答シ同月十七日頃詹位ヨリ右兩者ニ對シ問合ヲ爲スヤ被告人精治ハ被告人八幡又ハ其ノ一味ニ利益ヲ得シムル目的ヲ以テ同月十八日東京橋郵便局ヨリ「昭和造船所株ノ仲値四十圓」ナル旨虚偽ノ電報ヲ詹位宛發信到達セシメ被告人銀太郎ハ相被告人益藏ノ前記電報ニ依リ同人等カ臺灣ニ於テ同株ヲ以テ他人ヲ欺罔シ財物ヲ騙取セムトスルモノナルコトヲ察知シタルニ拘ラス益藏等ニ利益ヲ得シムル目的ヲ以テ同日大阪北濱郵便

局ヨリ「昭和造船所株一株三十五圓買」ナル旨虚偽ノ電報ヲ詹位宛發シタル外同日詹位ヨリ「昭和造船所株三十五圓ニテ百株賣切メ」ナル電報ニ對シ同月二十日「昭和造船所株三十四圓五十錢ニテ百株買フ」旨翌日詹位ヨリ「昭和造船所株三十四圓五十錢ニテ賣切メ」ナル電報ニ對シ同月二十三日「昭和造船所株三十四圓五十錢替ニテ百株買決メタ直ク送レ」ナル旨同月二十五日詹位ヨリ「明後日送ル直ク取ルカ」トノ電報ニ對シ同月二十六日「電見タ品直ク送レ」ナル旨各虚偽ノ電報ヲ夫々大阪北濱郵便局ヨリ詹位宛發信到達セシメ以テ孰レモ虚偽ノ通信ヲ爲シ詹位フシテ右ノ旨ヲ誤信セシメ昭和造船株百株ヲ買受フ承諾セシメ同月二十六日同人方ニ於テ被告人八幡ヨリ送付セル同株百株ト引換ニ賣買代金名下ニ現金二千二百圓及時價千四百圓ノ東邦産業株五百株ヲ被告人宇吉ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(中略)

タルモノナリ

被告人八幡、精治、吉一、銀太郎、邦衛、及坡ノ各詐欺ノ所爲並被告人銀太郎ノ電信法違反ノ所爲ハ夫々意思繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ(中略)被告人精治及銀太郎ノ判示所爲中電信法違反ノ點ハ各電信法第三十三條第一項(被告人銀太郎ニハ尙刑法第五十五條適用)詐欺ノ點ハ刑法第二百四十六條第一項第五十五條第六十條ニ該當スルトコロ右電信法違反ト詐欺トノ間ニハ各手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項第十條ヲ適用シ一罪ト爲シ夫々重キ詐欺罪ノ刑ニ從ヒ尙被告人銀太郎ニハ前示受刑事實アルヲ以テ同法第五十六條第一項第五十七條ヲ適用シテ累犯加重ヲ爲シ以上各所定期範圍内ニ於テ被告人精治及銀太郎ヲ夫々主文ノ刑ニ處斷スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

虚偽電報ト詐欺罪

○理由

被告人坂銀太郎辯護人赤井幸夫上告趣意書第四點原判決ハ其ノ事實理由第一ノ(四)ニ於テ「(前略)被告人銀太郎ハ相被告人益藏ノ前記電報ニ依リ同人等カ臺灣ニ於テ同株ヲ以テ他人ヲ欺罔シ財物ヲ騙取セムトスルモノナルコトヲ察知シタルニ拘ラス益藏等ニ利益ヲ得セシムル目的ヲ以テ同日大阪北濱郵便局ヨリ昭和造船所株一株三十五圓買ヒナル旨虚偽ノ電報ヲ詹位宛發シタル外同日詹位ヨリノ昭和造船所株三十五圓ニテ百株賣決メナル電報ニ對シ同月二十日昭和造船所株三十四圓五十錢ニテ百株買フ旨翌日詹位ヨリノ昭和造船所株三十四圓五十錢ニテ賣決メナル電報ニ對シ同月二十三日昭和造船所株三十四圓五十錢替ニテ百株買決メタ直ク送レナル旨同月二十五日詹位ヨリノ明後日送ル直ク取ルカトノ電報ニ對シ同月二十六日電見タ品直ク送レナル旨各虚偽ノ電報ヲ夫々大阪北濱郵便局ヨリ詹位宛發信到達セシメ以テ孰レモ虚偽ノ通信ヲ爲シ詹位ヲシテ右ノ旨ヲ誤信セシメ昭和造船所株百株ノ買受ヲ承諾セシメ同月二十六日同人方ニ於テ被告人八幡ヨリ送付セル同株百株ト引換ニ賣買代金名下ニ現金二千二百圓及時價千四百圓ノ東邦産業株五百株ヲ被告人宇吉ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ」ト判示シ更ニ第四事實トシテ「被告人銀太郎ハ大林國三ト共謀ノ上名義書替禁止ノ假處分アリタル日本産業株式會社株式二十株ヲ何等事故ナキ株式ナルカ如ク裝ヒテ他人ニ賣却又ハ擔保ニ供シテ金員ヲ騙取シ」タル旨判示シ其ノ法律理由中「被告人銀太郎ノ判示所爲中電信法違反ノ點ハ各電信法第三十三條第一項

刑法第五十五條詐欺ノ點ハ刑法第二百四十六條第一項第五十五條第六十條ニ該當スルトコロ右電信法違反ト詐欺トノ間ニハ各手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項第十條ヲ適用シ一罪ト爲シ云々」ト判示シアリテ之レニ依レハ原判決ハ上告人ノ判示第一ノ(四)ノ行爲ハ電信法違反罪ノ外詐欺ノ共同正犯ノ罪ヲ構成スルモノニシテ此ノ兩者ハ手段結果ノ關係アルモノト認メタルモノノ如シ然レトモ電信法第三十三條第一項ノ罪ハ「自己又ハ他人ニ利益ヲ與ヘ又ハ他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ電信(又ハ電話)ヲ以テ虚偽ノ通信ヲ發スル」ニ依リテ成立スルモノナルヲ以テ上告人銀太郎ニ於テ「福山益藏等ニ利益ヲ得セシムル目的ヲ以テ虚偽ノ電報ヲ發シテ之レヲ詹位ニ到達セシメタルモノ」トシテ右電信法第三十三條第一項ヲ以テ處罰スル以上唯右虚偽ノ電報ヲ發信到著セシメタルニ過キサ上告人ニ對シ更ニ詐欺罪ノ成立ヲ認ムルハ違法ナリ假リニ右電信法第三十三條第一項ノ罪ト詐欺罪トヲ構成スルモノトスルモ右上告人ノ行爲ハ詐欺罪ノ幫助犯タルニ過キスシテ共同正犯ニハアラス加之右二個ノ犯罪ハ手段結果ノ關係ニアルモノニアラスシテ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルモノナリ然ルニ原判決カ前示ノ如キ擬律ヲ爲シタルハ違法ニシテ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ

【要旨】

電信法第三十三條第一項ノ罪ハ同條所定ノ如キ虚偽ノ通信ヲ發スルニヨリテ直ニ成立スルモノトス而シテ虚偽電報ニ依リ詐欺行爲ヲ行フ場合ニ在リテハ虚偽電報ノ到達シタル時ニ於テ詐欺ノ著手アリタ

ルモノト解スヘキモノナルヲ以テ斯ル場合電信法違反ト詐欺トノ二罪成立シ兩者ノ間ニ手段結果ノ關係アリト認ムルヲ相當ナリトス從テ被告人銀太郎カ益藏トノ謀議ニ基キ敢行シタル事實ヲ認定シ電信法第三十三條第一項及刑法第二百四十六條ノ共同正犯ナリトシ刑法第五十四條ヲ適用處斷シタル原判決ハ正當ニシテ所論違法ノ點ナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事下田勝久關與

○竊盜被告事件 (昭和十五年(れ)第一〇四五號 棄却)
同年十月三十一日第二刑事部判決

【上告人】 被告人 姜 昌 基 辯護人 佐藤元吉
白島正吉
西島平吉

【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

少年法第八條ノ「長期三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ以テ處斷スヘキトキ」ノ意義

○判決要旨

少年法第八條ニ所謂長期三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ以テ處斷スヘキトキトハ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ以テ處斷スヘキ場合ニ於テ法律上又ハ裁判上ノ加重減輕ノ事由アルトキハ其ノ加重減輕ノ結果生スル刑ノ長期力三年以上ナル場合又其ノ事由ナキトキハ其ノ法定刑ノ長期力三年以上ナル場合ヲ指稱スルモノトス

【參照】 少年法第八條 少年ニ對シ長期三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ以テ處斷スヘキトキハ其ノ刑ノ範圍内ニ於テ短期ト長期トヲ定メ之ヲ言渡ス但シ短期五年ヲ超ユル刑ヲ以テ處斷スヘキトキハ短期ヲ五年ニ短縮ス
前項ノ規定ニ依リ言渡スヘキ刑ノ短期ハ五年長期ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス
刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニハ前二項ノ規定ヲ適用セス

○事實

少年法第八條ノ「長期三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ以テ處斷スヘキトキ」ノ意義 七二九 (一五)

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人姜昌基ヲ一年以上二年以下ノ懲役ニ(中略)處ス被告人兩名ニ對シ原審ニ於ケル未決勾留日數中各二十日ヲ右本刑ニ算入ス

(中略)

第一 被告人姜昌基ハ十八歳ニ滿タサル少年ナルトコロ

(一) 原審相被告人森口一夫ト共謀ノ上昭和十五年三月二十二日堺市中瓦町二丁目五十九番地洋品雜貨商泉好夫方ニ於テ同人所有ノ人絹女事務服及シャツ等計三點(時價合計約十二圓相當)ヲ竊取シタル外同日ヨリ同月二十七日迄ノ間前後五回ニ互リ堺市内ニ於テ淺田寅造外三名各所有ニ係ルズボン等計八點ヲ竊取シ

(二) 右森口一夫ト共謀ノ上同年三月二十三日堺市大町東一丁目二十七番地菓子商井筒誠造方ニ於テ同人所有ノ菓子類二罐(時價合計約二圓三十錢相當)ヲ竊取シ

第三 被告人兩名ハ外一名ト共謀ノ上同年三月二十五日大阪市住吉區天下茶屋三丁目二番地雜貨商山本市三郎方ニ於テ同人所有ノセルズボン一枚外一點(時價合計約三十三圓三十錢相當)ヲ竊取シ

タルモノニシテ被告人等ノ右各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス
法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ刑法第二百三十五條第五十五條(共謀ノ點ニ付同法第六十條適用)ニ該當スルトコロ被告人姜昌基ハ少年法第一條所定ノ少年ナルヲ以テ同法第八條ヲ適用シタル上各處斷刑期範圍内ニ於テ被告人姜昌基ヲ一年以上二年以下ノ懲役ニ(中略)處スヘク刑法第二十一條ニ依リ被告人兩名ニ對シ原審ニ於ケル未決勾留日數中各二十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理 由

辯護人佐藤元吉、小西平吉、白島正造上告趣意書第一點被告人ハ少年法ヲ適用スヘキ者ナルコトハ明瞭ニシテ少年トシテ寧ロ保護訓戒スヘキ事案ナルコト疑ナシ而シテ第一審ニ於ケル昭和十五年六月六日ノ第二回公判期日ニ於テ白島辯護人ヨリ左ノ事實ヲ申述シタルコトハ該調書ニ明記サレアリ「被告人昌基ノ關係ニ於テハ被告人ノ實父又ハ親族カ被害者ニ謝罪シ被害品ノ大部分カ被害者ノ手ニ戻リ居リ被告人ニ對シ宥恕ノ氣持ニアルコトヲ立證スト述ヘテ上申書一通ヲ提出シ本書面ハ記錄ニ編綴ヲ乞フ旨陳述シ云々(中略)判事ハ辯護人提出ノ書面ハ檢事ニ示シタル上記錄ニ編綴スト告ケタリトアリテ被害ノ尠ナルコトヲ窺知スルニ足ル本件ハ竊取ノ時ニ犯罪カ成立スルコトハ論ヲ俟タスト雖モ已ニ被害品カ取戻サレ父母親戚カ謝罪ノ上被害者カ宥恕ノ意思明白ナル場合ニ於テハ強テ實刑ヲ科シテ改悛セシムル必要ナキモノト信ス而モ少年法ヲ適用スヘキ犯罪ナル以上ハ却テ家庭ニ於テ保護監督ヲ爲スヲ以テ改過遷善ノ實ヲ舉クルニ適合スト信スルカ故ニ寧ロ刑ノ執行猶豫ヲ宣告シテ國法ノ恩威併行ヲ知ラシムルコトヲ痛感スル處ナリト謂ヒ」第二點原審摘示ノ公判調書ニ依レハ被告人ノ犯罪ノ動機ハ貧シキ家庭故小遣錢ノ不足ヨリ森口一夫ニ誘引セラレテ萬引ヲ爲シタルヲ手始トシ萬引ノ件ハ住吉署ニ四十日間ノ留置處分ニテ許サレタリトアリ其ノ後ニ於テ判示ノ第二事實第三事實ノ所爲ヲ敢行

シタルカ故ニ行爲ノ外形ヨリ判斷セハ惡質ナルカ如シト雖モ被告人ハ森口一夫ト共ニ行動ヲ爲シ單獨
 犯行ニ出テタルコトナク森口ト雖モ所謂少年法ニ問擬サルヘキ智慮淺薄ノ者ナリ而シテ原審調書ニハ
 「取ツタ品ハ皆小山カ入質シマシタ六回テ十五圓位ノ分前ニナリ夫レテ私等ハ飲食シタリ活動寫眞ノ
 見物ヲ致シマシタ」トノ自供アリテ全ク思慮分別ヲ缺キ低能ニ近キ所爲ナリト信ス殊ニ原判示第三事
 實ノ山本市三郎方ヨリ竊取セル「セルズボン」一枚外一點時價合計三十三圓三十錢ノ物品ニ付テハ
 「箱ノ横ニ捨テテ逃ケマシタ」ト自供セルヲ以テ盜品ヲ所持セサルコト明白ナリ更ニ同第二事實ノ井
 筒誠造方ヨリ菓子類合計二圓三十錢ノ盜品ハ「森口ト二人テ分テ食ヘテ仕舞タノテス」ト自供セルニ
 至リテハ如何ニモ無邪氣ニシテ一點ノ飾氣ナク兒戲ニ類スルト云フモ過言ニ非スト信ス故ニ結局入質
 セルハ第二事實ノ(一)ニシテ合計金八十二圓五十錢位ノ物品ニ過キスシテ前叙ノ如ク各分前カ僅カ
 十五圓ニ過キストセハ寔ニ毘諒スヘキ所爲ナリ原審公判ニ於テ「惡イ事ヲシタト思フテ居リマス今後
 ハ決シテコンナ事ハ致シマセヌ」ト悔悟ノ情ヲ申述シアリテ明ニ執行猶豫ノ恩命ニ浴スヘキ性質ノ犯
 行ナリト信スト謂ヒ」第三點原審判決ニヨル相被告廣本利治ニ對シテハ少年法ヲ適用セスシテ懲役一
 年ノ宣告アリ翻テ本被告人姜昌基ハ十八歳ニ滿タサル少年ナル故ニ少年法第一條同第八條ヲ適用シテ
 一年以上二年以下ノ懲役ニ處スル宣告アリ然ラハ此ノ少年ニ對シテハ或ハ一年半最高二年迄ノ處刑モ
 可ナル解釋トナル可シ斯クテハ少年法ニ依ラサル廣本利治ト權衡ヲ失スヘク折角國家カ少年ノ保護訓

戒ヲ目標ニ制定シタル該法ノ精神ヲ没却スルモノト謂フヘシ故ニ若シ情狀ニ於テ被告昌基ヲ重シト觀
 ルトセハ此レ等ノ諸點ヲ考量シテ以テ執行猶豫ノ宣告ヲ爲スヘキモノトスト謂ヒ」第四點原判示ノ法
 律適用ヲ閱スルニ被告人ニ對シテハ「少年法第一條所定ノ少年ナルヲ以テ同法第八條ヲ適用シタル上
 各所斷刑期範圍内ニ於テ被告人姜昌基ヲ一年以上二年以下ノ懲役ニ」ト宣告セラレタリ然ルニ右適用
 セル少年法第八條ニ依レハ「少年ニ對シ長期三年以上ノ有期懲役又ハ禁錮ヲ以テ處斷スヘキトキハ其
 ノ刑ノ範圍内ニ於テ短期ト長期トヲ定メ之ヲ言渡ス」トアリテ少年ニ對シ長期三年ヲ越ユル有期懲役
 ヲ以テ處斷スヘキトキトノ法意ハ三年以上ノ刑ヲ宣告スヘキ場合ニハ其ノ長期ト短期トヲ定メテ伸縮
 自在ナラシムル趣旨ナリトス之レ少年ノ智慮淺薄行狀浮動ナルカ故ニ其ノ間ノ假出獄ノ便宜及改悛ノ
 情顯著ノ場合ヲ豫想シタル制度ナリト信ス故ニ何レモ長期三年以上ノ處斷ニ値スル罪態情狀ヲ具備ス
 ル場合ナラサル可カラス本件ハ第三點ニ論述ノ如ク相被告人廣本利治ヨリ重ク罰ス可キモノニ非スシ
 テ右廣本ハ一年ノ有期懲役ニ過キサルニ不拘本件被告人昌基ヲ三年以上ノ有期懲役ニ處斷スルコトヲ
 前提トシテ原判示ノ如キ宣告ヲ爲シタルハ明ニ法律ノ適用ヲ誤解シタルモノト信ス即チ右同法第八條
 ハ刑法ノ長期法定刑ニ依ラスシテ「處斷スヘキトキ」トシ宣告刑ヲ規定シタルカ故ニ原判示ノ如ク最
 長二年以下ノ處罰ニハ適用ナキモノトス他面刑法第十二條ニハ「有期懲役ハ一月以上十五年以下トス」
 ト規定シ本件竊盜罪ノ刑法第二百三十五條ニハ「十年以下ノ懲役ニ處ス」ト定メタルカ故ニ實際ノ宣

告刑ニハ一月以上十年以下ノ範圍内ニ於テ處罰シ得ヘキカ故ニ假リニ法定刑ニ依ルトスルモ三年以上ノ處刑ノ場合ニ該當セス何レヨリ觀察スルモ原審ハ刑罰ノ適用ヲ誤判セリ寧ロ第三點記述ノ如ク相被告ノ廣本利治ト比較セハ少年法ノ精神ヲ斟酌シテ一年以下ノ宣告ヲ適當トシ更ニ情狀家庭ノ現況ヤ被告ノ性質等ヲ考覈シテ執行猶豫ノ恩典ニ浴セシムルコトハ刑事政策上尤モ當ヲ得タルモノト信スト謂ヒ」第五點被告人姜昌基ノ家庭ハ頗ル平和ニ暮スモノナリ父母健在ニシテ父モ勞働ニ服シ妹ハ女工トシテ收益アリ被告人ハ目下鐵工場ニ旋盤工トシテ毎月五十圓ノ收入アリ酒ヲ好マス煙草ハ少量女遊ヒヲ爲サス只タ少年氣鋭ノ餘リ誘ハレテ喫茶店ニ出入スルコトアルノミ映畫ヲ好ムハ當節少年ノ流行ニシテ敢テ咎ムヘキモノニアラス尋常小學ヲ終テ孜々トシテ平和産業ニ從事スルモノナリ而シテ本件發生以來父母兄弟ハ心痛此ノ上ナク或ハ貧困ノ中ヨリ辨償ヲナシ謝罪ヲ爲ス等只スラ被告人カ寛大ナル處刑ヲ受クルコトノミ神佛ニ祈リ居レリ而シテ別紙添附ノ證第一號證一乃至六號ハ義務教育終了ノ證書證第二號證一乃至三號ハ精勤證書證三號ノ一、二ハ被告人ノ母妹ノ聽取書ニシテ親子兄弟ノ切々ナル情ヲ遺憾ナク開陳シ居リ且ツ被告人ハ毎月ノ工賃ヲ殆ント父母ニ提供シテ居リ只タ惡友ニ誘ハレ心ニモナキ一時ノ迷ヒヨリ深入リシテ本件ヲ惹起セルコト性質ハ溫良ナルコト妹モ亦何卒許シテ下サイ等真心ヨリ兄ナル被告人ヲ思フノ心情ヲ流露セリ證第四號證ハ解放ト同時ニ雇傭ヲナシ家庭ハ協力シテ業務ニ從事セシムル承諾書ニシテ將來ノ生活保證アルコト證第五號證一乃至四ハ父母友人ニ

發信セル被告ノ改悛ノ情明白ナルコトノ證明事實ニシテ此等ヨリ觀ルモ被告人ノ將來ハ再犯ノ虞毫モナク寧ロ本件ノ爲メ拘束苦難ノ生活ヲ送り自己ノ不敏ト輕舉ヲ後悔セリ如斯少年ニ對シテハ實刑ヨリモ執行猶豫ヲ爲シテ正業ニ就カシムルコソ刑法ノ目的ヲ達スル所以ニシテ惡質ノ點ヲ見出し得ス却テ將來ヲ訓戒スルヲ至當ト信ス法律ノ手續上少年審判ヲ仰ク能ハサルモ少年法ノ目的ト刑事政策ノ上ヨリ斯ル少年ハ溫ク保護ヲ爲シテ然ル可キモノナリ猶ホ共犯ト見ラルヘキ他ノ被疑者カ起訴猶豫處分ヲ受ケタルモノ數名アリ之レハ檢察當局ノ權限ニ屬スルモ當被告人ヨリハ惡性ナルヲ疑フモノナリ依テ本件被告人ハ實刑ヨリ執行猶豫ヲ宣告スルヲ最良適切ノモノト信スル次第ナリト謂フニ在リ

【要旨】

因テ案スルニ少年法第八條ニ所謂長期三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ以テ處斷スヘキトキトハ一定ノ犯罪ニ對シ有期ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ヲ以テ處斷スヘキ場合ニ於テ法律上又ハ裁判上ノ加重減輕ヲ爲スヘキ事由アルトキハ法定刑ニ其ノ加重減輕ヲ施シタル結果トシテ生スル刑ノ長期カ三年以上ナル場合又ハ其ノ加重減輕ノ事由ナキトキハ其ノ法定刑ノ長期カ三年以上ナル場合ヲ指稱スルモノニシテ所論ノ如ク現實ニ言渡スヘキ刑所謂宣告刑ノ長期カ三年以上ナルコトヲ要スル趣旨ニアラス從テ原判決カ被告人ノ判示所爲ニ對シ刑法第二百三十五條等ヲ適用シ少年法第八條ニ則リ一年以上二年以下ノ懲役刑ヲ言渡シタルハ適法ニシテ所論ノ如ク法律ノ適用ヲ誤リタル瑕疵アルコトナシ而シテ記錄ニ就キ被告人ノ犯情等諸般ノ事情ヲ參酌考量スルモ原判決ノ科刑甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由

アルコトナシ論旨孰レモ理由ナシ

以上ノ理由ニ據リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ從ヒテ主文ノ判決ヲ爲ス
檢事下田勝久關與

○輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反被告事件

(昭和十五年(れ)第一〇七四號
同年十一月七日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 合名會社佐竹商店 辯護人 澤邊金三郎
佐竹 昌 勇
【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

昭和十三年商工省告示第二百八號ノ性質

○判決要旨

昭和十三年商工省告示第二百八號ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置
ニ關スル法律ノ委任ニ依ルモノニシテ法令ノ制定行爲ニ屬シ行政
處分ニ非ス

【參照】 輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條 政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲メ必要アリト認ムルトキハ輸入ノ制限其ノ他ノ事由ニ因リ需給關係ノ調整ヲ必要トスル物品ニ付左ノ措置ヲ爲スコトヲ得

- 一 命令ノ定ムル所ニ依リ當該物品ヲ原料トスル製品ノ製造ニ關シ必要ナル事項ヲ命シ又ハ制限ヲ爲スコト
- 二 當該物品又ハ之ヲ原料トスル製品ノ配給、讓渡、使用又ハ消費ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコト

(以下省略)

昭和十三年商工省令第五十六號第一條 商工大臣ノ指定スル物品ヲ販賣スル者ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス其ノ指定ノ前日ニ於ケル販賣價格ヲ商工大臣又ハ地方長官カ販賣價格ヲ指定シタルトキハ其ノ販賣價格ヲ超ユル對價ヲ以テ當該物品ヲ販賣(指定前ニ爲シタル契約ニ依リ引渡ヲ含ム)スルコトヲ得ス但シ輸出スル場合取引所ニ於テ賣買スル場合及已ムヲ得サル事由ニ依リ卸賣ニ付テハ商工大臣、小賣ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限リニ在ラス

(以下省略)

昭和十三年商工省告示第二百八號 物品販賣價格取締規則第一條ノ規定ニ依リ物品及年月日ヲ左ノ通指定シ昭和十三年七月商工省告示第八十六號及第九十四號ハ之ヲ廢止ス

昭和十三年七月二十八日

商工大臣 池田成彬

物品

年 月 日

- 一 綿、ステイプルファイバ、羊毛、山羊毛又ハ駱駝毛
 原料トシテ製造シタル絲、人造絹絲織物(フェルトヲ含ム)莫大小及製綿並ニ之ヲ原料トシテ製造シタル紐、繩、網、布帛製品、衣類、衣類附屬品、ベルト及ホトス但シ綿絲販賣價格取締規則、ステイプルファイバ及ステイプル、ファイバ、絲販賣價格取締規則又ハ人造絹絲販賣價格取締規則ノ適用ヲ受クルモノヲ除ク
- 二 皮革製品
- 三 麻製品
- 四 輸入材及其ノ製品
- 五 コム製品
- 六 松脂
- 七 セルラツク
- 八 アラピヤコム
- 九 桐油
- 十 カイホンプラツク
- 十一 亞鉛華
- 十二 鉛丹

- 昭和十三年六月三十日
- 昭和十三年七月八日
- 昭和十三年七月八日
- 昭和十三年七月八日
- 昭和十三年七月八日
- 昭和十三年七月八日
- 昭和十三年七月八日
- 昭和十三年七月八日
- 昭和十三年七月八日
- 昭和十三年七月八日
- 昭和十三年七月八日
- 昭和十三年七月八日

昭和十三年商工省告示第二百八號ノ性質

七三九 (111)